取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。

取扱書は車の中に保管しましょう。

このたびは *BELTA* をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は**ベルタ**の取り扱いについてドライバーの動作にそって説明しています。
安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

・運転は交通ルール・マナーを守り、自然環境保護にも気をくばりましょう。
・メーカーオプションのHDDナビゲーションシステム、またはDVDナビゲーションシステムを装着された方は、別冊の取扱書も併せてお読みください。
・トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。
・装備については販売店でカタログをご請求ください。
・ご不明な点は担当営業スタッフにおたずねください。

●保証および点検整備については「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。
●トヨタ販売店の所在地および連絡先は、サービス網／お客様相談テレホン網として「メンテナンスノート」に記載しています。
●取扱書はいつでも見られるように、メンテナンスノートと共に車に大切に保管してください。
●車をゆずられるときは、次のユーザーのためにこの取扱書およびメンテナンスノートを車に付けておいてください。

車の仕様などの変更により、本書の内容が車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

本書の構成

本書は次の8章から構成されています。
とくに第1章の「安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと」は重要です。しっかりとお読みください。

第1章：安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので必ずお読みください。

第2章：基本操作早わかり

はじめてこの車にお乗りいただく方のために、基本操作を簡単に説明しています。

第3章：運転装置の取り扱い

スマートエントリー ＆ スタートシステム、ドアの開閉、シート、シートベルト、エンジンのかけ方、シフトレバー、メーター、スイッチなどの取り扱いを説明しています。

第4章：室内装備の取り扱い

エアコン、オーディオ、ＥＴＣ、室内装備品（サンバイザー、ルームランプなど）の取り扱いを説明しています。

第5章：安全・快適装備の解説と注意

ＳＲＳエアバッグ、ＡＢＳなど安全・快適装備についての機能説明と取り扱い上の注意を説明しています。

第6章：車との上手な付き合い方

季節による取り扱い、環境に配慮した経済的な運転方法などについて説明しています。

第7章：メンテナンス

車の手入れのしかたと日常点検について説明しています。

第8章：万一のとき

故障やパンクしたときなど、万一のときに必要な処置方法について説明しています。

表示について

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」や「車両の故障や破損につながるおそれがあること」と、その回避方法を下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、必ず読んで遵守してください。

記載事項をお守りいただかないと、重大な傷害や事故・車両火災におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあること

 注意

記載事項をお守りいただかないと、傷害、車両の故障や破損につながるおそれがあること

その他の表示

「知っておくと便利なこと」、「知っておいていただきたいこと」を下記の表示で記載しています。

 知 識

知っておくと便利なこと
知っておいていただきたいこと

イラストのマークについて

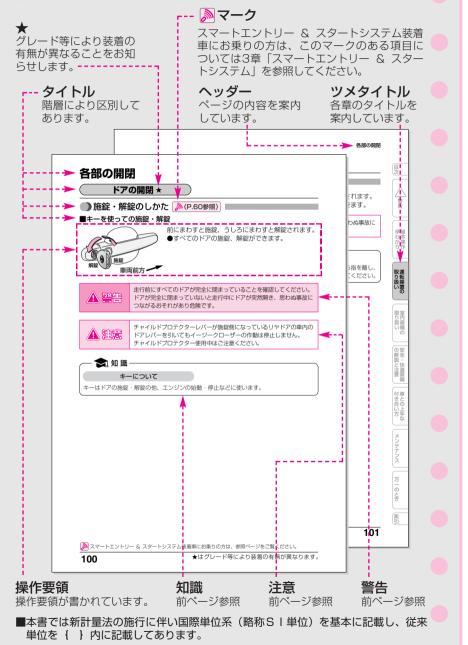
してはならない行為を示すイラストには下記のマークが記載されています。

してはならない行為

操作説明（3～8章）の見方

操作説明（3～8章）の基本的な読み方について説明しています。

■本書では新計量法の施行に伴い国際単位系（略称ＳＩ単位）を基本に記載し、従来単位を｛　｝内に記載してあります。

＊このページはサンプルですので記載内容は実際の車とは異なります。

検索方法について

本書ではお客様が知りたいことを素早くお読みいただけるよう、次のような工夫がしてあります。

タイトルからさがす 6

- 「目次」
- 「ツメタイトル」
- 「各章のはじめの目次」

取り付け位置からさがす 8

- 「イラスト目次」

名称からさがす 412

- 「五十音さくいん」

警告灯からさがす 420

- 「警告灯さくいん」

症状からさがす 412

- 「五十音さくいん」
  （色付き文字の項目）

目　次

イラスト目次

インストルメントパネル

＊装備のちがい、注文装備も含んでいます。

＊装備のちがい、注文装備も含んでいます。

イラスト目次

室　　内

＊装備のちがい、注文装備も含んでいます。

イラスト目次

車　両　外　観

＊装備のちがい、注文装備も含んでいます。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

1 安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

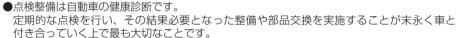
「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので必ずお読みください。

1.点検整備実施のお願い

点検整備を必ず実施してください。
実施していただかないと、重大な車両故障につながるおそれがあり危険です。

①点検整備を必ず実施してください。

●日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。
日常点検（P.355参照）や定期点検など、点検整備の詳細については「メンテナンスノート」をお読みください。
・定期点検は、安全の確保、公害防止の観点から、定期的に実施する点検です。
定期点検整備は、専用の整備機器、指定の油脂類、交換された部品・油脂類の適切な処理などが必要なため、トヨタ販売店にご相談ください。

●点検整備は自動車の健康診断です。
定期的な点検を行い、その結果必要となった整備や部品交換を実施することが末永く車と付き合っていく上で最も大切なことです。

●点検整備を実施しないと、例えばエンジンオイルの不足・劣化によりエンジン内部が焼き付きなどを起こすおそれがあります。また、ブレーキパッドやブレーキディスクなど、その役割を果たすと共に摩耗していく部品については、使用限度（摩耗限度）を超えての使用は故障を引き起こすばかりか、事故に結び付くおそれもあります。

●日常点検で異常があったり、車の調子が悪い場合には、トヨタ販売店にご相談ください。

2.お出かけ前の注意

お出かけ前に、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①窓ごしなど車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。

●思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。

②エンジンの始動操作をしたときに、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの作動表示灯が緑色に点滅したときは、絶対に車両を走行させないでください。（スマートエントリー & スタートシステム装着車）

●ステアリングロックが解除されていないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

③低水温表示灯が点灯しているあいだは、極端にアクセルペダルをあおらないでください。

●暖機不足の状態では、触媒装置が未燃焼ガスにより異常燃焼を起こし、損傷するおそれがあります。

●暖機は低水温表示灯が消灯すれば十分です。

④走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

●ドアが確実に閉まっていないと走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。なお、いずれかのドアが確実に閉まっていないときは半ドア警告灯が点灯します。

⑤フロントガラス前部の外気取り入れ口に雪、落ち葉などが付いているときは取り除いてください。

●外気が導入できず、車内の換気が十分できなくなり、雨天時など車内の湿度が上がり、ガラスが曇ったりして視界が悪くなるおそれがあります。

⑥停車中にハンドル位置を調整したときは、確実に固定されていることを確認してください。

●ハンドルの固定が不十分だと、走行中にハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

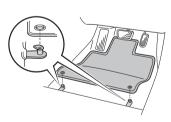
⑦運転席足元、運転席下にものを置かないでください。

●空缶などがあるとブレーキペダルやアクセルペダルに挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルがもどらなくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、シートの動きがさまたげられたり、シートが固定できず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧フロアマットはお車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。

●運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
・トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
・運転席専用のフロアマットを使用してください。
・付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。カーペットの穴は、トヨタ純正フロアマットのずれを防止するために使用する固定クリップ取り付け用です。固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をお読みください。

・他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
・フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。

●運転する前に、以下のことを確認してください。
・フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認を行ってください。
・エンジン停止およびシフトレバーがⓅの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

⑨助手席や後席に荷物を積み重ねないでください。

●急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに、荷物が飛び出して乗員にあたったり、荷物を損傷したり、荷物に気をとられたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●荷物はトランクに安定した状態（例えば、トランク前方に均等に）で置いてください。

⑩燃料が入った容器やスプレー缶などは積まないでください。

●万一のとき引火し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑪ボンネットを開けて作業などをしたときは、走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

●ロックせずに走行するとボンネットが開いて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑫次の場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●いつもと違う音や臭いや振動がするとき
●ハンドル操作に異常を感じたとき
●ブレーキ液が不足しているとき
●地面に油のもれたあとが残っているとき
●メーター・表示灯・警告灯、ランプ類に異常があるとき

⑬お酒を飲んでの運転は絶対にしないでください。

●飲酒運転は法律で禁止されています。
●飲酒運転は非常に危険で、ごく少量のアルコールでも判断力・視力・注意力に影響をおよぼし、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

⑭エンジンルーム内および車体床下に、ネコやネズミなどの小動物がいないことを確認してください。

●エンジン始動時、ファンやベルトに小動物が巻き込まれたりして、機能不具合の原因となるおそれがあります。

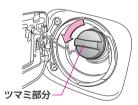
3.燃料補給時の注意

燃料を補給するときは、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①指定以外の燃料を使用しないでください。

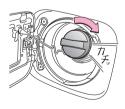
●指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
●指定以外の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

②燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、燃料に引火してやけどなどの重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●エンジンは必ず停止してください。
●車のドア、窓は閉めてください。
●タバコなど火気を近付けないでください。
●フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分にふれて、体の静電気除去を行ってください。体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。
●フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。
気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
フューエルキャップを少しゆるめたときに“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。
その音が止まってからゆっくり開けてください。

●給油中、再び車内のシートにもどったり、帯電している人やものにふれないでください。
（再帯電することがあります）
●給油口には静電気除去を行った方以外を近付けないでください。
●給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
●給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と一度音がするまで右にまわしてください。手を離すと若干もどります。

●車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
●その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項をお守りください。正常に給油ができない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

③給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。

●燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますので、ご注意ください。

4.走行するときの注意

走行するときは、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①走行中はエンジンを停止しないでください。

●エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置が働かず、ブレーキの効きが悪くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●走行中、誤って " エンジン スタート ストップ " スイッチを押し続け、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。（スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車）

②走行中はハンドル位置やミラー、運転席シートの調整はしないでください。

●調整中に運転を誤ったり、シートが突然動くなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

③ドアミラーを倒したまま走行しないでください。

●ドアミラーによる後方確認ができず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

●運転中、アクセルペダルを踏んでいるときにブレーキペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

⑤ブレーキペダルに足を乗せたり、パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。

●ブレーキパッドが早く摩耗したり、ブレーキが過熱しブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥下り坂ではエンジンブレーキを併用してください。

●ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。

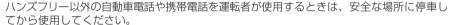
⑦車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。

●エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置が働かず、ブレーキの効きが悪くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●パワーステアリングモーターが、過熱により損傷するおそれがあります。
●停車中や微低速走行中にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけたまま保持すると、モーターやコンピューターの過熱を防ぐため、パワーステアリング制御が制限されハンドル操作が重くなります。この場合は、しばらくハンドル操作を控えてください。ハンドル操作をしないまま約10分が経過すると、通常の重さにもどります。

⑨ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者は運転中に使用しないでください。

●ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が運転中に使用することは法律で禁止されています。
●電話をかけるときや、電話がかかってきたときに、注意が電話機に向いてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が使用するときは、安全な場所に停車してから使用してください。

⑩大きな段差がある場所では慎重に走行してください。

●次のような場所を走行するときは、バンパーを損傷するおそれがありますので、スピードを落として慎重に走行してください。
・駐車場の出入り口などの段差のある場所を通過するとき
・輪止めなどのある場所や、路肩に沿って駐停車するとき
・立体駐車場のスロープなど勾配が急な場所を走行するとき
・凹凸やわだちのある道を走行するとき
・くぼみ（穴）などを通過するとき
・平坦な道から上り坂・下り坂に進入するとき、または上り坂・下り坂から平坦な道に進入するとき

⑪ぬれた路面や積雪路、凍結路などのすべりやすい路面では、とくに慎重に走行してください。

●すべりやすい路面での急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車を制御できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●シフトアップ、シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●寒いとき、橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。
●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため慎重に走行してください。

⑫冠水した道路は走行しないでください。

●冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。
万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
・ブレーキの効き具合
・エンジン、トランスミッション、トランスファー（4WD車）、ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますのでオイルの交換が必要です）
・プロペラシャフト（4WD車）、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

⑬湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合、オートエアコン装着車は、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。マニュアルエアコン装着車は、吹き出し口切り替えダイヤルを にしないでください。

●外気とウインドゥの温度差でウインドゥ外側表面が曇り、視界をさまたげる場合があります。

⑭スタック※したときは

●スタックからの脱出をこころみるときは、必ず周囲の安全を十分に確認してください。脱出の勢いで、ものを損傷させたり、人身事故を引き起こすおそれがあり危険です。
●タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品（ディファレンシャルギヤ等）の異常過熱により、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●スタックからの脱出のために、やむを得ず前進・後退を繰り返すときは、トランスミッションやディファレンシャルギヤなどに損傷を与えるおそれがあるため、次のことに注意してください。
・シフトレバーを🅓または🅡に確実に入れてから、アクセルペダルを軽く踏んでください。また、シフトレバー操作中は絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
・過度の空ぶかしやタイヤの空転をさせないでください。
・過度にタイヤが空転した場合には、エンジン回転が低くなってから徐々にブレーキ操作をしてください。
・数回行っても脱出できないときは、本操作を中止してください。
●スタック脱出には、次の方法が有効です。
・タイヤ前後の土や雪を取り除く
・タイヤの下に木や石などをあてがう
●けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。無理にけん引せず、トヨタ販売店やＪＡＦなどに依頼してください。

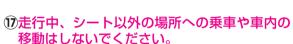
※ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。

⑮半ドア警告灯が点灯したまま走行しないでください。

●ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが開き、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑯洗車後や水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

●ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

⑰走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体が飛ばされ頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑱窓から手や顔を出さないでください。

●走行中、手や顔を出していると、車外のものなどにあたったり、急ブレーキ時に頭を窓枠にぶつけたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑲ドアガラスを開けるときや閉めるときは、他の人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込まないように注意してください。

●ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりして、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑳収納ボックス（P.283参照）のフタを開けたまま走行しないでください。

●急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

㉑収納ポケット（P.284参照）に転がりやすいものや凹面より高さのあるものを収納しないでください。

●急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

㉒ウインドゥガラスにアクセサリーを取り付けたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上にものを置いたまま走行しないでください。

●運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に安全運転のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

㉓走行中はドアレバーを引かないでください。

●走行中はドアレバーを引かないでください。
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

5.走行中、異常に気付いたら

走行中、異常に気付いたら、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①警告灯が点灯・点滅したら、安全な場所に停車し、ただちに処置してください。

●点灯・点滅したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。警告灯の内容を確認し適切な処置をしてください。
（P.197参照）

②ブレーキ警告灯が点灯したまま、走行し続けないでください。

●警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。
・エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき
この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
効きが悪いときはブレーキペダルを強く踏んでください。

ブレーキ警告灯

③エンストしたときは、落ち着いて操作してください。

●エンストしたときは、ブレーキ倍力装置の油圧装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったりします。
この場合は、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れて操作し、周囲の安全を確かめ、路肩に寄せて停車してください。

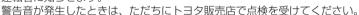
④走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）しても、あわてず対応してください。

●ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキや急ハンドルは、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
●次のようなときは、パンクやバーストが考えられます。
・ハンドルがとられるとき
・異常な振動があるとき
・車両が異常に傾いたとき
●パンクしたまま走行しないでください。
パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイールやサスペンション、車体に損傷を与えるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。

⑤車体床下やタイヤ・ディスクホイールに強い衝撃を受けたら、ただちに安全な場所に車を止めて、下まわりを点検してください。

●ブレーキ液や燃料がもれたり、サスペンション部品、タイヤ・ディスクホイール、駆動系部品などの変形や損傷の可能性があるため、そのままの状態で使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●もれや損傷が見つかった場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店にご相談ください。

⑥走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●警告音は、ブレーキパッドウェアインジケーターによるもので、走行中に警告音（“キーキー”という金属音）を発生させ、ブレーキパッドが使用限度に近付いたことを運転者に知らせます。
警告音が発生したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
●警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキのパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、次のことをお守りください。

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、キーは絶対に抜かないでください。キーを抜くとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

6.駐停車するときの注意

**駐停車するときは、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、必ずエンジンを停止し、施錠してください。

●車から離れるときは、必ずエンジンを停止し、施錠することが法律で義務付けられています。また車両盗難や車内のものを盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。
●車から離れるときは、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、車が無人で動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
・シフトレバーをⓅに入れる
・パーキングブレーキをかける
・エンジンを停止する
・ドアを施錠する

②可燃物付近に車を止めないでください。

●車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると火災につながるおそれがあり危険です。
●木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を、十分離して止めてください。すき間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災につながるおそれがあり危険です。
●枯れ草や紙くずなど燃えやすいものの上を走行したり、車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

③寒冷時、パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。（P.324参照）

●輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④停車中に空ぶかしをしないでください。

●排気管が過熱し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤炎天下で駐車するときは、メガネやライター、スプレー缶、炭酸飲料の缶などを車内に放置したままにしないでください。

●車内が大変高温になるため、ライターやスプレー缶のガスが自然にもれたり、破裂したりして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●炭酸飲料の缶が破裂したりして室内をよごしたり、電気部品のショートの原因となるおそれがあります。
●車内が大変高温になるため、プラスチックレンズやプラスチック素材のメガネの変形、ひび割れを起こすことがあります。

⑥仮眠するときは、必ずエンジンを停止してください。

●エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車の急発進による事故や、エンジンの異常過熱による車両火災につながるおそれがあり危険です。
また、排気管が損傷していたり、風通しの悪い場所では、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

7.排気ガスに対する注意

**排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれています。誤って排気ガスを吸い込まないようにするため、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①換気が悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。

●車庫内など囲まれた場所では、排気ガスが充満し排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

②雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

●エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

③排気管はときどき点検してください。

●排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●排気管は、排気ガスにより高温になります。点検などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあり危険です。

④トランクを開けたまま走行しないでください。

●開けたまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に、必ずトランクが閉まっていることを確認してください。

⑤車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら、次の処置をしてください。

●すべての窓を全開にして新鮮な外気を車内に入れてください。
●すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま放置すると、排気ガスにより、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

8.お子さまを乗せるときの注意

**お子さまを乗せるときは、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①お子さまはリヤシートに座らせてください。

●助手席ではお子さまの動作が気になり運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置にふれて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●お子さまをリヤシートに座らせたときは、チャイルドプロテクターをご使用ください。お子さまが誤って車内からドアを開けることを防止できます。
チャイルドプロテクターの使用方法はP.126を参照してください。

②お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。

●ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●リヤシートでも必ずシートベルトを着用してください。(P.154参照)

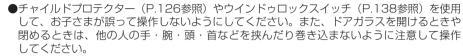
●シートベルトの肩部ベルトが首やあごにあたったり、腰部ベルトが腰骨にかからないような小さなお子さまには、お子さまの体に合った子供専用シートをご使用ください。子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。

③お子さまをシートベルトで絶対に遊ばせないでください。

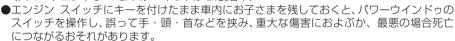
●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

④ドア、ドアガラスなどは、お子さまに操作させないでください。

●お子さまが操作すると、閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドプロテクター（P.126参照）やウインドゥロックスイッチ（P.138参照）を使用して、お子さまが誤って操作しないようにしてください。また、ドアガラスを開けるときや閉めるときは、他の人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込まないように注意して操作してください。

⑤車から離れるときは、お子さまを車内に残さないでください。

●炎天下の車内は大変高温となり、お子さまを残しておくと、熱射病や脱水症状となり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●お子さまを残しておくと、マッチ・ライター・発炎筒の火遊びによる車両火災につながるおそれがあり危険です。

●電子キーを車内に置いたまま、お子さまを残しておくと、パワーウインドゥのスイッチを操作し、誤って手・頭・首などを挟み、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、運転装置を動かして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。絶対に電子キーを車内に置いたまま、お子さまを車内に残さないでください。
（スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車）

●エンジン スイッチにキーを付けたまま車内にお子さまを残しておくと、パワーウインドゥのスイッチを操作し、誤って手・頭・首などを挟み、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、運転装置を動かして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。絶対にキーを付けたままお子さまを車内に残さないでください。
（スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車）

⑥トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。

●トランクは中から開けることができません。閉じ込められると、熱射病などにより、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。トランクには人を絶対に乗せないでください。

1.シートについての注意

シートについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①シートは正しい運転姿勢がとれるように位置を調整してください。

●正しい運転姿勢をとらないと、運転操作を誤り思わぬ事故につながるだけでなく、シートベルト、ＳＲＳエアバッグ、ヘッドレストなどの効果が発揮されず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
正しい運転姿勢についてはP.144をお読みください。

②シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。

●固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③走行中はシートの操作をしないでください。

●ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

④フロントシートの下にものを置かないでください。

●ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。
また、ロック機構の故障の原因になります。

⑤背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。

●必要以上に背もたれを倒していると、衝突または追突されたとき腰部ベルトが腰骨からずれ、体がシートベルトの下にもぐり込み、強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑥背もたれと背中のあいだにクッション(座布団)などを入れないでください。

●正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑦ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

●衝突したときなどに首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
・フロントシートのヘッドレスト
ヘッドレストの中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
・リヤシートのヘッドレスト
ヘッドレストを使用するときは、常に格納位置（ヘッドレストが最も下がった位置）から、“カチッ”と音がするまで上げた位置にしてください。また、ヘッドレストを押し下げ、確実に固定されていることを確認してください。

⑧ヘッドレストはそれぞれのシート専用です。取り付けるときは“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。

●ヘッドレストは間違って取り付けると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑨リヤシートを操作するときは、次のことをお守りください。（分割可倒式シート装着車）

●リヤシートを操作するときは、必ず平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをⓅに入れてください。不整地や傾斜地では操作中に不意にリヤシートが動き、手足などを挟まれ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●走行中はリヤシートを操作しないでください。
ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●倒した背もたれの上やトランクに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●お子さまがトランクに入らないように注意してください。ボディの突起にあたるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●背もたれをもとにもどしたときは、リヤシートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にリヤシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●リヤシートを操作するときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷付くおそれがあり、傷付いたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑩フロントシートにはＳＲＳサイドエアバッグが内蔵されていますので、取り扱いに注意してください。（ＳＲＳサイドエアバッグ装着車）

●不適切に扱うと正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑪快適温熱シートを使用中、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので、十分注意してください。（快適温熱シート装着車）

●次に相当する方が使用される場合は、使用中、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので、十分注意してください。
・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用された方
●毛布や座ぶとんなど保温性の良いものをかけた状態で使用しないでください。シートが異常に過熱し、低温やけどやシートの故障につながるおそれがあり危険です。
●仮眠するときは使用しないでください。シートが異常過熱し、低温やけどをするおそれがあります。

2.子供専用シートについての注意

**子供専用シートについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①車のシートベルトが正しく着用できない小さなお子さまには、体に合った子供専用シートに座らせてください。

●乳児は、頭や首を含め完全な安全保護サポート（ベビーシート）が必要です。乳児の首は安定していなくて、また頭は他の部分に比べてきわめて重いからです。乳児は、必ず適切なベビーシートに座らせてください。
●幼児の体形は、シートベルトの設計対象となっている大人とは異なっています。幼児の骨盤は小さく、通常のシートベルトでは骨盤の低い位置にとどまらず、腹部にかかってしまいます。衝突した場合、シートベルトによって腹部に強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
幼児は必ず適切な子供専用シートに座らせてください。

②ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシートをご使用になるときは、必ず商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってご使用ください。

●使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、子供専用シートが正しく機能せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシートについては、トヨタ販売店にご相談ください。
●子供専用シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。

③子供専用シートは確実に固定できるように取り付けてください。

子供専用シートは、取り付け位置や取り付け方向に注意をして確実に取り付けてください。取り付けが不適切な場合、急ブレーキや衝突したときなどに、子供専用シートが正しく機能せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■子供専用シートはリヤシートに取り付けてください。

●運転席側リヤシートで、運転席の位置により安全に取り付けられる十分なスペースが確保できない場合は、子供専用シートを無理に取り付けず、助手席側リヤシートに取り付けてください。

安全装備について

■助手席には、子供専用シートをうしろ向きに絶対に取り付けないでください。

●うしろ向きに取り付けた場合、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。
助手席側のサンバイザーに同内容の警告文が表示されています。併せてご覧ください。

⚠ 警　告　　助手席SRSエアバッグ

このシートに、ベビーシートを取り付けたり
後向きのチャイルドシートを取り付けないでください。
また、絶対にお子さまを前席の前に立たせたり
膝の上に抱いたりしないでください。

エアバッグの衝撃により、死亡または重大な傷害に
至るおそれがあります。

●やむを得ず助手席に前向きに子供専用シートを取り付ける場合には、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの衝撃を少しでも緩和させるため、助手席シートの前後位置調整をいちばんうしろにして取り付けてください。
お守りいただかないと、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、お子さまに強い衝撃が加わり危険です。

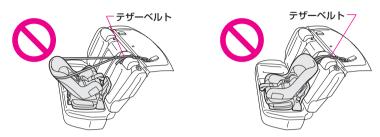
■ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカーで固定するチャイルドシート・ベビーシートを取り付けるときは、固定専用バーおよびアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。

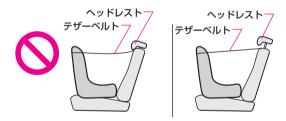
●異物やシートベルトなどをかみ込むとチャイルドシート・ベビーシートが固定されず、衝突したときなどに飛ばされて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシート・ベビーシートを取り付けるときは、必ずテザーベルトがピンと張るまで張力をかけてください。

●テザーベルトが正しく張っていないと、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■チャイルドシート・ベビーシートをお子さまがうしろを向くように取り付ける場合は、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。また、お子さまが前を向くように取り付ける場合は、必ずヘッドレストを取りはずしてください。

●ヘッドレストの上にかけると、チャイルドシート・ベビーシートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■チャイルドシート・ベビーシートをお子さまがうしろを向くように取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

●ヘッドレストを下げると、テザーベルトがヘッドレストにあたってたるみ、衝突したときなどにチャイルドシート・ベビーシートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

④子供専用シートを車両に搭載するときは、以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。

●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、トランク内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

3.シートベルトについての注意

シートベルトについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

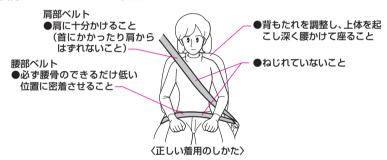
①車に乗るときは、全員がシートベルトを正しく着用してください。

シートベルトを着用しなかったり、正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体がシートに保持されず、体をぶつけたり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。また、車外に投げ出されたりして、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトの着用は法律で義務付けられています。運転者は乗員全員が次の使用方法に従って、シートベルトを正しく着用しているかを確認してから走行してください。

■シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰かけた状態で着用してください。

正しい姿勢についてはP.144を参照してください。

〈正しい着用のしかた〉

■肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。

●シートベルトの肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるように着用してください。
●ベルトを通す位置が間違っていると、衝突時に腹部などに強い圧迫を受け危険です。

■アジャスタブルショルダーベルトアンカーを確実に調整してください。（P.158参照）

●シートベルトが首にあたらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。
●調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

■シートベルトの腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。

●シートベルトの腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したとき、腹部などに強い圧迫を受け危険です。

■シートベルトは必ず1人で1本のベルトを着用してください。

●2人以上で1本のシートベルトを着用すると、シートベルトが衝撃を分散できないばかりか、2人がぶつかり合うなどして危険です。

②妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

●妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
　また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

●ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

③疾患のある方も必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

④シートベルトはねじれやゆるみがなく確実にロックされた状態で着用してください。

正しい運転姿勢でもシートベルトがねじれていたり、ゆるんでいたり、確実にロックをしていない場合には、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができず危険です。

●ベルトがねじれている場合は、正しく装着できるようほどいてください。
ねじれがうまくほどけない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■リヤシート左右席の3点式シートベルトを使用するときは、ベルトガイドにシートベルトが通っていることを確認してください。

●ベルトガイドからシートベルトがはずれていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■洗濯ばさみやクリップなどでシートベルトにたるみを付けて使用しないでください。

●肩部ベルトがゆるすぎると、衝突の際、ベルトで体が拘束されるまでの移動量が大きくなり、ベルトが胸部などを圧迫して危険です。また、頭をハンドルにぶつけたり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け、危険です。

■プレートをバックルに挿し込むときは、プレートとバックルが“カチッ”と音がして確実にかみ合っていることを確認してください。

●異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトがはずれて危険です。

⑤シートベルトを損傷させたり、損傷したシートベルトは使用しないでください。

損傷したシートベルトをそのまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。挟まると傷が付くおそれがあり、そのまま使用すると危険です。

■ほつれ、すり切れができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐに交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷付いたシートベルトは使用しないでください。衝突したときなどに本来の機能が十分発揮できなくなります。

- ●そのまま使用すると、衝突のときなどに衝撃によりベルトが切れる可能性があります。また、正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。
- ●シートベルトが正常に機能しない場合は、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。

■シートベルトの改造や分解・取り付け・取りはずしなどをしないでください。

- ●衝突したときなどにシートベルトが正常に作動しなくなります。
  シートベルトの取り付け、取りはずし、交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

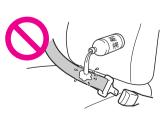
■プリテンショナー付シートベルトの改造や分解・取り付け・取りはずしなどはしないでください。

- ●プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがありますので、修理は必ずトヨタ販売店で行ってください。

■プリテンショナー付シートベルトが作動した場合は再使用しないでください。

- ●プリテンショナー付シートベルトが作動すると、SRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。強度が低下します。

- ●シートベルトの性能が低下し、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。
- ●清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

4.ＳＲＳエアバッグについての注意

ＳＲＳエアバッグについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

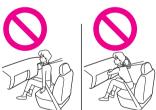
①ＳＲＳエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトにかわるものではありません。

正しい姿勢でシートに座り、シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときなどにＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させることができないばかりでなく、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
シートベルトの正しい着用についてはP.154をお読みください。

■シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中を付けた正しい姿勢でシートに座ってください。

●ＳＲＳエアバッグの展開部に覆いかぶさったり、近付きすぎた姿勢で乗車していると、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

《運転者の方は》
運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近付きすぎないようにして座ってください。

《助手席乗員の方は》
助手席ＳＲＳエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。
シートの調整、正しい姿勢についてはP.144をお読みください。

■ひざの上にものをかかえるなど、乗員とＳＲＳエアバッグのあいだにものを置いた状態で走行しないでください。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに、ものが飛ばされ顔にあたったり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動がさまたげられ危険です。

■ＳＲＳサイドエアバッグ装着車・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、ドアにもたれかかったり、フロント・センター・リヤピラーやルーフサイド部に近付かないようにしてください。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け危険です。とくにお子さまを乗せるときには注意してください。

■お子さまを助手席ＳＲＳエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに、強い衝撃を受け危険です。

②車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取り付け・分解・修理などをするときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
　不適切な作業を行うと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ危険です。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、フロントシートの表皮の張り替えやフロントシートの取りはずし・取り付け・分解・修理などが必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。

●ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、フロント・リヤピラーやルーフサイド部の取りはずし、取り付けなどＳＲＳカーテンシールドエアバッグ格納部周辺を分解・修理しないでください。

●サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわるとＳＲＳエアバッグが誤作動し危険です。

改造

●車両前部または車両客室部の修理をするときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。不適切な修理を行うとＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなり危険です。

③カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどで覆わないでください。
ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。

●インストルメントパネル上部に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに飛ばされるなどして危険です。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取り付けないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがＳＲＳサイドエアバッグ展開部を覆うと、ＳＲＳサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。
なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書を良くお読みになり、正しく取り付けてください。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取り付けないでください。ＳＲＳサイドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

●ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、フロントウインドゥガラス、サイドドアガラス、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどＳＲＳカーテンシールドエアバッグ展開部周辺に、アクセサリー、ハンズフリーマイクなどを取り付けないでください。ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに、飛ばされて危険です。

●ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、リヤ席アシストグリップ部のコートフックには、ハンガー・重いもの・とがったものをかけないでください。服をかけるときは、ハンガーを使用せずに直接コートフックにかけてください。ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

●無線機の電波などは、ＳＲＳエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあり、ＳＲＳエアバッグが誤作動するなどして危険です。無線機などを取り付けるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
●車両前部にグリルガードやウインチなどを装着する場合は、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をするとＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが誤作動するなどして危険です。

④ＳＲＳエアバッグ展開部を、強くたたかないでください。

●ステアリングパッド、インストルメントパネル上部、フロント・リヤピラー、ルーフサイド部、フロントシート側面などＳＲＳエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑤ＳＲＳエアバッグがふくらんだ直後は、ＳＲＳエアバッグ構成部品にふれないでください。

●構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

5.ＡＢＳ、ブレーキアシストについての注意

ＡＢＳ、ブレーキアシストについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①ＡＢＳやブレーキアシストを過信しないでください。

●ＡＢＳやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
ＡＢＳやブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分にとって、安全運転を心がけてください。
・ＡＢＳはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象※が起こった場合は効果を発揮できません。

※雨天の高速走行などで、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

●ＡＢＳは制動距離を短くするための装置ではありません。
次の場合などは、ＡＢＳの付いていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。
・砂利道、新雪路を走行しているとき
・タイヤチェーンを装着しているとき
・道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき
・凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき
●ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転を心がけてください。

6.ＶＳＣ ＆ ＴＲＣについての注意

ＶＳＣ ＆ ＴＲＣについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①ＶＳＣを過信しないでください。

●ＶＳＣが作動した状態でも、車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、ＶＳＣ作動警告ブザー（断続音）が鳴ったりスリップ表示灯（P.202参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

②ＴＲＣを過信しないでください。

●ＴＲＣが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、スリップ表示灯（P.202参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

1.オートマチック車についての注意

オートマチック車については、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①オートマチック車の特性

■クリープ現象

エンジンがかかっているとき、シフトレバーがⓅ、Ⓝ以外にあると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象をクリープ現象といいます。

■キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。
これをキックダウンといいます。(Super ＥＣＴ装着車)

②運転するときはブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。

●アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
●車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

③ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。

●左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④エンジンをかけるときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、エンジンをかけてください。

●安全のためシフトレバーはⓅに入れ、ブレーキペダルをしっかり踏みエンジンをかけてください。

⑤発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。

●とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などはクリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
●レバー操作は絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥走行中は、シフトレバーをⓃに入れないでください。

●Ⓝに入れると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●Ⓝに入れたまま長時間走行すると、オートマチックトランスミッション内のオイルの潤滑が悪くなり、故障するおそれがあります。

⑦走行中は、シフトレバーをⓅに入れないでください。

●オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧前進で走行中は、シフトレバーをⓇに入れないでください。

●車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。

⑨停車中は空ぶかしをしないでください。

●シフトレバーがⓅ、Ⓝ以外にあると車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩駐車するときは、シフトレバーをⓅに入れてください。

●Ⓟ以外にある場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪坂道などでは、シフトレバーをSuper ＣＶＴ－ｉ装着車はⒹ、Ⓢ、Ⓑ Super ＥＣＴ装着車はⒹ、❸、❷、またはⓁに入れたまま惰性で後退することは絶対にしないでください。

●同様にシフトレバーをⓇに入れたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

⑫その他にも、以下の点に注意してください。

●少し後退したあとなどは、シフトレバーがⓇにあることを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐⓃにもどすよう習慣付けましょう。
●切り返しなどでシフトレバーをⒹからⓇ、ⓇからⒹと何度もレバー操作をするときは、そのつどブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。またシフトレバーの位置も忘れずに確認してください。

2.Vフレックスフルタイム4WD車についての注意

4WD車については、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①無理な運転は禁物です。

●この車の4WD（Vフレックスフルタイム4WD）は、オンロード専用です。
オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性の確保を目的とした4WDですので無理な運転はしないでください。

②すべりやすい路面での走行は慎重に行ってください。

●4WD車といっても万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心がけてください。

③脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。

●前後左右輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ等）に無理な力が加わりダメージを受けたり、損傷により、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●タイヤが空転中に急激なブレーキ操作をしないでください。

④渡河などの水中走行はしないでください。

●渡河などの水中走行をするとエンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。
●万一、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目を点検してください。
・ブレーキの効き具合
・エンジン、トランスミッション、トランスファー、ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますのでオイルの交換が必要です）
・プロペラシャフト、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

⑤タイヤはすべて、必ず指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。

●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。

●タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ等）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや損傷などにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

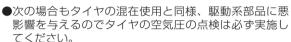
ノーマルタイヤ

スタッドレスタイヤ

〈混在使用の例〉

●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるのでタイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。

・4輪の空気圧の差が著しいとき

・空気圧が指定値からはずれているとき

●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.336参照）

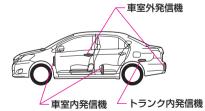
●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.372参照）

3.スマートエントリー & スタートシステムについての注意

スマートエントリー & スタートシステムについては、次の事項を必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①心臓ペースメーカーや医療用電気機器などをお使いの方は、スマートエントリー & スタートシステムの取り扱いに注意してください。

●植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器をお使いの方は、スマートエントリー & スタートシステムの発信機から約22cm以内に、植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器が近付かないようにしてください。

電波により、植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、スマートエントリー & スタートシステムをお使いになる前に、医療用電気機器の製造事業者などに個別でご確認ください。

電波により、医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

●スマートエントリー & スタートシステムを作動しないようにすることもできます。

詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

メンテナンスについて

1.点検・手入れ時の注意

点検・手入れ時は、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。点検整備の詳細については「メンテナンスノート」をお読みください。

①エンジンルームを点検するときは、必ずエンジンを停止してください。また、火気を近付けないでください。

●エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分にふれたり近付いたりすると、手や衣服、工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジンが停止していても、冷却水温が高いときは、冷却ファンが急にまわり出すことがありますので注意してください。なお、火気をバッテリーや燃料配管に近付けないでください。爆発し、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

②エンジン停止直後はエンジン、排気管、ラジエーターなど高温部にはふれないでください。

●やけどをするおそれがあり危険です。なお、オイルやその他の液体も高温になっているときがありますのでご注意ください。

③エンジンルーム内に水をかけないでください。

●エンジンルーム内に水をかけると、電装品がショートしたりして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

④車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、前席フロアにＳＲＳサイドエアバッグの配線があるため、水がかかるとＳＲＳサイドエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあり危険です。
●オーディオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤寒冷時に洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。

●ブレーキ装置内に水が入ると凍結して、ブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。

⑥キーのバッテリー交換時に、バッテリーや部品をとくにお子さまが飲み込まないようにご注意ください。

●飲み込むと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑦ヒューズを交換するときは、規定容量以外のヒューズを使用しないでください。

●配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

⑧ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は必ずトヨタ販売店にご相談ください。（ディスチャージヘッドランプ装着車）

●電球ソケットにふれた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Vの高電圧が発生し、感電して生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑨電球を交換するときは、電球が冷えてから交換してください。

●電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあり危険です。

⑩エンジンルームを点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

●点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑪ブレーキフルードの量を点検してください。

●ブレーキフルードが不足しているとブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑫エンジンオイルを点検・交換するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害や、やけどにつながるおそれがあります。

●エンジンを停止してください。
エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分にふれたり付近にいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●エンジンオイルの温度が低いときに、点検・交換してください。
●エンジンが停止していても冷却水温が高いときは、エンジンオイルも高温になっており、やけどをするおそれがあり危険です。

⑬エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。

●ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

2.タイヤについての注意

タイヤについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①日常点検として必ずタイヤの点検を行ってください。

●タイヤの点検は、法律で義務付けられています。
●タイヤは以下の点について点検してください。
・タイヤの空気圧
・タイヤの亀裂・損傷の有無
・タイヤの溝の深さ
・タイヤの異常な摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗している・摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）
タイヤの点検方法は、「メンテナンスノート」をお読みください。

②タイヤ空気圧は、必ずタイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整してください。

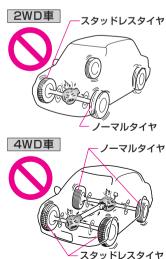
●指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP.372で正しい空気圧を確認のうえ調整してください。
指定空気圧より低いと車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

※ 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

「タイヤ空気圧」の表

●タイヤローテーションを行ったあとは、指定空気圧に調整してください。

③タイヤはすべて、必ず指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。

●タイヤは、すべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。
●タイヤを混在使用すると、左右タイヤ（4WD車の場合は前後左右タイヤ）で常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ等）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや損傷などにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

〈混在使用の例〉

●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるのでタイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
・4輪の空気圧の差が著しいとき
・空気圧が指定値からはずれているとき

●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。(P.336参照)

●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。(P.372参照)

●指定以外のタイヤおよび4輪とも同一でないタイヤを装着すると、車の性能（燃費・車両の走行安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、前後左右のタイヤに回転差が発生するなどして正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
・ＡＢＳ
・ブレーキアシスト（ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車）
・ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ
・ＧＰＳボイスナビゲーション

また、Ｖフレックスフルタイム4ＷＤシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

④装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着しないでください。

●装着されているタイヤサイズごとに、ホイールオフセット、ステアリングギアの設定が異なっているため、装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着すると、車の性能（車両の走行安定性など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。
そのため、例えば165／70Ｒ14 81Ｓタイヤが装着されている車両には、メーカーオプションで設定されている、185／60Ｒ15 84Hタイヤを装着することはできません。同様に185／60Ｒ15 84Hタイヤが装着されている車両には、165／70Ｒ14 81Ｓタイヤを装着することはできません。

⑤摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。

●タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※1により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

〈例：スリップサインが出ていない状態〉※2

〈例：スリップサインが出ている状態〉※2

※1 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面のあいだに水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。
※2 例のイラストは説明のためであり、実際とは異なります。

⑥タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルがとられたり、異常な振動を感じることがあります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

⑦冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。

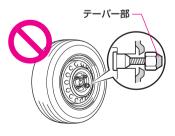
●指定サイズのタイヤを使用してください。
●指定空気圧に調整してください。
●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

⑧タイヤチェーン装着時は、速度を控えて慎重に運転してください。

●タイヤチェーン装着時は、約30km/h以下またはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。また、走行性に影響を与えるため必ず慎重に走行してください。
●タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあり危険です。
また、ＡＢＳ作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。

⑨タイヤを交換したときは、ディスクホイール取り付けナットが確実に締まっていることを確認してください。

●確実に締まっていないとディスクホイール取り付けボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。
締め付けトルク：約103N・m ｛1050kgf・cm｝
●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ディスクホイールを取り付けるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩ディスクホイール取り付けボルト、ナットのねじ部や、ディスクホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。

●つぶれや亀裂などの異常があると、ナットを締め付けても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪ディスクホイールを取り付けるときは、シート部（P.388参照）や裏側の取り付け面が汚れていないか確認してください。

●ディスクホイールのシート部や、ホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にホイール取り付けナットがゆるみ、タイヤがはずれ思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑫段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

●段差や凹凸のある路面を通過するときの衝撃により、タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑬歩道の縁石などにタイヤがあたらないように注意してください。

●タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑭応急用タイヤについては、以下の点に注意してください。

●応急用タイヤは標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
●応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると、タイヤの径の違いがさらに大きくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
タイヤが冷えているときの空気圧（ゲージ圧）：420kPa ｛4.2kg/cm^2｝
●車に搭載されている応急用タイヤは、お客様の車専用です。他のタイヤやディスクホイールと組み合わせたり、他の車に使用したり、他の車の応急用タイヤをお客様の車に使用しないでください。走行に悪影響が出て思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑮走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。

●走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっています。タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあり危険です。

3.バッテリーについての注意

**バッテリーについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。**

①日常点検として必ずバッテリーの液量を点検してください。

●バッテリーの液面が各液槽とも、バッテリー側面に表示されたLOWER　LEVEL（下限）以下のまま使用、充電すると、バッテリーの寿命が短くなったり、発熱や爆発するおそれがあり危険です。点検方法は「メンテナンスノート」を参照し、液量が少ないときは補給してください。

②バッテリーあがりで、ブースターケーブルをつなぐときは、接続順や接続箇所を間違えないように注意してください。（P.394参照）

●バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③エンジンがかかっているときや充電中はバッテリーに近付かないでください。

●充電中はバッテリーから有毒で、腐食性の高い希硫酸を含んだバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、失明など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
万一、付着した場合は、すぐに衣服を脱ぎ、液が付着した体の部分を多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

④火気をバッテリーに近付けないでください。

●バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

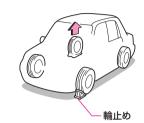
⑤バッテリーを交換したときは、正しい位置にクランプを取り付け、ナットを確実に締め付けてください。

●確実に取り付けたり、締め付けたりしないと、走行中にクランプがはずれてショートするなどして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

4.ジャッキアップについての注意

ジャッキアップについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。また、パーキングブレーキをしっかりかけてください。

●車が動きジャッキがはずれ、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。なお、輪止めはトヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。
●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

②ジャッキアップした車の下には絶対にもぐらないでください。

●万一、ジャッキがはずれると、体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●車載工具のジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外は使用しないでください。

③ジャッキアップするときは、次の点に注意しないと、車体が損傷したり、ジャッキがはずれ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

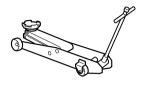
●人を乗せたままジャッキアップをしないでください。
●ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
●ジャッキアップするときは、ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置（P.388参照）にかかっていることを必ず確認してください。
●車体はタイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
●ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。
●ジャッキアップした車体を降ろすときは、まわりの状況に注意してください。

④車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。

●他の車に使用したり、他の車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

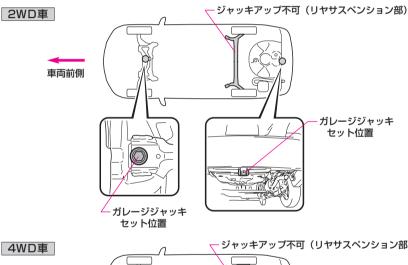
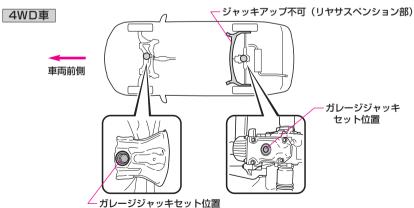
⑤工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。

●室内などに放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、次のことをお守りください。

●車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり、取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、リヤサスペンション部などでジャッキアップすると、車両を損傷することがあります。車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
また、ガレージジャッキを使用するときは、必ずしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。
下図のガレージジャッキセット位置にあててください。ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキに付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。

ガレージジャッキ

2WD車

4WD車

ガレージジャッキは、受皿の形状がガレージジャッキセット位置に適したサイズの受皿タイプを使用してください。

1.オーバーヒートについての注意

**オーバーヒートについては、次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。**

①オーバーヒートし、ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。

●エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも、高温になっている部分もありますので、ボンネットを開けるときは十分注意してください。

②ラジエーターや、補助タンクが熱いときは、ラジエーターキャップを開けないでください。

●蒸気や熱湯が吹き出してやけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップ、バルブを包みゆっくりと開けてください。

2.万一の事故のときの注意

**次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。**

①エンジンをかけずにけん引される場合は、ハンドルやブレーキ操作に十分注意してください。

●エンジンがかかっていないと、ブレーキの倍力装置が働かないため、操作力が非常に重くなります。
けん引される車の運転は、十分注意して行ってください。
●けん引される場合は、シフトレバーを🅝にして、パーキングブレーキを解除してください。

②けん引中に、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。

●けん引フックやロープが破損し、それが周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

③けん引中に、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにしないでください。（スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車）

●ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④けん引中にキーを抜いたり、エンジン スイッチを “ ＬＯＣＫ ” の位置にしないでください。（スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車）

●キーが抜けていると、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジン スイッチが “ ＬＯＣＫ ” の位置にあるとキーが抜けるおそれがあります。

⑤発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。また、発炎筒を使用中は顔や体に向けたり、近付けたりしないでください。

●可燃物の近くで使用すると引火して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、使用中に顔や体に向けると炎でやけどをするなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑥事故後、エンジンを始動する前に燃料がもれていないか確認してください。

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかれば、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままエンジンを始動すると燃料に引火し、重大な事故につながるおそれがあり危険ですので、エンジンを始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

その他の注意

次の事項を必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①不正改造は絶対にしないでください。

●トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
●車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし重大な傷害を受けるか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
・タイヤ、ディスクホイール、ディスクホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
・電装品、無線機などの取り付け、取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
●フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

②ウインドゥガラスなどには吸盤を付けないでください。

●ウインドゥガラスにアクセサリーの吸盤を取り付けたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置くと、吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

③フロントワイパーデアイサー作動中は、フロントウインドゥガラスの下部と運転席側フロントピラー付近の表面が熱くなりますので、手をふれないでください。（フロントワイパーデアイサー装着車）

●やけどをするおそれがあり危険です。

④カップホルダーについては、以下のことをお守りください。

●カップホルダーには、カップや飲料缶以外ものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。
●フタ付きのカップホルダーは、使用しないときはフタを閉めておいてください。急ブレーキをかけたときや衝突時に、カップホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

⑤走行中はトランクを閉じてください。また、トランク内には絶対に人を乗せないでください。

●走行中はトランクを閉じてください。開けたまま走行すると、トランクが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行する前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。

●走行前にトランクが完全に閉まっていることを確認してください。トランクが完全に閉まっていないと、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまを乗せているときは以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- ・お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。不意にトランクリッドが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

●トランクの使用にあたって以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- ・トランクを開ける前にトランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが落下するおそれがあります。
- ・トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ・人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ・強風時の開閉には十分注意してください。トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- ・半開状態で使用すると、トランクリッドが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。

- ・トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- ・トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- ・トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重たくなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

⑥車内のスイッチなどに飲み物などをこぼさないように注意してください。

●インストルメントパネル、コンソールボックス、ドアなどにあるスイッチに飲み物がかかると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。万一、スイッチに飲み物がかかった場合は、すみやかにトヨタ販売店にご相談ください。

⑦樹脂バンパーやアルミ部分には、磁石で固定するアクセサリーを取り付けることができません。

●磁石はアルミに付かないため、磁石式の初心者運転標識や高齢運転者標識などは取り付けることができません。

⑧エンジンがかかっているとき、またはエンジン停止直後、排気管にふれないように注意してください。

●エンジンがかかっているときやエンジン停止直後の排気管は高温になっています。荷物の積みおろし時などに手や足がふれると、やけどをするおそれがあり危険です。

⑨安全のため、運転者は走行中にＥＴＣカードの抜き挿し、およびＥＴＣユニットの操作を極力しないでください。（ＥＴＣ装着車）

●走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。

⑩シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドゥを開けたまま放置しないでください。

●ドアやウインドゥを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑪メガネ、ライターやスプレー缶を車内に放置したままにしないでください。

●室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こすおそれがあります。
●室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発するなどして、火災につながるおそれがあり危険です。
●ライターやスプレー缶を収納装備に放置したり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして、火災につながるおそれがあり危険です。

⑫洗車するときは、排気管に注意してください。

●排気管は、排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあり危険です。

⑬寒冷時は、ウインドゥガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。

●ウォッシャー液がウインドゥガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑭内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。

●インストルメントパネルがフロントウインドゥガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

2

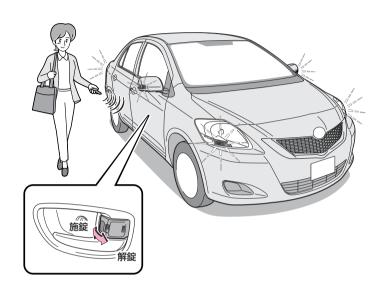
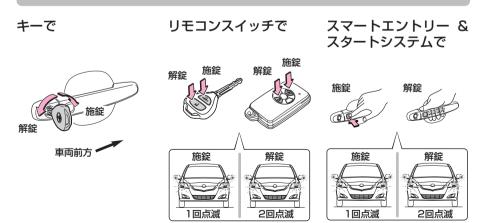
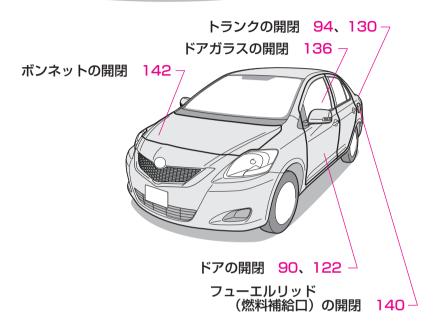
基本操作早わかり

（はじめてこの車にお乗りになる方へ）

この章では、はじめて車を購入された方やトヨタ車にはじめてお乗りになる方のために、この車の基本的な運転装置および装備品を簡単に説明しています。
詳しい取り扱い説明や注意事項は各章をしっかりお読みください。

施錠
解錠

ドアの施錠と解錠

キーで
リモコンスイッチで
スマートエントリー ＆
スタートシステムで
解錠
施錠
車両前方
解錠
施錠
解錠
施錠
施錠
解錠
施錠
解錠
1回点滅
2回点滅
施錠
解錠
1回点滅
2回点滅

各部の開閉に関する詳しい紹介は

ドアガラスの開閉

フューエルリッド（燃料補給口）の開け方

運転席の調整機能(その1)

前後位置

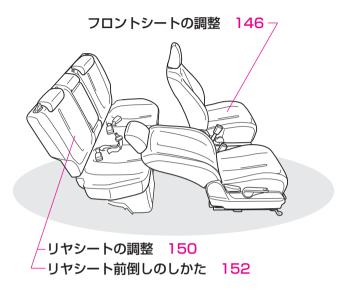
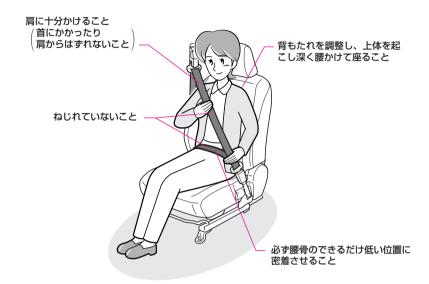
背もたれの角度

シート全体の上げ下げ

シートに関する詳しい紹介は

運転席の調整機能（その2）

ヘッドレスト

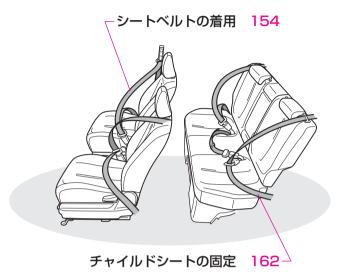
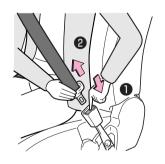
目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

着用のしかた

1 ベルトを引き出します。

2 プレートをバックルに挿し込みます。

❶“カチッ”というまで挿し込みます。

❷アンカーの高さを調整します。

シートベルトに関する詳しい紹介は

はずし方

❶バックルのボタンを押します。
❷ベルトを巻き取らせます。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態	作動表示灯の色	エンジンの状態	各状態の働き
OFF	消灯	停止	電装品が停止している状態です。
アクセサリーモード	橙色	停止	オーディオなどの電装品が使用できます。
イグニッションONモード	橙色	停止	すべての電装品が使用できます。
	消灯	回転中	すべての電装品が使用できます。通常運転中の状態です。

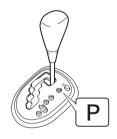
“エンジン スタート ストップ” スイッチの切り替え方

1 電子キーを携帯して運転席に座ります。

2 “エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。
スイッチを押すごとに、
ＯＦＦ⇒アクセサリーモード⇒イグニッションＯＮモード⇒ＯＦＦ…
の順に切り替わります。
●アクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードのときは作動表示灯が橙色に点灯します。

エンジン始動のしかた

1 電子キーを携帯して運転席に座り、ブレーキペダルをしっかり踏みます。

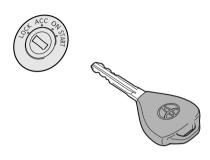
パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

2 作動表示灯が緑色に点灯します。

3 シフトレバーの位置を確認します。

4 ブレーキペダルをしっかり踏んだ状態で、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押します。

ゆっくり確実に押してください。

●エンジンが始動すると作動表示灯が消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチの状態	エンジンの状態	各状態の働き
LOCK	停止	電装品が停止している状態です。 キーの抜き挿しができる位置です。 ハンドルがロックされる位置です。
ACC	停止	オーディオなどの電装品が使用できます。
ON	停止	すべての電装品が使用できます。
	回転中	すべての電装品が使用できます。 通常運転中の状態です。
START	始動	エンジンを始動する位置です。 キーを離すと“ ON ”の位置にもどります。

エンジン スイッチの切り替え方

1 エンジン スイッチにキーを挿し込みます。

2 キーをまわして切り替えます。

エンジン始動のしかた

1 ブレーキペダルをしっかり踏み込みます。

パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

2 シフトレバーの位置を確認します。

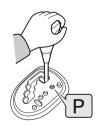
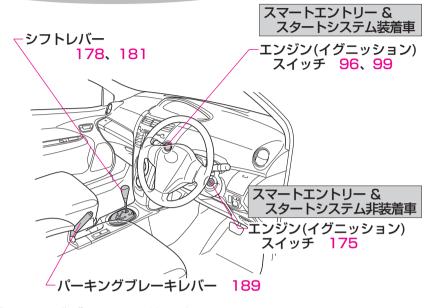
3 キーを“ ＳＴＡＲＴ ”の位置までまわし、手を離します。

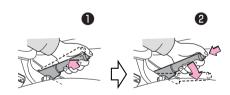
キーは“ ＯＮ ”の位置にもどります。

シフトレバーの動かし方（発進時の場合）

1 右足でブレーキペダルをしっかり踏み込みます。

パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

2 ゲートにそってシフトレバーをⓅから操作します。

運転装置に関する詳しい紹介は

パーキングブレーキの使い方

解除のしかた

右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら

❶パーキングブレーキレバーを少し引き上げ

❷先端のボタンを押しながら、完全に下までもどします。

かけ方

右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、ボタンを押さずにパーキングブレーキレバーをいっぱいまで引き上げます。

警告灯が点灯または点滅したままのときは

警告灯		警告理由
(ABS)	ＡＢＳ ＆ ブレーキアシスト警告灯	ＡＢＳ、またはブレーキアシストシステムの異常です。
(ABS)	ＡＢＳ警告灯	ＡＢＳの異常です。
(!)	ブレーキ警告灯	●パーキングブレーキがかかっています。 ●パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ブレーキ液量の不足、またはブレーキシステムの異常です。
VSC	ＶＳＣ警告灯	ＶＳＣ ＆ ＴＲＣシステムの異常です。
	エンジン警告灯	エンジン電子制御システムなどの異常です。
	油圧警告灯	エンジン内のオイルの圧力の異常です。
	高水温警告灯	エンジン冷却水温度の異常です。
	ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯	ディスチャージヘッドランプオートレベリングシステムの異常です。

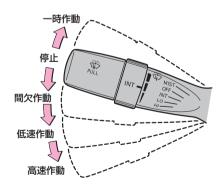
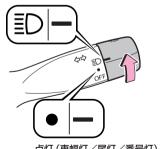
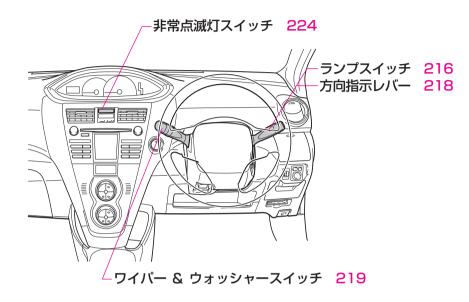
警告灯に関する詳しい紹介は

警告灯が点灯または点滅したままのときは

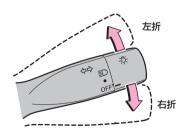
警告灯	警告理由
充電警告灯	充電系統の異常です。
パワーステアリング警告灯	パワーステアリング制御システムの異常です。
半ドア警告灯	いずれかのドアが確実に閉まっていません。
スマートエントリー＆スタートシステム警告灯	電子キーが車室内発信機の検知エリア内にありません。
ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯	ＳＲＳエアバッグシステムまたはプリテンショナー付シートベルトシステムの異常です。
運転席シートベルト非着用警告灯	運転者がシートベルトを着用していません。
PASSENGER 助手席シートベルト非着用警告灯	助手席の乗員がシートベルトを着用していません。

＊この他にも、表示灯の点灯または点滅により異常を知らせる場合があります。
詳しくは、P.197を参照してください。

夜間や雨天時などの走行

ワイパーの使い方

ランプのつけ方

スイッチに関する詳しい紹介は

他車への合図

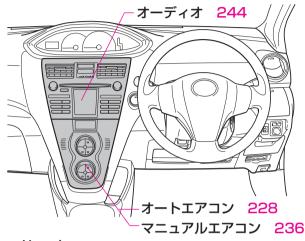
方向指示灯

非常点滅灯

オートエアコンの使い方

1 AUTOスイッチを押します。

2 温度調整ダイヤルをまわして希望温度に合わせます。

3 エアコンが作動していないときは、エアコンスイッチを押します。

エアコン、オーディオに関する詳しい紹介は

オーディオの使い方

電源の入れ方と音量の調整

電源入・切　　音量

ＣＤを聞くには

ＣＤが入っているときは、ＤＩＳＣスイッチを押します。

ラジオを聞くには

ＡＭ・ＦＭ放送の切り替え

放送局の設定

ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、自動でプリセットスイッチに放送局がセットできます。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

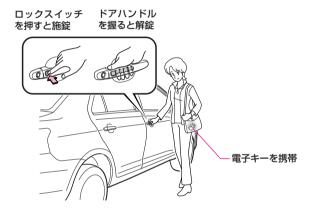
3 運転装置の取り扱い

スマートエントリー ＆ スタートシステム★

スマートエントリー ＆ スタートシステムについて

電子キーを携帯するだけで次のような操作ができます。

ドアの施錠・解錠（P.90参照）

ドアハンドルの操作だけで、ドアを施錠・解錠できます。

トランクの解錠（P.94参照）

トランクオープンスイッチを押すだけで、トランクを解錠できます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの切り替え（P.96参照）

車両にキーをセットすることなく、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの切り替えができます。

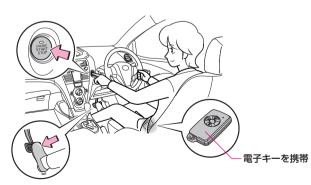
押すごとに“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態が変化

電子キーを携帯

エンジンの始動・停止（P.99参照）

車両にキーをセットすることなく、エンジンの始動・停止ができます。

ブレーキペダルをしっかり踏みながら、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押すとエンジンが始動

電子キーを携帯

電子キー

電子キーと車両が通信を行い、スマートエントリー ＆ スタートシステムが作動します。

電子キーは運転者が必ず携帯してください。

心臓ペースメーカーや医療用電気機器などをお使いの方は、スマートエントリー ＆ スタートシステムの取り扱いに注意してください。

●植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器をお使いの方は、スマートエントリー ＆ スタートシステムの発信機から約22cm以内に、植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器が近付かないようにしてください。
電波により、植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、スマートエントリー ＆ スタートシステムをお使いになる前に、医療用電気機器の製造事業者などに個別でご確認ください。
電波により、医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。
●スマートエントリー ＆ スタートシステムを作動しないようにすることもできます。
詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

電子キーは信号発信機を内蔵している電子部品です。

●電子キーは信号発信機を内蔵している電子部品です。故障の原因となりますので、以下のことをお守りください。
・ダッシュボードの上など高温になる所に置かないでください。
・分解しないでください。
・無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。
・水にぬらさないでください。
・磁気を帯びたキーホルダーなどを付けないでください。
・電子キーの表面にシールなどを貼らないでください。
・テレビ、オーディオなどの磁気を帯びた機器、または低周波治療器などの医療電気機器の近くに置かないでください。
・超音波洗浄機などで洗浄しないでください。
・電子キーにガソリンなどの燃料やツヤ出し剤、油脂類が付着すると、電子キーが変形したり、ひび割れたりすることがあります。
・車から離れるときは、
1. シフトレバーをⓅにし、
2. パーキングブレーキをかけ、
3. “エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにして、
必ず電子キーを携帯していることを確認してからドアを施錠してください。
●電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。
分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用ください。

知 識

航空機内へのキーの持ち込みについて

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

知識

電子キーの通信について

スマートエントリー ＆ スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は、電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー ＆ スタートシステムやワイヤレスドアロックリモコンが正常に作動しない場合があります。その場合は、P.116の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。

●電子キーのバッテリーが消耗しているとき
●近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港など強い電波やノイズを発生する場所にいるとき
●無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
●電子キーが金属製のものに接したり、覆われたりしているとき
●複数の電子キーが近くにあるとき
●他の車の電子キー、電波式ワイヤレスキー、パソコンなどの電波を発信する製品と同時に携帯または使用してるとき
●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

電子キーについて

●電子キーは2個あります。
●電子キーはドアの施錠・解錠の他、エンジンの始動・停止などに使います。
●ワイヤレスドアロックリモコンの操作についてはP.133を参照してください。
●電子キーを紛失しないように十分注意してください。電子キーを紛失した場合は、電子キーの作製にコンピューターの交換が必要となるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。
●スマートエントリー ＆ スタートシステムの故障等でトヨタ販売店に車両を持っていく場合は、車両に装備されている電子キーをすべてお持ちください。
●盗難防止システムについては、P.104を参照してください。

電子キーのバッテリーについて

●電子キーのバッテリーは、常に消耗しています。
電子キーは、車両との通信のために常時受信動作をしており、電子キーに内蔵されたバッテリーを消費しています。バッテリーの寿命は使用状況によりますが約1～2年程度です（まったく使用しなくてもバッテリーは消耗します）。バッテリー電圧が低下した場合、新しいバッテリーと交換してください。バッテリー交換は、お客様ご自身で交換することができますが（P.337参照）、交換の際に破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。
●“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしてから約20分以上経過し、その後“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにしたとき、電子キーのバッテリーが低下していると、キーバッテリー低下警報が鳴ります。
（P.110参照）

知識

電子キーの保管について

電子キーを電化製品の近くに保管しないでください。電化製品の電磁波により、電子キーが誤作動したり、常時通信状態となりバッテリーが著しく消耗する場合があります。

影響のある主な電化製品（常時約1m以上離すのが望ましいものの例）
テレビ、パソコン、電磁調理器、電気スタンド、充電中のコードレス電話器および携帯電話

電子キーの使用個数について

同じ車両で電子キーは最大4個まで使用することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

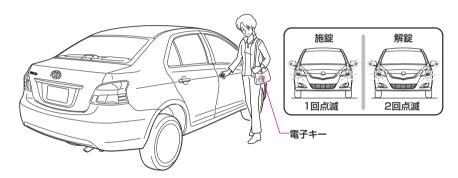
キーナンバープレートについて

お客様以外にキーナンバーがわからないように、電子キーではなくプレートにキーナンバーを打刻しました。

●キーナンバープレートは車両以外の場所に大切に保管してください。
●万一、電子キーを紛失した場合、キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りの電子キーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しい電子キーをつくることができます。
●万一、電子キーを紛失した場合、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

ドアの施錠・解錠のしかた

P.122の「ドアの開閉」を併せてお読みください。

施錠・解錠のしかた

■施錠するときは

電子キーを携帯し、すべてのドアが閉まっている状態で、フロントドアハンドルのロックスイッチを押します。

●すべてのドアの施錠ができます。

●施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。※

●必ず施錠されたことを確認してください。

■解錠するときは

電子キーを携帯し、フロントドアハンドル裏側のセンサー部にふれるようにドアハンドルを握ります。

●すべてのドアの解錠ができます。

●解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅し、ブザーが2回鳴ります。※

※この機能を変更することができます。
詳しくは、P.374の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

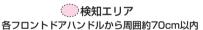
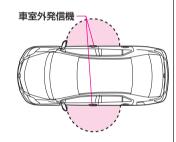
目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。

●車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。電子キーが車内に閉じ込められる可能性があります。
●ドア施錠時に、車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に電子キーがある場合は、電子キーと車両は定期的に通信を行うため、長時間その状態で放置すると、電子キーおよび車両のバッテリーがあがるおそれがあります。車両を使用しないときは、電子キーを車両付近（約2m以内）に置かないでください。

知 識

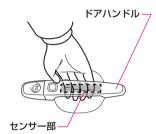
作動範囲について

車室外発信機の検知エリア内（各フロントドアから周囲約70cm以内）
●ドアガラスやドアハンドルに近付きすぎた場合などは作動しないことがあります。

作動条件について

●車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に電子キーを携帯して入ると、自動的にIDコードの照合を行い、照合が一致したときのみドアの解錠が可能になります。
降車後、すべてのドアが閉まっている状態で施錠操作をすると、車室内外でIDコードの照合を行い、車内に電子キーがなく、車外に電子キーがあると判断されると施錠されます。
・ドアの施錠・解錠は、電子キーを検知しているフロントドアハンドルでのみ、行うことができます。
・車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に入っていても、電子キーが地面の近くや高い場所にあるときや、ドアガラスやドアハンドルに近付きすぎたときは正常に作動しない場合があります。
・電子キーが車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
・電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
・車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。
●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
●電波の状況が悪いときや電子キーのバッテリーが切れたときは、スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスドアロックリモコンでのドアの施錠・解錠はできません。この場合は、P.116の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。

知識

施錠・解錠について

●ロックスイッチを早押しした場合、施錠されないことがあります。
●施錠後、約3秒間はスマートエントリー & スタートシステムで解錠することはできません。
●次のようなときは、ロックスイッチを押さないでください。ロックスイッチを押してもドアは施錠されず、半ドア警報（P.110参照）が鳴ります。
・いずれかのドアが開いているとき
・ドアの開閉中
●解錠するときは、フロントドアハンドル裏側のセンサー部を確実に握り、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
・ドアハンドル裏側のセンサー部以外にふれても解錠されません。
・皮手袋、スキー手袋などを手に装着してドアハンドル裏側のセンサー部にふれた場合は、解錠が遅れたり、解錠されないことがあります。

・他の車の電子キーや、電波を発信するような製品などを同時に携帯した場合、作動時間が通常よりも長くなることがあります。
●確実に解錠させるためには、電子キーが車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に入ってから約3秒以内に解錠操作を行ってください。約3秒を経過すると、作動しない場合があります。
●急な車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内への接近や急な解錠操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してから再度ドアハンドルを引いてください。
●電子キーが車室内発信機の検知エリア内（車両室内）にある場合でも、ワイヤレスドアロックリモコン（P.133参照）、メカニカルキー（P.116参照）、ドアロックスイッチ（P.124参照）での施錠はできますが、その後スマートエントリー & スタートシステムでの解錠はできません。
●解錠後、ドアの開閉操作がなければ、約30秒後に自動的に施錠されます。※
●電子キーが車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内にあるとき、洗車や大雨などでフロントドアハンドルに多量の水がかかると、スマートエントリー & スタートシステムが働き、ドアが解錠することがありますが、ドアの開閉操作がなければ約30秒後に自動的に施錠されます。※

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.374の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

知識

便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム

ドアの開閉、解錠・施錠、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態、電子キーを携帯した状態での検知エリア内への進入と連動して、ルームランプ（ＤＯＯＲの位置のとき）、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチ照明が点灯・消灯します。

- 電子キーを携帯し、車室外発信機（フロントドア）の検知エリア外から検知エリア内に入ると点灯し、約15秒後に消灯します。ただし、検知エリア内から検知エリア外へ出て、約3秒以内に検知エリア内にもどった場合や、検知エリア内に留まっている場合は作動しません。※
- いずれかのドアを開けると点灯し、すべてのドアを閉めると約15秒後に消灯します。※
- “ エンジン スタート ストップ ”スイッチをＯＦＦにすると点灯し、約15秒後に消灯します。※
- “ エンジン スタート ストップ ”スイッチがＯＦＦのとき、運転席ドアまたは助手席ドアを解錠すると点灯し、約15秒後に消灯します。※
- 次のような場合は、ただちに消灯します。
  - ・すべてのドアを閉め、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードにしたとき
  - ・“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードにして、すべてのドアを閉めたとき
  - ・すべてのドアを閉め、フロントドアを施錠したとき

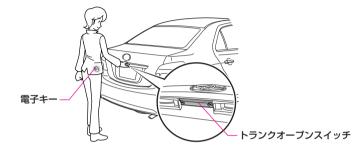
※この機能を変更することができます。詳しくは、P.374の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

バッテリーあがり防止機能

いずれかのドアが開いた状態で、ルームランプ（ＤＯＯＲのとき）、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチ照明が約20分以上点灯し続けると、バッテリーあがり防止機能が働き自動的に消灯します。

トランクの開け方

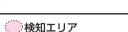
P.130の「トランクの開閉」を併せてお読みください。

開け方

電子キーを携帯し、トランクオープンスイッチを押します。

知識

作動範囲について

車室外発信機の検知エリア内（トランクオープンスイッチから周囲約70cm以内）

●リヤバンパー中央に近付きすぎた場合などは作動しないことがあります。

作動条件について

●車室外発信機（トランク）の検知エリア内に電子キーを携帯して入り、トランクオープンスイッチを押すと、ＩＤコードの照合を行い、照合が一致したときのみトランクが解錠されます。

・車室外発信機（トランク）の検知エリア内に入っていても、電子キーが地面の近くや高い場所にあるとき、リヤバンパー中央に近付け過ぎたときは正常に作動しない場合があります。

・電子キーが車室外発信機（トランク）の検知エリア内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも解錠できます。

・電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。

・車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。

●電波の状況が悪いときや電子キーのバッテリーが切れたときは、スマートエントリー & スタートシステムでのトランクの解錠はできません。この場合は、P.116の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。

解錠について

●施錠後、約3秒間はスマートエントリー & スタートシステムで解錠することはできません。

●急なトランクオープンスイッチの操作では、解錠されない場合があります。その場合は、もう一度ゆっくりと操作してください。

エンジン（イグニッション）スイッチの切り替え方

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押すごとに、スイッチの状態が切り替わります。
＊スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車では、エンジン（イグニッション）スイッチを “ エンジン スタート ストップ ” スイッチと呼びます。

1 **電子キーを携帯し、運転席に座ります。**

2 **ブレーキペダルを踏まずに “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。**

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押すごとに、スイッチが

ＯＦＦ⇒アクセサリーモード⇒イグニッションＯＮモード⇒ＯＦＦ…

の順に切り替わります。

●アクセサリーモード、イグニッションＯＮモードのときは作動表示灯が橙色に点灯します。
●イグニッションＯＮモード⇒ＯＦＦは車両が停止しているときに切り替わります。
●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを早く押すと、切り替わらないことがあります。1回ごと確実に押してください。

“エンジン スタート ストップ” スイッチの状態	作動表示灯の色	エンジンの状態	各状態の働き
OFF	消灯	停止	電装品が停止している状態です。
アクセサリーモード	橙色	停止	オーディオなどの電装品が使用できます。
イグニッションONモード	橙色	停止	すべての電装品が使用できます。
	消灯	回転中	すべての電装品が使用できます。 通常運転中の状態です。

注意

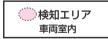
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードまたはアクセサリーモードのまま放置しないでください。

- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードまたはアクセサリーモードのまま放置すると、車両のバッテリーがあがる原因となります。
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチに引っかかりがあるときは、スイッチを操作せず、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを油などの付いた手でさわらないようにしてください。
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチに飲料水などをこぼさないよう注意してください。万一、こぼしたあと異常を感じたら、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
- 炎天下で長時間車両を放置すると、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの表面が熱くなっている場合があります。やけどをしないよう気を付けてください。
- 車幅灯が点灯しても、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ照明が点灯しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

作動範囲について

車室内発信機の検知エリア内（車両室内）

- 車外でもドアガラスに近付きすぎた場合などは “ エンジン スタート ストップ ” スイッチの切り替えが可能となることがあります。

車室内発信機（リヤ）

車室内発信機（フロント）

作動条件について

- 車室内発信機の検知エリア内（車両室内）に電子キーがないと判断すると、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを切り替えることができません。この場合、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押すと、キーエリア外警報が鳴ります。（P.108参照）
- 電子キーをインストルメントパネル上、フロア上、収納ボックス内（P.283参照）などに置かないでください。“ エンジン スタート ストップ ” スイッチが切り替わらないことがあります。
- 電波の状況が悪いときや電子キーのバッテリーが切れたときは、スマートエントリー ＆ スタートシステムで “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを切り替えることはできません。この場合は、P.116の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。
- 電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
- 車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを操作するときは、奥まで確実に押してください。
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを早押しした場合、スイッチが切り替わらないことがあります。

知 識

盗難防止システムについて

盗難防止システムにより“ エンジン スタート ストップ ”スイッチが切り替わらないことがあります。（P.104参照）

便利機能について

オートＯＦＦ機能
シフトレバーがⓅにあるとき、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモードにした状態で約1時間放置するとバッテリーあがり防止のために、自動的にスイッチがＯＦＦになります。

車両バッテリー脱着時について

車両は常に“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態（アクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモード）を記憶しているため、車両バッテリーを再接続したときは、接続が絶たれる前のスイッチの状態に復帰します。修理などで車両バッテリーをはずすときは、必ず“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをＯＦＦにしてから行ってください。車両のバッテリーあがり時に、バッテリーがあがる前の“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態がわからないときは、とくに注意してください。

エンジン始動・停止のしかた

ブレーキペダルを踏みながら“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、エンジンが始動します。

エンジン始動のしかた

1 電子キーを携帯し、運転席に座ります。

2 ペダルの位置を確認します。

正しい運転姿勢（P.144参照）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

3 ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

4 シフトレバーの位置を確認します。

シフトレバーがⓅにあることを確認します。

●Ⓝでも始動できますが、安全のためⓅで行ってください。

5 ブレーキペダルをしっかり踏みます。

“エンジン スタート ストップ”スイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。

●緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

6 ブレーキペダルを踏みながら、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押して、エンジンを始動します。

エンジンが始動すると、作動表示灯は消灯します。

●完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

●ブレーキペダルを踏みながら “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押せば、スイッチがどの状態からでもエンジンを始動することができます。

●エンジンが始動しない場合は、ブレーキペダルを踏まずに “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押して、一度スイッチをＯＦＦにしたあと、ブレーキペダルをさらに強く踏みながらもう一度スイッチを押してください。

●エンジンが始動しない場合は、ブレーキペダルが重くなることがありますが、その際には通常よりも強くペダルを踏んでください。

●クランキングホールド機能（P.103参照）が作動します。

エンジン停止のしかた

車両を完全に停止させ、シフトレバーを🅟に入れて “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。スイッチがＯＦＦになり、エンジンが停止します。

●シフトレバーが🅟以外でエンジンを停止しないでください。万一、シフトレバーが🅟以外でエンジンを停止した場合、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードになります。そのときはシフトレバーを🅟に入れ “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを2回押してスイッチをＯＦＦにします。
（確実に “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがＯＦＦになっていることを確認してください）

⚠ 警告　車外からのエンジンの始動は絶対に行わないでください。

●車外からのエンジンの始動は絶対に行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。
●走行中は、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチにさわらないでください。誤ってスイッチを押し続け、エンジンが停止すると、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●エンジンの始動操作をしたときに、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの作動表示灯が緑色に点滅したときは、絶対に車両を走行させないでください。ステアリングロックが解除されていないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意　“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの作動表示灯が橙色に点滅しているときは、システムの異常が考えられます。

●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの作動表示灯が橙色に点滅しているときは、システムの異常が考えられます。いったん “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにすると、エンジンを再始動できなくなることがありますので、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
●走行中、エンストなどで車両が滑走状態になったときは、安全な状態で車両が停止するまで、ドアを開けたりしないでください。ステアリングロックが作動する可能性があり危険です。安全な場所に停車させたあと、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチに引っかかりがあるときは、スイッチを操作せず、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを油などの付いた手でさわらないようにしてください。
●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチに飲料水などをこぼさないよう注意してください。万一、こぼしたあと異常を感じたら、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
●炎天下で長時間車両を放置すると、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの表面が熱くなっている場合があります。やけどをしないよう気を付けてください。

車幅灯が点灯しても“ エンジン スタート ストップ ”スイッチ照明が点灯しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●車幅灯が点灯しても、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチ照明が点灯しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●シフトレバーがⓅ以外でエンジンを停止しないでください。シフトレバーがⓅ以外でエンジンを停止した場合、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがアクセサリーモードになるため、そのまま放置すると車両のバッテリーがあがる原因となります。
また、この原因によるバッテリーあがりから復帰させてエンジンの始動操作をしても、エンジンが始動できない場合があります。この場合、以下の操作を行ったあとでエンジンの始動操作をしてください。
1. シフトレバーをⓅに入れる
2. “ エンジン スタート ストップ ”スイッチをＯＦＦにする
3. いずれかのドアの開閉操作を行う

作動範囲について

車室内発信機の検知エリア内（車両室内）

●車外でもドアガラスに近付きすぎた場合などはエンジンの始動が可能となることがあります。

車室内発信機（リヤ）

車室内発信機（フロント）

エンジンの緊急停止について

走行中、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを約3秒以上押し続けると、エンジンを停止することができます。緊急時以外は走行中にエンジンを停止しないでください。

● “ エンジン スタート ストップ ”スイッチはアクセサリーモードになります。

●この状態ではオートＯＦＦ機能は作動しません。（P.98参照）

盗難防止システムについて

盗難防止システムにより、エンジンが始動しないことがあります。（P.104参照）

車両バッテリー脱着時について

●車両のバッテリー脱着後、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを一度押すだけではエンジンが始動しないことがあります。その場合は、もう一度“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押してください。

●車両のバッテリー脱着後、すぐにはエンジンが始動しないことがあります。その場合は、バッテリー接続から約10秒以上待ってからエンジンを始動してください。

知 識

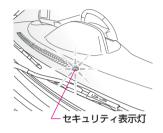
作動条件について

●車室内発信機の検知エリア内（車両室内）に電子キーがないと判断すると、エンジンを始動することはできません。この場合、“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、キーエリア外警報が鳴ります。（P.108参照）
●電子キーをインストルメントパネル上、フロア上、収納ボックス内（P.283参照）などに置かないでください。エンジンが始動できないことがあります。
●電波の状況が悪いときや電子キーのバッテリーが切れたときは、スマートエントリー ＆ スタートシステムでエンジンを始動することはできません。この場合は、P.116の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。
●エンジン始動操作をしたときに、エンジンが始動せず、“エンジン スタート ストップ”スイッチの作動表示灯が緑色に点滅しているときは、ハンドルの負荷により、ステアリングロックが解除されていません。ハンドルを左右に動かしながらブレーキペダルを踏み、“エンジン スタート ストップ”スイッチを押しなおしてください。
●エンジンの始動と停止を短い間隔で繰り返した直後は、エンジンが始動できない場合があります。この場合は、約10秒以上待ってからもう一度エンジンの始動操作をしてください。
●車両のバッテリーがあがっている場合は、ステアリングロックが作動しないので注意してください。
●電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
●車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。
●“エンジン スタート ストップ”スイッチを操作するときは、奥まで確実に押してください。
●“エンジン スタート ストップ”スイッチを早押しした場合、エンジンが始動・停止しないことがあります。

クランキングホールド機能について

●エンジン始動操作をしてすぐに手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を最大で約18秒間保持します。
●“エンジン スタート ストップ”スイッチを押したままでも、スターターの回転は最大で約30秒間です。約30秒経過してもエンジンが始動しない場合は、スターターの回転を停止します。その場合は、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

盗難防止システム（エンジンイモビライザーシステム）

車両の盗難防止のために、あらかじめ登録された電子キー以外では、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの切り替え、エンジンの始動をできないようにしたシステムです。

●“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをＯＦＦにするとシステムが作動し、インストルメントパネル上のセキュリティ表示灯が点滅します。
●登録された電子キーを携帯し“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押すと、システムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。
●電子キーに登録された信号は車ごとに異なります。
●車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

エンジンイモビライザーシステムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

知 識

メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

ステアリングロックについて

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードからＯＦＦにし、ドアを開閉したとき、ハンドルがロックされます。

節電機能

電子キーおよび車両のバッテリーあがりを防止する機能です。

車室外発信機の検知エリア内（フロントドア）に長時間電子キーを放置していると、電子キーと車両が定期的に通信を行うため、電子キーおよび車両のバッテリーがあがるおそれがあります。
そのため、電子キーおよび車両のバッテリーあがりを防止するため、次のときはスマートエントリー ＆ スタートシステムが自動で停止します。
●14日以上、電子キーから応答がないとき
●10分以上、車室外発信機の検知エリア内に電子キーがあるとき

スマートエントリー ＆ スタートシステムを復帰させるには、次のいずれかの操作を行ってください。
●車両に近付いて電子キーのワイヤレスドアロックリモコンスイッチを押す
●フロントドアハンドルのロックスイッチを押し、施錠操作をする
●メカニカルキーを運転席ドアのキーシリンダーに挿し込み、施錠または解錠操作をする（P.117参照）

警報音・警告灯

スマートエントリー ＆ スタートシステムでは、予期せぬ車両の動き出し、車両盗難などを防ぐため、警報音や警告灯または“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの作動表示灯の点滅で注意をうながします。警報音が鳴ったり、メーター内のスマートエントリー ＆ スタートシステム警告灯が点灯したり、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの作動表示灯が点滅したときは、必ず車両および電子キーの確認を行ってください。

■シフトレバーが🅟以外での電源切り忘れ警報

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがＯＦＦ以外、シフトレバーが🅟以外で、運転席ドアを開けたとき

● 車内警報音 “ピー”と連続で鳴ります。

警報が鳴ったら、シフトレバーを🅟に入れてください。

■シフトレバーが🅟以外での運転者のキー持ち出し警報

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーが🅟以外のとき、運転席ドアの開閉が行われ、車室内でのＩＤコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき

● 車内警報音 “ピー”と連続で鳴ります。
● 車外警報音 “ピー”と連続で鳴ります。
● スマートエントリー ＆ スタートシステム警告灯 点灯します。

警報が鳴ったら、シフトレバーを🅟に入れて、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをＯＦＦにしてください。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

■シフトレバーがⓅでの運転者のキー持ち出し警報

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅのとき、運転席ドアの開閉が行われ、車室内でのＩＤコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき

- 車内警報音 “ピッ”と鳴ります。
- 車外警報音 “ピー、ピー、ピー”と鳴ります。
- スマートエントリー & スタートシステム警告灯 点灯します。

警報が鳴ったら、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにしてください。

■スマートドアロックでの電源切り忘れ警報

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅのとき、すべてのドアを閉め、フロントドアハンドルのロックスイッチを押したとき

- 車外警報音 “ピー”と2秒間連続で鳴ります。

このとき、施錠することはできません。
警報が鳴ったら、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにしてください。

■同乗者のキー持ち出し警報

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがＯＦＦ以外で、運転席ドア以外のドアの開閉が行われ、車室内でのＩＤコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき

- 車内警報音 “ピッ”と鳴ります。
- 車外警報音 “ピー、ピー、ピー”と鳴ります。
- スマートエントリー & スタートシステム警告灯 点灯します。

警報が鳴ったら、降車した同乗者が電子キーを持っていないか確認してください。

■シフトレバーがⓅでの電源切り忘れ警報

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモード、シフトレバーがⓅで、運転席ドアを開けたとき

- 車内警報音 “ピー、ピー、ピー”と鳴ります。

警報が鳴ったら、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにして運転席ドアを閉めてください。

■キーエリア外警報

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押したとき、車室内でのＩＤコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき

- ●車内警報音 “ピッ”と鳴ります。
- ●スマートエントリー＆スタートシステム警告灯 8秒間点灯します。

警報が鳴ったら、車室内の検知エリア内に電子キーがあるか確認してください。電子キーがある場合は、電子キーのバッテリー切れが考えられます。電子キーのワイヤレスドアロックリモコンスイッチを押して、電子キーのＬＥＤが点灯するか確認してください。点灯しない場合は、電子キーのバッテリーを交換してください。（P.337参照）

■キー置き忘れ警報

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがＯＦＦのとき、車内に電子キーを置いたまま、すべてのドアを閉めフロントドアハンドルのロックスイッチを押したとき

- ●車外警報音 “ピー”と2秒間連続で鳴ります。

このとき、施錠することはできません。
警報が鳴ったら、車内にある電子キーを携帯して、もう一度ドアロック操作をしてください。

知 識

キー置き忘れ警報について

●電子キーをインストルメントパネル上、フロア上、収納ボックス内（P.283参照）などに置いた場合、キー置き忘れ警報が鳴らないことがあります。
●電子キーが車外にあっても、ドアガラスやドアハンドルに近付けすぎた場合、キー置き忘れ警報が鳴ることがあります。

■キーリマインダ警報(1)

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがアクセサリーモードで、運転席ドアを開けたとき、または運転席ドアを開けた状態で、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモードにしたとき

- ●車内警報音 “ピー、ピー、ピー、…”と断続で鳴ります。

警報が鳴ったら、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをＯＦＦにして、運転席ドアを閉めてください。
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションＯＮモードの状態では鳴りません。

■キーリマインダ警報(2)

運転席ドアを開けた状態で、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをＯＦＦにしたとき

- ●車内警報音 “ピー、ピー、ピー、…”と断続で鳴ります。

警報が鳴ったら、運転席ドアを閉めてください。

■トランク内キー置き忘れ警報

すべてのドアが施錠された状態で、トランク内に電子キーを置いたままトランクも閉めたとき

●

"ピー"と2秒間連続で鳴ります。

このとき、トランクは施錠されません。(トランク内キー閉じ込み防止機能)
警報が鳴ったら、トランクオープンスイッチを押してトランクを開け、電子キーを取り出してください。

⚠注意　トランク内に電子キーを置かないでください。

- ●電子キーの場所(スペアタイヤ付近、トランク内側の端)、状況(金属製のかばんの中、金属製のものの付近など)、また周囲の電波環境によってはキー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。
- ●トランク内に電子キーを閉じ込めたままにしておくと、キー閉じ込み防止機能によりトランクを開けることが可能なため、車両盗難などのおそれがあります。トランクを閉めて車外警報音が鳴ったときは必ずトランク内の確認をおこなってください。

知 識

トランク内キー閉じ込み防止機能について

トランクを閉めるとき、電子キーがトランクのすぐ近くにあるとトランク内キー置き忘れ警報が鳴り、トランク内キー閉じ込み防止機能が作動することがありますのでご注意ください。

■キーバッテリー低下警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしてから約20分以上経過し、その後“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにしたとき、電子キーのバッテリー電圧が低下していると判断したとき

●車内警報音 “ピッ”と鳴ります。

警報が鳴ったら、電子キーのバッテリーを交換してください。(P.337参照)

■半ドア警報※

“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦのとき、いずれかのドアが開いている（半ドア）状態または、ドアの開閉中に、フロントドアハンドルのロックスイッチを押したとき

●車外警報音 “ピー”と10秒間連続で鳴ります。

警報が鳴ったら、すべてのドアを閉めてから、もう一度ドアロック操作をしてください。

※この機能を変更することができます。
　詳しくは、P.374の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

■ステアリングロック未解除警報

エンジン始動操作時、ステアリングロックが解除されず、エンジンが始動しなかったとき

●“エンジン スタート ストップ”スイッチ作動表示灯 15秒間緑色に点滅します。

ハンドルを左右に動かしながら、エンジン始動操作をしてください。

■ステアリングロック異常警報／電源異常警報

ステアリングロックシステムまたは、電源システムの異常を検知したとき

●“エンジン スタート ストップ”スイッチ作動表示灯 橙色に点滅します。

すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

■警報音および警告灯の作動一覧表

車内警報音	車外警報音	スマートエントリー＆スタートシステム警告灯	状況
ピー （連続吹鳴）	—	—	**Ⓟ以外での電源切り忘れ警報（P.106参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅ以外のとき、運転席ドアを開けた。
ピー （連続吹鳴）	ピー （連続吹鳴）	点灯	**Ⓟ以外での運転者キー持ち出し警報（P.106参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅ以外のとき、運転者が電子キーを車外に持ち出した。
ピッ （1回吹鳴）	ピー、ピー、ピー （3回吹鳴）	点灯	**Ⓟでの運転者キー持ち出し警報（P.107参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅのとき、運転者が電子キーを車外に持ち出した。
—	ピー （2秒間吹鳴）	—	**スマートドアロックでの電源切り忘れ警報（P.107参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅのとき、ロックスイッチを押した。
ピッ （1回吹鳴）	ピー、ピー、ピー （3回吹鳴）	点灯	**同乗者のキー持ち出し警報（P.107参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦ以外のとき、同乗者が電子キーを車外に持ち出した。
ピー、ピー、ピー、… （断続吹鳴）	—	—	**Ⓟでの電源切り忘れ警報（P.107参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードで、シフトレバーがⓅのとき運転席ドアを開けた。
ピッ （1回吹鳴）	—	点灯 （8秒間）	**キーエリア外警報（P.108参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチを押したとき、車室内のＩＤコード照合で、電子キーがないと判断した。
—	ピー （2秒間吹鳴）	—	**キー置き忘れ警報（P.108参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦのとき、電子キーを車内に置き忘れた状態でロックスイッチを押した。

車内警報音	車外警報音	スマートエントリー＆スタートシステム警告灯	状　況
ピー、ピー、ピー、… （断続吹鳴）	—	—	**キーリマインダ警報（P.108参照）** ●“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードのとき、運転席ドアを開けた。 ●運転席ドアを開けた状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはＯＦＦにした。
—	ピー （2秒間吹鳴）	—	**トランク内キー置き忘れ警報（P.109参照）** すべてのドアが施錠された状態で、トランクに電子キーを入れたままトランクを閉めた。
ピッ （1回吹鳴）	—	—	**キーバッテリー低下警報（P.110参照）** 電子キーのバッテリー電圧が低下した。
—	ピー （10秒間吹鳴）	—	**半ドア警報（P.110参照）** “エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦのとき、いずれかのドアが半ドアの状態またはドア開閉中に、ロックスイッチを押した。

“エンジン スタート ストップ”スイッチ作動表示灯	状　況
緑色に点滅 （15秒間）	**ステアリングロック未解除警報（P.110参照）** エンジン始動操作時にステアリングロックが解除されず、エンジンが始動しなかった。
橙色に点滅	**ステアリングロック異常警報／電源異常警報（P.110参照）** ステアリングロックシステムまたは、電源システムの異常を検知した。

こんなときは

ここでは、さまざまな「こんなときは」の場面を想定して、操作および対処方法の例を記載しています。スマートエントリー & スタートシステムを扱う上での参考にしてください。

警報音が鳴っているときは／警告灯が点灯しているときは

P.106の「警報音・警告灯」を参照して該当する指示に従ってください。

スマートエントリー & スタートシステムが作動しないときは

以下のことを確認してください。

●電子キーが通信できない状況にある。（P.88参照）

●電子キーのバッテリーがない。（P.337参照）

●節電機能が働いている。（P.105参照）

ガソリンスタンドやお店などで車から離れるときは

"エンジン スタート ストップ"スイッチをＯＦＦにして、電子キーを携帯し、ドアを施錠してください。

●必ず施錠されていることを確認してください。

車両に正規の別の電子キーを携帯した人がいるときに車外から解錠するには

スマートエントリー ＆ スタートシステムでの解錠ができないときは、ワイヤレスドアロックリモコン（P.133参照）またはメカニカルキー（P.116参照）を使って解錠してください。

車両に正規の別の電子キーを携帯した人がいるときに車外から施錠するには

スマートエントリー ＆ スタートシステムでの施錠ができません。
車外から施錠するときは、ワイヤレスドアロックリモコン（P.133参照）またはメカニカルキー（P.116参照）を使って施錠してください。

エンジン始動操作後に作動表示灯が緑色に点滅しているときは

エンジン始動操作をしたときに、エンジンが始動せず“エンジン スタート ストップ”スイッチの作動表示灯が緑色に点滅しているときは、ハンドルの負荷によりステアリングロックが解除されていません。ハンドルを軽く左右にまわしながら、エンジン始動操作をしてください。

電子キーが正常に作動しないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（P.88参照）、電子キーのバッテリーが切れたときは、スマートエントリー ＆ スタートシステム、ワイヤレスドアロックリモコンが使用できなくなります。

施錠・解錠のしかた

電子キーに内蔵されているメカニカルキーを使用して、施錠・解錠します。

■メカニカルキーの取り出し方

ノブのキーマークのある側を押しながら、メカニカルキーを取り出します。

■メカニカルキーの格納のしかた

メカニカルキーを図のように挿し込みます。

■メカニカルキーでの施錠・解錠のしかた

運転席ドア

前にまわすと施錠、うしろにまわすと解錠されます。

●すべてのドアの施錠、解錠が同時にできます。

知 識

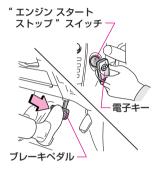
メカニカルキーについて

メカニカルキーを使用したあとは、なくさないように電子キーに格納しておいてください。電子キーのバッテリーが切れたときやスマートエントリー & スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。

ドアの施錠・解錠について

メカニカルキーを使用する方法は一時的な処置です。電子キーのバッテリーが切れたときは、ただちに交換することをおすすめします。（P.337参照）

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの切り替え方

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチに電子キーの（トヨタマーク）のある面でふれることで、スイッチの切り替えが可能になります。
P.96の「“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの切り替え方」を併せてお読みください。

1 **ブレーキペダルをしっかり踏みます。**

2 **電子キーの（トヨタマーク）のある面で“ エンジン スタート ストップ ” スイッチにふれます。**

電子キーを認識するとブザー音が鳴り、作動表示灯が緑色に点灯します。

3 **電子キー認識後、約5秒以内にすべてのペダルから足を離して、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。**

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押すごとに、スイッチが

アクセサリーモード⇒イグニッションＯＮモード⇒ＯＦＦ

の順に切り替わります。

知識

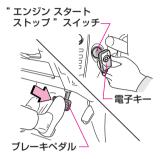
“エンジン スタート ストップ”スイッチの切り替えについて

●いったん“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにすると、スイッチを押しても、スイッチの切り替えができません。もう一度はじめから操作してください。
●電子キー認識後、約5秒以上たってから“エンジン スタート ストップ”スイッチを押しても、スイッチは切り替わりません。もう一度はじめから操作してください。
●“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれるスイッチの切り替え方法は一時的な処置です。電子キーのバッテリーが切れたときは、ただちに交換することをおすすめします。（P.337参照）

“エンジン スタート ストップ”スイッチ切り替え時の警報について

“エンジン スタート ストップ”スイッチ切り替え時に、いずれかのドアを開閉すると警報が鳴りますが異常ではありません。

エンジン始動のしかた

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチに電子キーの （トヨタマーク）のある面でふれることで、エンジンの始動が可能になります。
P.99「エンジン始動・停止のしかた」を併せてお読みください。

1 **ブレーキペダルをしっかり踏みます。**

2 **電子キーの（トヨタマーク）のある面で、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチにふれます。**

電子キーを認識するとブザー音が鳴り、作動表示灯が緑色に点灯します。

3 **電子キー認識後、約5秒以内にブレーキペダルを踏んだまま “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。**

ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジンが始動しないようになっています。

- ●エンジンが始動すると、作動表示灯は消灯します。
- ●完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
- ●エンジンが始動しない場合は、ブレーキペダルを踏まずに “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押して、一度スイッチをＯＦＦにしたあと、ブレーキペダルをさらに強く踏みながら、もう一度手順 *1* からやりなおします。このときブレーキペダルが重くなることがありますが、その際には通常よりも強くペダルを踏んでください。
- ●クランキングホールド機能(次ページ参照）が作動します。

■エンジン停止のしかた

通常のエンジン停止のしかたと同様です。（P.99参照）

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

知識

エンジンの始動について

- 電子キー認識後、約5秒以上たってから " エンジン スタート ストップ " スイッチを押しても、エンジンは始動しません。もう一度はじめから操作してください。
- " エンジン スタート ストップ " スイッチにふれるエンジンの始動方法は一時的な処置です。電子キーのバッテリーが切れたときは、ただちに交換することをおすすめします。(P.337参照)

エンジン始動時の警報について

エンジン始動時に、いずれかのドアを開閉すると警報が鳴りますが異常ではありません。

クランキングホールド機能について

- エンジン始動操作をしてすぐに手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を最大で約18秒間保持します。
- " エンジン スタート ストップ " スイッチを押したままでも、スターターの回転は最大で約30秒間です。約30秒経過してもエンジンが始動しない場合は、スターターの回転を停止します。その場合は、もう一度はじめから操作してください。

ドア、ドアガラスなどの開閉

ドアの開閉

キーでの施錠・解錠のしかた （P.90参照）

フロントドア

前にまわすと施錠、うしろにまわすと解錠されます。

●ドアロックスイッチ装着車の運転席ドアでは、すべてのドアの施錠、解錠が同時にできます。

知 識

キーについて

キーはドアの施錠・解錠の他、エンジンの始動・停止などに使います。

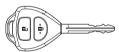
●万一、キーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

ワイヤレスドアロックリモコン装着車

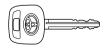
キーは2枚あります。

●2枚のキーのうち、1枚にワイヤレスドアロックリモコンが付いています。

●ワイヤレスドアロックリモコンの操作についてはP.133を参照してください。

ワイヤレスドアロック
リモコン付

＊キーの枚数および組み合わせは、車の仕様により異なる場合があります。

ワイヤレスドアロックリモコン装着車を除く

キーは2枚あります。

＊キーの枚数および組み合わせは、車の仕様により異なる場合があります。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車にお乗りの方は、参照ページをご覧ください。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

知識

キーナンバープレートについて

お客様以外にキーナンバーがわからないように、キーではなくプレートにキーナンバーを打刻しました。

- ●キーナンバープレートは車両以外の場所に大切に保管してください。
- ●万一、キーを紛失したときは、トヨタ販売店でキーナンバーからトヨタ純正品のキーをつくることができます。
- ●キーをつくるときは、トヨタ販売店にご相談ください。トヨタ純正品以外のキーを使用すると、キーがスムーズにまわらなくなるおそれがあります。

スマートエントリー & スタートシステム装着車にお乗りの方は、参照ページをご覧ください。

ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた★

運転席ドア

スイッチの右側を押すと施錠、左側を押すと解錠されます。

●すべてのドアの施錠・解錠が同時にできます。

知 識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

●“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態に関係なく使用できます。
●ドアロックスイッチを押し続けると作動しないことがあります。いったんスイッチから指を離し、押しなおしてください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

●エンジン スイッチ の状態に関係なく使用できます。
●ドアロックスイッチを押し続けると作動しないことがあります。いったんスイッチから指を離し、押しなおしてください。

セキュリティ機能について

車両盗難などを防ぐため、ドアロックスイッチでの解錠作動を停止する機能です。
(窓枠とドアガラスのすき間からドアロックスイッチを押して解錠されるのを防止します)
以下の方法で施錠したとき自動的に機能します。
●ワイヤレスドアロックリモコンを使っての施錠(P.133参照)
●ワイヤレスドアロックリモコンによる解錠操作後、ドアを開けなかったときの再施錠(P.134参照)
●運転席ロックレバーによる車外からの施錠(次ページ参照)
●運転席ドアにキー(P.122参照)またはメカニカルキー(P.116参照)を挿し込んでの施錠

スマートエントリー & スタートシステム装着車は、上記の方法に加え、以下の方法でも機能します。
●スマートエントリー & スタートシステムを使っての施錠(P.90参照)
●スマートエントリー & スタートシステムによる解錠操作後、ドアを開けなかったときの再施錠(P.92参照)

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ロックレバーでの施錠・解錠のしかた

■車内での施錠・解錠

ロックレバーを前方に押し込むと施錠、後方に引き出すと解錠されます。

■車外からの施錠

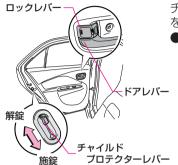
フロントドアはロックレバーを施錠側にして、ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。
リヤドアはロックレバーを施錠側にしてドアを閉めます。

知 識

便利機能について

運転席ドアのみロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くとドアが開きます。

チャイルドプロテクターの使い方

リヤドア

チャイルドプロテクターレバーを施錠側にしてドアを閉めます。

●車内のドアレバーでリヤドアを開けることができなくなります。

知 識

チャイルドプロテクターについて

走行中などに、お子さまが誤ってドアを開けたりしないように、ロックレバーの位置に関係なく、車内のドアレバーの操作ではリヤドアが開かないように施錠できます。

チャイルドプロテクターが働いているときのドアの開け方

ロックレバーを解錠状態にして、車外のドアハンドルを引いて開けます。
万一、車内から開けるときはドアガラスを開け、ロックレバーを解錠状態にして車外のドアハンドルを引いて開けます。

⚠警告　走行前にすべてのドアが閉まっていることを確認してください。

●走行前にすべてのドアが完全に閉まっていることを確認してください。
ドアが完全に閉まっていないと走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●走行中はドアレバーを引かないでください。
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

●お子さまにドアの操作をさせないでください。
・閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
・走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●傾斜地、ドアと壁などのあいだが狭い場所、強風など周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

便利機能について

キー抜き忘れ防止チャイム

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

キーが“ ＬＯＣＫ ”または“ ＡＣＣ ”の位置のとき、運転席ドアを開けると、キーの抜き忘れを警告するチャイムが“ピー、ピー、ピー”と鳴ります。
キーの閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠してください。

キー閉じ込み防止機能

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

ドアロックスイッチ装着車では、エンジン スイッチにキーが挿し込まれているときは、運転席ドアを開けた状態から、ドアロックスイッチやロックレバーにより施錠しようとしても施錠できません。

イルミネーテッドエントリーシステム (P.93参照)

ドアの開閉、施錠・解錠、エンジン スイッチ の状態と連動して、ルームランプ（ＤＯＯＲの位置のとき）が点灯・消灯します。

●いずれかのドアを開けると点灯し、すべてのドアを閉めると約15秒後に消灯します。※
●エンジン スイッチ を“ ＬＯＣＫ ” にすると点灯し、約15秒後に消灯します。※
●エンジン スイッチ が“ ＬＯＣＫ ” のとき運転席ドアを解錠すると点灯し、約15秒後に消灯します。※
●次のような場合は、ただちに消灯します。
・すべてのドアを閉め、エンジン スイッチ を“ ＡＣＣ ”または“ ＯＮ ” にしたとき
・エンジン スイッチ を“ ＡＣＣ ”または“ ＯＮ ” にして、すべてのドアを閉めたとき
・すべてのドアを閉め、運転席ドアを施錠したとき

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.374の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

知識

便利機能について

バッテリーあがり防止機能

エンジン スイッチにキーが挿し込まれていないとき、いずれかのドアが開いた状態で、ルームランプ（ＤＯＯＲのとき）が約20分以上点灯し続けると、バッテリーあがり防止機能が働き、ルームランプが自動的に消灯します。

施錠・解錠について

ワイヤレスドアロックリモコン装着車

ワイヤレスドアロックリモコンで施錠・解錠することもできます。
P.133の「ワイヤレスドアロックリモコンの使い方」を参照してください。

乗車中の施錠・解錠の効果について

乗車中の施錠・解錠については、それぞれ次のような効果がありますので選択してください。

〈乗車中、施錠している場合〉

●同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
●車外からの不意の侵入者を防ぎます。
●シートベルトの着用と併せて、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。

〈乗車中、解錠している場合〉

●万一の場合に車外からの救援活動が受けやすくなります。

車から離れるときは、必ずエンジンを停止して施錠することが法律で義務付けられています。また、車両盗難や車内の物を盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車にお乗りの方は、参照ページをご覧ください。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

トランクの開閉

車外からの開け方 (P.94参照)

(P.94参照)

スマートエントリー & スタートシステム装着車

P.133の「ワイヤレスドアロックリモコンの使い方」を参照してください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

キーを挿し込み右にまわすと開きます。

車内からの開け方 ★

トランクオープナー（ ）を引くと開きます。

スマートエントリー & スタートシステム装着車にお乗りの方は、参照ページをご覧ください。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

走行中はトランクを閉じてください。また、トランク内には絶対に人を乗せないでください。

●走行中はトランクを閉じてください。開けたまま走行すると、トランクが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行する前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。
●走行前にトランクが完全に閉まっていることを確認してください。トランクが完全に閉まっていないと、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●お子さまを乗せているときは以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
・お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。不意にトランクリッドが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。
●トランクの使用にあたって以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
・トランクを開ける前にトランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが落下するおそれがあります。
・トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
・人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
・強風時の開閉には十分注意してください。トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
・半開状態で使用すると、トランクリッドが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。

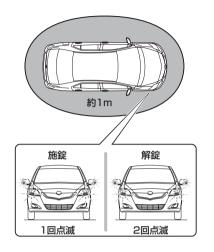
・トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
・トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
・トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重たくなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

エンジンが停止しているときは、トランク灯を長時間点灯させたままにしないでください。

●エンジンが停止しているときは、トランク灯を長時間点灯させたままにしないでください。バッテリーあがりを起こすおそれがあります。
●トランク内にキーを置き忘れないようにご注意ください。

便利機能について

トランク灯
トランクを開けると、トランク灯が点灯します。夜間の荷物確認などに便利です。

ワイヤレスドアロックリモコンの使い方★

電子キー

■ドアの施錠・解錠のしかた

🔒スイッチを押すとすべてのドアが施錠されます。

🔓スイッチを押すとすべてのドアが解錠されます。

- 施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。※
- 解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅し、ブザーが2回鳴ります。※
- スイッチを押すとキーのＬＥＤが点灯します。
- スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。
- 施錠操作をしたときは、必ず施錠作動したことを確認してください。

■トランクの開け方

トランクスイッチを約１秒間押し続けると、トランクが開きます。※

- 作動が完了するとブザーが鳴ります。
- スイッチを押すとキーのＬＥＤが点灯します。
- トランクスイッチはゆっくりと確実に押してください。
- うまく解錠されなかったとき、トランクスイッチを押し続けても解錠操作は繰り返されません。スイッチを押しなおしてください。

ワイヤレスドアロックリモコンキー

■ドアの施錠・解錠のしかた

🔒スイッチを押すとすべてのドアが施錠されます。

🔓スイッチを押すとすべてのドアが解錠されます。

- 施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅します。※
- 解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅します。※
- スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。
- 施錠操作をしたときは、必ず施錠作動したことを確認してください。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.374の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

リモコンスイッチは電子部品です。強い衝撃などを与えると故障の原因となりますので、以下の点にご注意ください。

●ダッシュボードの上など高温になる所に置かないでください。
●分解しないでください。
●落としたり、強い衝撃を与えないでください。
●水にぬらさないでください。

知 識

作動条件について

●ワイヤレスドアロックリモコンは周囲の状況により作動可能距離がかわることがあります。確実に作動させるためには、車両から約1mまで近付いて操作してください。
●ワイヤレスドアロックリモコンは微弱な電波を使用しています。次のような場合は、リモコンと車両間の通信をさまたげ、正常に作動しない場合があります。その場合はキーで操作してください。
・近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など強い電波を発生する設備があるとき
・無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき
・リモコンが金属製のものに接したり、覆われているとき
・複数のリモコンが近くにあるとき
・リモコンをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
・近くでワイヤレスドアロックのリモコンを使用しているとき
●リヤウインドゥガラスに次のものを貼り付けると、車両後方からリモコンスイッチの操作をした場合、受信器への電波がさえぎられて受信感度が低下し、作動可能距離が短くなるおそれがあります。
・金属を含有するウインドゥフィルム
・その他の金属物（トヨタ純正品以外のアンテナなど）
●スイッチはいずれかのドアが開いているときは作動しません。
スマートエントリー & スタートシステム装着車は、半ドア警報（P.110参照）が鳴ります。
●スイッチ、スイッチを押し続けてもドアの施錠・解錠は繰り返されません。
スイッチを押しなおしてください。
●スイッチを押して解錠操作をしたあと、約30秒以内にドアを開けなかったときは自動的に施錠されます。※

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.374の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

●ワイヤレスドアロックリモコン装着車では、リモコンスイッチはエンジン スイッチにキーが挿し込まれているときは作動しません。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

知識

航空機内へのキーの持ち込みについて

航空機に電子キー・ワイヤレスドアロックリモコンキーを持ち込む場合は、航空機内で電子キー・ワイヤレスドアロックリモコンキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム (P.93参照)

ドアの解錠・施錠と連動して、ルームランプ（ＤＯＯＲの位置のとき）が点灯・消灯します。詳しくはP.128を参照してください。

リモコンのバッテリー交換について

リモコンスイッチを押しても作動しない場合や著しく作動可能距離が短くなった場合、またはＬＥＤが暗くなったり、点灯しなくなった場合（電子キーのみ）、リモコンのバッテリーの消耗が考えられます。バッテリーを交換してください。

●バッテリー交換は、お客様ご自身で交換することができますが（P.337、339参照）、交換の際に破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

紛失について

キーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

●キーの紛失時などに、ワイヤレスドアロックリモコンの作動を停止させることもできます。

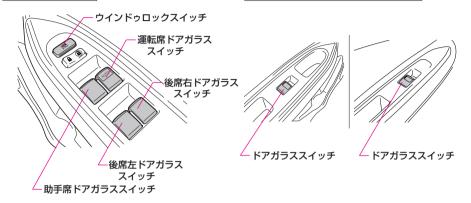
使用個数について

電子キー、ワイヤレスドアロックリモコンキーは、同じ車両で最大4個まで使用することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車にお乗りの方は、参照ページをご覧ください。

ドアガラスの開閉

パワーウインドゥの使い方 ★

運転席スイッチ　　助手席スイッチ・後席スイッチ

運転席スイッチでは、すべてのドアガラスの開閉が行えます。
助手席スイッチ、後席スイッチでは、自席のドアガラスの開閉が行えます。

■ドアガラスの開閉のしかた

スイッチを下に押しているあいだは開き、上に引いているあいだは閉まります。
スイッチから手を離すと、その位置で停止します。

■ドアガラスの自動開閉のしかた

運転席ドアガラス

●全開するときは、スイッチを下に強く押して手を離します。
　途中で止めたいときは、スイッチを軽く引き上げます。
●全閉するときは、スイッチを上に強く引き上げて手を離します。
　途中で止めたいときは、スイッチを下に軽く押します。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

知識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。ただし、ウインドゥロックスイッチがＯＮになっているときは、運転席ドアガラス以外のパワーウインドゥは作動しません。

●“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードのときは、運転席ドアガラススイッチのＡＵＴＯの文字が点灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ＯＮ”のとき使用できます。
ただし、ウインドゥロックスイッチがＯＮになっているときは、運転席ドアガラス以外のパワーウインドゥは作動しません。

●エンジン スイッチが“ＯＮ”のときは、運転席ドアガラススイッチのＡＵＴＯの文字が点灯します。

安全機能について

挟み込み防止機構

運転席ドアガラス

運転席ドアガラスを閉めるときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物の挟み込みを感知すると、ドアガラスの上昇を停止し、自動で少し開き止まります。

●環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃や荷重がドアガラスに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

パワーウインドゥを閉めることができないときは

挟み込み防止機構が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、運転席のパワーウインドゥスイッチで、下記の操作を行ってください。

●車を停止し、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモード（スマートエントリー & スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチを“ＯＮ”（スマートエントリー & スタートシステム非装着車）の状態で、パワーウインドゥスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機構の初期化を次の手順で実施してください。

1. **パワーウインドゥスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを6秒間引き続けます。**
2. **パワーウインドゥスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを2秒間押し続けます。**
3. **再度、パワーウインドゥスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを2秒間引き続けます。**

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

便利機能について

キーＯＦＦ後作動機能

運転席ドアガラス

<スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車の場合>

運転席ドアガラスは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードからアクセサリーモードまたはＯＦＦにしたあとでも約45秒間は開閉することができます。ただし、約45秒間に運転席ドアを開けてからいったん閉めると、ドアガラスの開閉はできなくなります。

●キーＯＦＦ後作動が機能しているあいだは、運転席ドアガラススイッチのＡＵＴＯの文字が点灯します。

<スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車の場合>

運転席ドアガラスは、エンジン スイッチを “ ＯＮ ” から “ ＡＣＣ ” または “ ＬＯＣＫ ” にしたあとでも約45秒間は開閉することができます。ただし、約45秒間に運転席ドアを開けてからいったん閉めると、ドアガラスの開閉はできなくなります。

●キーＯＦＦ後作動が機能しているあいだは、運転席ドアガラススイッチのＡＵＴＯの文字が点灯します。

ウインドゥロックスイッチの使い方 ★

ウインドゥロックスイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切り替わります。
スイッチをＯＮにすると、運転席ドアガラス以外のパワーウインドゥは作動しません。

ウインドゥロックスイッチ	運転席スイッチ	助手席スイッチ・後席スイッチ
ＯＮ	運転席ドアガラスの開閉ができます。	開閉できません。
ＯＦＦ	すべてのドアガラスの開閉ができます。	開閉できます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

⚠警告

走行中は窓から手や顔を出さないでください。また、ドアガラスを開閉するときは手・腕・頭・首などを挟まないようにしてください。

●走行中は窓から手や顔を出さないでください。車外のものなどにあたったり、急ブレーキをかけたときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアガラスを開閉するときは、他の人の手・腕・頭・首などを挟まないように注意してください。とくにお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまにドアガラスの操作をさせないでください。開けるときや閉めるとき手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込まれたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアガラスを確実に閉めるため、閉じ切り直前の部分では挟み込みを感知していない領域があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機構は、スイッチを強く引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機構を故意に作動させるため、手などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

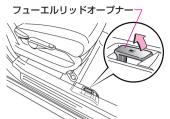
●万一、挟み込み防止機構が作動してしまい、ドアガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けると閉めることができます。

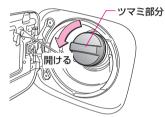
運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

●運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

●ドアガラスの全開、全閉後に同じ方向にスイッチを操作し続けないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

フューエルリッド（燃料補給口）の開閉

フューエルリッドの開閉

運転席右下にあるフューエルリッドオープナー（ ）を引くと開きます。
閉めるときは、フューエルリッドを手で“カチッ”と音がするところまで閉めます。

フューエルキャップの開閉

■開けるとき
キャップのツマミ部分を持ち、左にまわして開けます。

■閉めるとき
キャップのツマミ部分を持ち、“カチッ”と一度音がするまで右にまわして閉めます。

⚠警告　燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。

●燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、燃料に引火してやけどなどの重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・エンジンは必ず停止してください。
・車のドア、窓は閉めてください。
・タバコなど火気を近付けないでください。
・フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分にふれて体の静電気除去を行ってください。体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。
・フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
フューエルキャップを少しゆるめたときに“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。その音が止まってからゆっくり開けてください。
・給油中、再び車内のシートにもどったり、帯電している人やものにふれないでください。（再帯電することがあります）

警告 **燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。**

・給油口には静電気除去を行った方以外を近付けないでください。
・給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
・給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と一度音がするまで右にまわしてください。手を離すと若干もどります。
・車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
・その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合はスタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

●給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますので、ご注意ください。

指定以外の燃料を使用しないでください。

●指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
●指定以外の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。
●給油中に燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。
●フューエルリッド（燃料補給口）を開けた状態で、給油口付近に水をかけないでください。

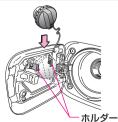
知識

フューエルリッドの位置について

フューエルリッド（燃料補給口）は車両助手席側後方にあります。

燃料タンク容量について

燃料タンク容量は約42Ｌです。

フューエルキャップホルダーについて

燃料補給時に、はずしたフューエルキャップをフューエルリッドの裏側にあるホルダーに格納することができます。

ボンネットの開閉

開け方

1 ボンネットオープナーを引きます。

運転席インストルメントパネル右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。

2 ボンネットフックをはずします。

ボンネットのすき間に手を入れ、レバーを押し上げ、ボンネットフックをはずして持ち上げます。

3 ボンネットステーを挿し込みます。

ボンネットステーをステー穴に挿し込んでボンネットを支えます。

閉め方

1 ボンネットステーをはずし固定します。

2 ボンネットを静かに降ろします。

3 ボンネットを閉めます。

ボンネットの前端を両手で押さえ付けロックします。

4 ロックされていることを確認します。

ボンネットの前端を上下にゆすり、確実にロックされていることを確認します。

警告

走行前にはボンネットが確実にロックされていることを確認してください。ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。

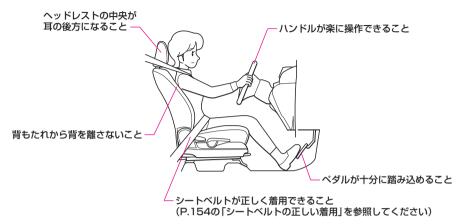
●ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

シートの調整

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるように、次の事項に注意してシートを調整します。

⚠ 警告	走行中はシートの調整をしないでください。

●走行中はシートの調整をしないでください。調整中にシートが突然動き運転を誤り、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●フロントシートの下にものを置かないでください。ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因になります。
●背もたれと背中のあいだにクッション（座布団）などを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

警告

ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、必ず次のことをお守りください。

ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、ＳＲＳサイドエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取り付けないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがＳＲＳサイドエアバッグ展開部を覆うと、ＳＲＳサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取り付けてください。

●フロントシートの表皮の張り替えやフロントシートの取り付け・取りはずし・分解・修理などが必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。

●フロントシート側面などＳＲＳサイドエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。ＳＲＳサイドエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

シートを調整するときは同乗者や荷物などまわりの状況に注意してください。

●シートを調整するときは、同乗者や荷物にあてないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。

●シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近付けないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。

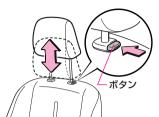
●車内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートの下に手を入れると、シートレール・シートフレーム（シートの土台部分）などにあたり、けがをするおそれがありますので十分に注意して行ってください。

●シートレールの上にマットなどを敷かないでください。シートを移動させるときに、シートレール内のゴム部分を損傷させるおそれがあります。

フロントシートの調整

シートの調整のしかた

調整箇所	レバー	操作
前後位置調整	後方へ 前方へ 引く	レバーを引いたまま、シートを前後に動かして調整します。
運転席 上下位置調整	シート全体上がる シート全体下がる	レバーを動かして調整します。
リクライニング調整	引く	レバーを引いたまま、背もたれを前後に動かして調整します。

ヘッドレストの上下位置調整のしかた

●上げるときは、そのまま引き上げます。
●下げるときは、ボタンを押したまま押し下げます。
●取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。

助手席に荷物を積み重ねないでください。

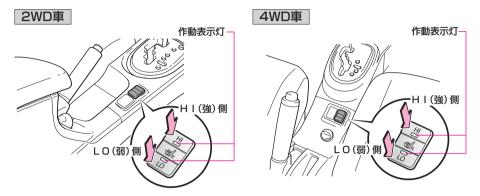
●助手席に荷物を積み重ねないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに、荷物が飛び出して乗員にあたったり、荷物を損傷したり荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体が慣性力で飛ばされ頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレストの中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
●フロントシートのヘッドレストはフロントシート専用です。取り付けるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。ヘッドレストを間違って取り付けると固定することができず、衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。

●背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。背もたれに力が加わっていると、レバー操作が重かったり、突然背もたれが倒れるおそれがあります。
●背もたれの調整をするときは、リクライニングレバーをいっぱいまで引き上げたまま背もたれを調整してください。レバーをいっぱいまで引き上げずに調整すると、リクライニング機構の故障の原因となります。

快適温熱シート（運転席）の使い方 ★

運転席を暖めます。

■使用するときは

スイッチのＨＩ（強）側またはＬＯ（弱）側を押します。

●スイッチのＨＩ（強）側を押すと、シートの肩部分と背もたれ全体、およびクッション部を暖めます。
・作動表示灯が黄色に点灯します。

●スイッチのＬＯ（弱）側を押すと、シートの肩部分と背もたれ中央部のみを暖めます。
・作動表示灯が緑色に点灯します。

■停止するときは

スイッチを中立にもどします。

●作動表示灯が消灯します。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

警告 **快適温熱シートを使用するときは、次の点に注意してください。**

●下記に相当される方がご使用になる場合は、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので、十分注意してください。
・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用された方
●毛布や座布団など保温性の良いものをかけた状態で使用しないでください。シートが異常過熱し、低温やけどやシートの故障につながるおそれがあります。
●仮眠するときは使用しないでください。シートが異常過熱し、低温やけどをするおそれがあります。

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針など鋭利なものを突き刺したりしないでください。

●凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針など鋭利なものを突き刺したりしないでください。故障の原因になります。
●シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターやシートの表面を損傷するおそれがあります。
●バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間使用しないでください。

知 識

作動条件について

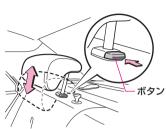
スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ＯＮ”のとき使用できます。

リヤシートの調整

ヘッドレストの上下位置調整のしかた

●上げるときは、“カチッ”と音がするところまで引き上げます。
●下げるときは、ボタンを押したまま押し下げます。
●取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。

アームレストの使い方

分割可倒シート

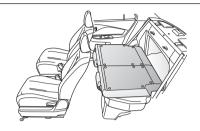
●使用するときは、手前に倒します。
●使用しないときは、シートへ格納してください。

⚠警告　後席に荷物を積み重ねないでください。

●後席に荷物を積み重ねないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに、荷物が飛び出して乗員にあたったり、荷物を損傷したり荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●分割可倒シート装着車で、リヤシートを操作するときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷付くおそれがあり、傷付いたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体が慣性力で飛ばされ頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレストは必ず上げた状態で使用してください。
●リヤシートのヘッドレストはリヤシート専用です。取り付けるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。ヘッドレストを間違って取り付けると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●ヘッドレストを使用するときは常に格納位置（ヘッドレストが最も下がった位置）から“カチッ”と音がするまで上げた位置にしてください。また、ヘッドレストを押し下げ、確実に固定されていることを確認してください。

リヤシート前倒しのしかた

左右に分割されているリヤシートをそれぞれ倒すことができます。

分割可倒シート

前倒しするときは

1 **シートベルトをベルトガイドからはずします。**

2 **ヘッドレストをいちばん下にします。**
(P.150参照)

固定ノブ
赤ラベル

3 **リヤシートの背もたれを倒します。**

倒したい方の背もたれの固定ノブを引いて、背もたれを前に倒します。

もどすときは

1 **背もたれを起こして、うしろに押さえ付けます。**

- ●背もたれを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。
- ●背もたれがロックされていないときは、赤ラベルが見えます。赤ラベルが見えていないことを確認してください。

2 **シートベルトをベルトガイドに通します。**

シートベルトがリヤシートに引っ掛かっていないか、また、ねじれていないか確認します。

走行中はリヤシートを操作しないでください。

●走行中はリヤシートを操作しないでください。
ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●リヤシートを操作をするときは、必ず平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをⓅに入れてください。不整地や傾斜地では操作中に不意にリヤシートが動き、手足などを挟まれ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●倒した背もたれの上やトランクに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●お子さまがトランクに入らないように注意してください。ボディの突起にあたるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●背もたれをもとにもどしたときは、リヤシートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にリヤシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●背もたれをもどすときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷付くおそれがあり、傷付いたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

リヤシートを操作するときは、同乗者や荷物にあてないように注意してください。

●リヤシートを操作するときは、同乗者や荷物にあてないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
●リヤシートを操作するときは、リヤシートのロック機構部分、動いている部分の近くに手や足などを近付けないでください。指や手、足などを挟み、けがをするおそれがあります。

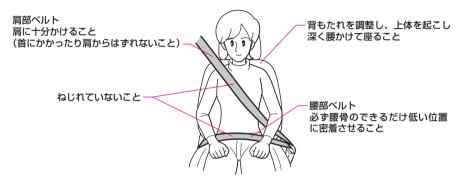
知 識

リヤシートを前倒ししにくいときは

フロントシートにあたって背もたれを前倒ししにくいときは、次のようにしてください。
●フロントシートを前方に移動する（P.146参照）
●リヤシートのヘッドレストをはずす（P.150参照）

シートベルトの着用

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法に従って、走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

警告　必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

●車に乗る場合は、全員がシートベルトを着用してください。ベルトを着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに体がシートに保持されず、体をぶつけたり、ふくらむＳＲＳエアバッグに飛ばされたり、車外に投げ出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・シートベルトは上体を起こして、シートに深く腰かけた状態で着用してください。正しい姿勢についてはP.144を参照してください。

・肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。必ず肩に十分かかるように着用してください。

・腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。シートベルトの腰部ベルトが腰骨からずれていると衝突したとき、腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。

・シートベルトはねじれがないように着用してください。ねじれていると衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができません。

・シートベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使用しないでください。

・リヤ3点式シートベルトを使用するときは、ベルトガイド（P.152参照）にシートベルトが通っていることを確認してください。
ベルトガイドにシートベルトが通っていないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

・シートベルトを着用する場合は、洗たくばさみやクリップなどでたるみを付けないでください。

必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

・シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。

・ハンドルやインストルメントパネルに必要以上に近付いて運転しないでください。

●シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。シートベルトが傷付いた場合、十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。
ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。
(ただし、医師に注意事項をご確認ください)

・妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるように、お腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

・ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●疾患のある方も必ずシートベルトを正しく着用してください。
(ただし、医師に注意事項をご確認ください)

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

警告 **必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。**

●シートベルトが首やあごにあたったり、腰骨にかからないような小さなお子さまには、チャイルドシート・ジュニアシートを使用してください。使用しない場合、衝突したときなどに強い圧迫を受け重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、ひとり座りのできない小さなお子さまはベビーシートを使用してください。
なお、ベビーシート・チャイルドシート・ジュニアシートについてはトヨタ販売店にご相談ください。
●シートベルトのバックルには異物が入らないようにしてください。異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトはすぐにトヨタ純正の新品と交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷の付いたシートベルトは使用しないですぐに新品と交換してください。そのまま使用すると衝突したときなどに正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●シートベルトの改造や分解・取り付け・取りはずしなどをしないでください。衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
シートベルトの取り付け・取りはずし、交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。
●シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートを使用しないでください。

シートベルトの着用のしかた

3点式シートベルト

フロントシート・リヤシート左右席

1 **シートベルトを引き出します。**

プレートを持って引き出し、ねじれていないことを確認してください。
シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

2 **プレートをバックルに挿し込みます。**

プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに挿し込みます。

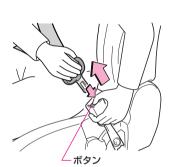
<スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車の場合>
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションONモードのとき、シートベルト非着用警告灯（P.212、213参照）が、消灯したことを確認してください。（フロントシートベルト着用時のみ）

<スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車の場合>
エンジン スイッチが“ ON ”のとき、シートベルト非着用警告灯（P.212、213参照）が、消灯したことを確認してください。（フロントシートベルト着用時のみ）

3 **腰部ベルトを密着させます。**

腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させます。

4 **肩部ベルトをかけます。**

肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるようにします。このとき、ベルトが首にあたったり、肩からはずれないようにしてください。

5 **ベルトの高さを調整します。**

フロントシートでは、アジャスタブルショルダーベルトアンカーでベルトの高さを調整します。
調整するときは、ベルトができるだけ肩の中央にかかるようにしてください。

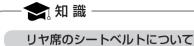
- ●上げるときは、アンカー部を持ち、そのまま動かします。
- ●下げるときは、ロックボタンを引いたままアンカー部を動かし、最適な位置に調整します。

“カチッ”と音がし、確実に固定されていることを確認します。

6 **はずすときは、バックルのボタンを押してはずします。**

アジャスタブルショルダーベルトアンカーを調整するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●シートベルトが首にあたらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。
- ●調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

リヤ席のシートベルトについて

リヤ席では、各席用のバックルを間違えないように、シートベルトをご着用ください。

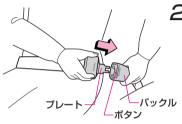
●3点式シートベルトの着用のしかたは、前席用と同様です。

●2点式シートベルトの着用のしかたは、次ページを参照してください。

2点式シートベルト

リヤシート中央席

1 **ベルトの長さを調整します。**

プレートを図のように持ち、ベルトを引き、必要な長さより少し長めにします。

2 **ベルトを結合します。**

ベルトにねじれがないようにし、プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに挿し込みます。

●プレートとバックルに「CENTER」の刻印があるものどうしで接続してください。
「CENTER」の刻印があるものとないものでは接続されません。

3 **ベルトを密着させます。**

ベルトを引いて必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。

4 **はずすときは、バックルのボタンを押してはずします。**

はずしたベルトはバックルにはめておいてください。

チャイルドシートの固定

シートベルトでの固定

シートベルトでチャイルドシートを固定することができます。

取り付けるときは

リヤシート左右席

1 **分割可倒シートで前倒ししているときはシートを起こし、確実に固定されていることを確認します。（P.152参照）**

2 **シートベルトを取り付けます。**

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込みます。
その際ベルトがねじれていないことを確認します。

- チャイルドシートに付属の取扱書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わってない場合は

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定します。

- ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。
（ロッキングクリップ 品番：73119-22010）

取り付けたあとはチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

＊イラストは説明のためのものであり、実際のチャイルドシート・ベビーシートの形状とは異なります。

警告 **チャイルドシート・ベビーシートの取り付けは、必ず商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、正しく取り付けてください。**

●正しく取り付けられていないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
なお、チャイルドシート・ベビーシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●チャイルドシート・ベビーシートの取り扱いについては、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・車両にチャイルドシート・ベビーシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。チャイルドシート・ベビーシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
・チャイルドシート・ベビーシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、トランク内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

道路運送車両の保安基準に適合する、ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカー対応のトヨタ純正チャイルドシート・ベビーシートは、ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカーで固定し、この車のシートベルトでは固定しないでください。
（ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカーについては、次ページの「ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカーでの固定」を参照してください）

ＩＳＯ※ ＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカーでの固定

ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカーには、ベルタ指定の道路運送車両の保安基準に適合するＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカー対応の、トヨタ純正チャイルドシート・ベビーシートのみ取り付けることができます。お子さまに最適な子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。

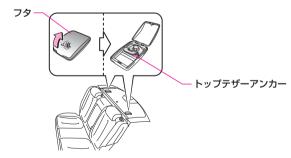
リヤシート左右席

ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バーの位置

シートクッションと背もたれのあいだにあります。

●固定専用バーが装備されていることを示すタグ（ＩＳＯＦＩＸ）がシートに付いています。

トップテザーアンカーの位置

リヤシート後方にあります。フタの表面にトップテザーアンカーが装備されていることを示すマークが刻印されています。

使用するときは、フタを開けます。

トップテザーアンカーを使用しないときは、フタを確実に閉めてください。開けたままにしておくと、フタが破損するおそれがあります。

※ International Organization for Standardization の略で「国際標準化機構」の意味。

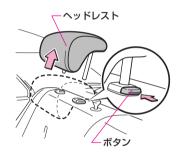
取り付けるときは

1 **ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカーの位置を確認します。**

（前ページ参照）

2 **ヘッドレストを調整します。**

チャイルドシート・ベビーシートをお子さまがうしろを向くように取り付ける場合は、ヘッドレストを“カチッ”と音がするところまで引き上げます。

●ヘッドレストが固定されていることを確認してください。

チャイルドシート・ベビーシートをお子さまが前を向くように取り付ける場合は、ヘッドレストを取りはずします。

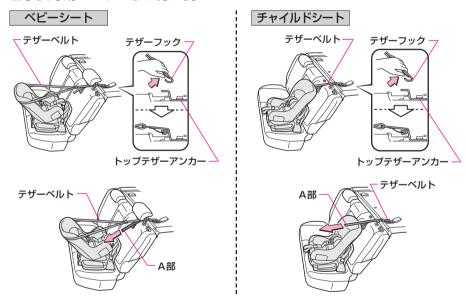
●ボタンを押したまま引き抜きます。

3 チャイルドシート・ベビーシートをリヤシートに取り付けます。

適合するチャイルドシート・ベビーシートの取り付け金具をＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカーに連結して取り付けます。

＊取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

●テザーベルトがねじれないように、テザーフックをトップテザーアンカーにかけます。
●テザーベルトがピンと張るまでＡ部を強く引っ張って、チャイルドシート・ベビーシートを固定します。

■子供専用シートの取り付け例

＊イラストは説明のためのものであり、実際のチャイルドシート・ベビーシートの形状とは異なります。

4 確実に固定されていることを確認します。

取り付けたチャイルドシート・ベビーシートを軽くゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認します。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

⚠警告 **チャイルドシート・ベビーシートの取り付けは、必ず商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、正しく取り付けてください。**

●正しく取り付けられていないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
なお、チャイルドシート・ベビーシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。

●チャイルドシート・ベビーシートが固定されていることを必ず確認してください。チャイルドシート・ベビーシートを取り付けるときは、ＩＳＯＦＩＸ対応チャイルドシート固定専用バー ＆ トップテザーアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどをかみ込むとチャイルドシート・ベビーシートが固定されず、衝突したときなどに飛ばされて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシート・ベビーシートを取り付けるときは、必ずテザーベルトがピンと張るまで張力をかけてください。テザーベルトが正しく張っていないと、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●チャイルドシート・ベビーシートをお子さまがうしろを向くように取り付ける場合は、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。また、お子さまが前を向くように取り付ける場合は、必ずヘッドレストをはずしてください。ヘッドレストの上にかけると、チャイルドシート・ベビーシートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

警告

トップテザーアンカーでチャイルドシート・ベビーシートを固定するときは、次のことをお守りください。

●チャイルドシート・ベビーシートをお子さまがうしろを向くように取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。
ヘッドレストを下げると、テザーベルトがヘッドレストにあたってたるみ、衝突したときなどにチャイルドシート・ベビーシートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシート・ベビーシートの取り扱いについては、以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・車両にチャイルドシート・ベビーシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。チャイルドシート・ベビーシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
・チャイルドシート・ベビーシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、トランク内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

ハンドル、ミラーの調整

ハンドルの調整

ステアリングレバーを押し下げ、ハンドルを上下に動かし適切な位置にして、ステアリングレバーを引き上げると固定されます。

警告 **走行中はハンドル位置の調整をしないでください。**

●走行中はハンドル位置の調整をしないでください。調整中に運転を誤り、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとハンドル位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意 ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないとホーンが鳴らない場合があります。

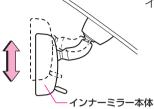
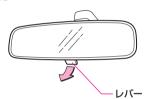
知 識

パワーステアリングの作動音について

ハンドル操作を行ったとき、“ウィーン”という音が聞こえることがあります。これは、パワーステアリングが作動しているときの音で異常ではありません。

インナーミラーの調整

調整のしかた

インナーミラー本体を持って調整します。

防眩切り替えのしかた

通常はミラー下側のレバーを前方に押した状態で使用します。
後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引きます。

警告	走行中はインナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ドアミラーの調整

鏡面角度調整のしかた

電動格納式ドアミラー装着車

1 メインスイッチを調整する側にします。

Ｒ…右側ドアミラー
Ｌ…左側ドアミラー

2 角度を調整します。

位置調整スイッチで、鏡面の角度を調整します。

3 メインスイッチを中立にします。

調整したあとは、メインスイッチを中立の位置にもどします。

手動調整式ドアミラー装着車

ドアミラーの鏡面を手で調整します。
調整したあとは、運転席に座り、ドアミラーで後方確認が十分できるか確認してください。

格納・復帰のしかた

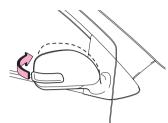
電動格納式ドアミラー装着車

格納スイッチを押すごとに、ＯＮ（格納）とＯＦＦ（復帰）に切り替わります。

	スイッチの状態	ミラーの状態
ＯＮ（格納）		
ＯＦＦ（復帰）		

<スマートエントリー & スタートシステム装着車の場合>
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがＯＦＦのときは、手動で格納・復帰することもできます。

<スマートエントリー & スタートシステム非装着車の場合>
エンジン スイッチが “ ＬＯＣＫ ” のときは、手動で格納・復帰することもできます。

手動調整式ドアミラー装着車

ドアミラー全体を車両後方に倒して格納します。

●走行前には、必ず“カチッ”と音がするところまでもどします。

警告 **走行中はドアミラーの調整をしないでください。**

●走行中はドアミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ドアミラーを倒したまま走行しないでください。ドアミラーによる後方確認ができず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意 電動格納式ドアミラー装着車では、ドアミラーが動いているときは手をふれたりしないでください。手を挟んでけがをしたり、ドアミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

知 識

作動条件について

電動格納式ドアミラー装着車

<スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車の場合>

●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードのとき使用できます。
●ドアミラー格納作動中に、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにすると、格納作動が停止します。
●次の場合は、ドアミラーを手動で格納・復帰してもドアミラーは格納スイッチの状態にもどります。
・手動で操作したあとに“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードにしたとき
●格納スイッチがＯＦＦ（復帰）の状態で、手動でドアミラーを前方に倒したときは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードにしてもドアミラーは復帰しません。
一度格納スイッチをＯＮ（格納）にしてから、再度格納スイッチをＯＦＦにして復帰させてください。

<スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車の場合>

●エンジン スイッチが“ ＡＣＣ ” または“ ＯＮ ”のとき使用できます。
●ドアミラー格納作動中に、エンジン スイッチを“ ＬＯＣＫ ”にすると、格納作動が停止します。
●次の場合は、ドアミラーを手動で格納・復帰してもドアミラーは格納スイッチの状態にもどります。
・手動で操作したあとにエンジン スイッチを“ ＡＣＣ ” または“ ＯＮ ”にしたとき
●格納スイッチがＯＦＦ（復帰）の状態で、手動でドアミラーを前方に倒したときは、エンジン スイッチを“ ＡＣＣ ” または“ ＯＮ ”にしてもドアミラーは復帰しません。
一度格納スイッチをＯＮ（格納）にしてから、再度格納スイッチをＯＦＦにして復帰させてください。

エンジンのかけ方

エンジン（イグニッション）スイッチの切り替え方

(P.96参照)

エンジン スイッチにキーを挿し込み、キーをまわして切り替えます。

●キーを抜くときはキーを“ＬＯＣＫ”の位置にしてから引き抜きます。

エンジン スイッチの位置	エンジンの状態	各状態の働き
LOCK	停止	電装品が停止している状態です。 キーの抜き挿しができる位置です。 ハンドルがロックされる位置です。
ACC	停止	オーディオなどの電装品が使用できます。
ON	停止	すべての電装品が使用できます。
	回転中	すべての電装品が使用できます。 通常運転中の状態です。
START	始動	エンジンを始動する位置です。 キーから手を離すと“ON”の位置にもどります。

“ＬＯＣＫ”から“ＡＣＣ”にするときは

ハンドルロックがかかっていてキーがまわしにくいときは、ハンドルを軽く左右にまわしながらキーをまわします。

“ＡＣＣ”から“ＬＯＣＫ”にするときは

シフトレバーをⓅに入れてから、キーを押しながらまわします。

エンジン停止時は、エンジン スイッチを“ＯＮ”または“ＡＣＣ”のまま長時間放置すると、バッテリーあがりの原因となります。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車にお乗りの方は、参照ページをご覧ください。

（P.99参照）

エンジン始動のしかた

1 ペダルの位置を確認します。

正しい運転姿勢（P.144参照）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

2 右足でブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

3 シフトレバーの位置を確認します。

シフトレバーがⓅにあることを確認します。
●Ⓝでも始動できますが、安全のためⓅで行ってください。

4 エンジンを始動します。

アクセルペダルを踏まずに、キーを“ＳＴＡＲＴ”の位置までまわします。
●エンジン始動操作をしてもエンジンが始動しない場合は、一度キーを“ＬＯＣＫ”の位置にしてから再度エンジン始動操作をしてください。

１ＫＲ－ＦＥエンジン搭載車を除く

●クランキングホールド機能（次ページ参照）が作動します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車にお乗りの方は、参照ページをご覧ください。

エンジン停止のしかた

キーを“ＡＣＣ”または“ＬＯＣＫ”の位置にまわします。

⚠警告　車外からのエンジンの始動は絶対に行わないでください。

- 車外からのエンジンの始動は絶対に行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。
- 走行中はエンジンを停止しないでください。エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

クランキングホールド機能について

１ＫＲ－ＦＥエンジン搭載車を除く

キーを“ＳＴＡＲＴ”の位置にまわしてすぐに手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を最大で約18秒間保持します。
エンジンが始動しない場合は、スターターの回転を停止します。その場合は、もう一度エンジンをかけなおしてください。
また、途中で作動を停止させる場合は、キーを“ＡＣＣ”または“ＬＯＣＫ”の位置にします。

シフトレバーの使い方

Super CVT－i

2WD車

シフトレバーの働き

P（パーキング）

駐車およびエンジン始動

駐車のときは、必ずⓅにしてください。

シフトロック解除ボタン（P.180参照）

R（リバース）

後退

ギヤが後退に固定されます。
ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。

N（ニュートラル）

動力が伝わらない状態

Ⓝでもエンジンは始動できますが、安全のためⓅで行ってください。

D（ドライブ）

通常走行（前進）

車速とアクセルペダルの踏み加減に応じて変速します。

S（スポーツドライブ）

坂道走行（前進）

下り坂では軽いエンジンブレーキが得られます。
上り坂ではエンジン回転数の変化が少なく、なめらかできびきびとした走行ができます。

B（ブレーキ）

急な下り坂走行（前進）

強力なエンジンブレーキが必要な場合に使います。

シフトレバーの取り扱い

ⓅとⒹのあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをゲートにそって動かします。

シフトレバーをゲートにそってそのまま動かします。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

知識

安全機能について

シフトロックシステム

シフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

●ブレーキペダルを踏んだ状態でなければシフトレバーをⓅからレバー操作できません。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードまたはＯＦＦのときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
- シフトレバーを助手席側に倒したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。

●シフトレバーをⓇに入れるとブザーが鳴ります。
- ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。
- 車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。
(車外の人に対する警告音ではありません)

●シフトレバーがⓅ以外では“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにすることはできません。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにするときは、シフトレバーをⓅに入れてください。Ⓟ以外で“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すとスイッチはアクセサリーモードになります。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

●ブレーキペダルを踏んだ状態でなければシフトレバーをⓅからレバー操作できません。
- エンジン スイッチが“ＡＣＣ”または“ＬＯＣＫ”のときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
- シフトレバーを助手席側に倒したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。

●シフトレバーをⓇに入れるとブザーが鳴ります。
- ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。
- 車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。
(車外の人に対する警告音ではありません)

●シフトレバーがⓅ以外ではエンジン スイッチからキーを抜くことはできません。
- エンジン スイッチからキーを抜くときは、シフトレバーをⓅに入れてください。
Ⓟ以外ではキーを“ＡＣＣ”から“ＬＯＣＫ”の位置にまわせません。

知 識

安全機能について

シフトロック解除ボタンの使い方

万一、シフトレバーがⓅからレバー操作できないときに使用します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

●ブレーキペダルを踏んだ状態で、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードにして、シフトロック解除ボタンを押しながらレバー操作してください。

●シフトロックシステム等の故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

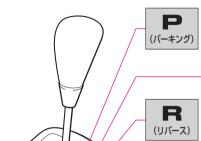
●ブレーキペダルを踏んだ状態で、エンジン スイッチを “ ＡＣＣ ” または “ ＯＮ ” にして、シフトロック解除ボタンを押しながらレバー操作してください。

●シフトロックシステム等の故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

Super ECT

4WD車

シフトレバーの働き

P（パーキング）

駐車およびエンジン始動
駐車のときは、必ずⓅにしてください。

シフトロック解除ボタン（P.183参照）

R（リバース）

後退
ギヤが後退に固定されます。
ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。

N（ニュートラル）

動力が伝わらない状態
Ⓝでもエンジンは始動できますが、安全のためⓅで行ってください。

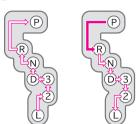
D（ドライブ）

通常走行（前進）
スピードに応じてギヤが1速から4速まで自動的にかわります。

3（サード）

坂道走行（前進）
下り坂では軽いエンジンブレーキが得られます。
上り坂では変速回数の少ないなめらかな走行ができます。

2（セカンド）

下り坂走行（前進）
エンジンブレーキが必要な場合に使います。

L（ロー）

急な下り坂走行（前進）
強力なエンジンブレーキが必要な場合に使います。

シフトレバーの取り扱い

ⓅとⒹのあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをゲートにそって動かします。

シフトレバーをゲートにそってそのまま動かします。

知 識

安全機能について

シフトロックシステム
シフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

●ブレーキペダルを踏んだ状態でなければシフトレバーをⓅからレバー操作できません。
・“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがアクセサリーモードまたはＯＦＦのときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
・シフトレバーを助手席側に倒したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。

●シフトレバーをⓇに入れるとブザーが鳴ります。
・ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。
・車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。
（車外の人に対する警告音ではありません）

●シフトレバーがⓅ以外では“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをＯＦＦにすることはできません。
・“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをＯＦＦにするときは、シフトレバーをⓅに入れてください。Ⓟ以外で“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押すとスイッチはアクセサリーモードになります。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

●ブレーキペダルを踏んだ状態でなければシフトレバーをⓅからレバー操作できません。
・エンジン スイッチが“ ＡＣＣ ”または“ ＬＯＣＫ ”のときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
・シフトレバーを助手席側に倒したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。

●シフトレバーをⓇに入れるとブザーが鳴ります。
・ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。
・車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。
（車外の人に対する警告音ではありません）

●シフトレバーがⓅ以外ではエンジン スイッチからキーを抜くことはできません。
・エンジン スイッチからキーを抜くときは、シフトレバーをⓅに入れてください。
Ⓟ以外ではキーを“ ＡＣＣ ”から“ ＬＯＣＫ ”の位置にまわせません。

知識

安全機能について

シフトロック解除ボタンの使い方

万一、シフトレバーがⓅからレバー操作できないときに使用します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

●ブレーキペダルを踏んだ状態で、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードにして、シフトロック解除ボタンを押しながらレバー操作してください。

●シフトロックシステム等の故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

●ブレーキペダルを踏んだ状態で、エンジン スイッチを “ ＡＣＣ ” または “ ＯＮ ”にして、シフトロック解除ボタンを押しながらレバー操作してください。

●シフトロックシステム等の故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

オートマチック車の運転のしかた

発進のしかた

通常発進のしかた

1 ブレーキペダルを右足でしっかり踏んだまま、シフトレバーをⒹに入れます。

2 パーキングブレーキを解除します。(P.189参照)

3 ブレーキペダルを徐々にゆるめてから、右足でアクセルペダルをゆっくり踏み発進します。

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキがしっかりかかっていることを確認してから、シフトレバーをⒹに入れます。

2 右足でアクセルペダルをゆっくり踏みます。

3 車が動き出す感触を確認してから、パーキングブレーキを解除し、発進します。

⚠警告　ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。

●発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などはクリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

●運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●アクセルペダルを踏み込んだままでのシフトレバー操作は絶対に行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

走行のしかた

通常の走行

シフトレバーを🅓に入れたまま走行します。
●アクセルとブレーキの操作だけで加速・減速します。

急加速するには

アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。

Super ＥＣＴ装着車

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。（これをキックダウンといいます）

坂道で走行するときは

■上り坂

Super ＣＶＴ－ｉ装着車

勾配に応じてシフトレバーを🅢にしておくと、エンジン回転数の変化が少ないなめらかな走行ができます。

Super ＥＣＴ装着車

アクセルペダルを踏み込んでいくとキックダウンし、急にエンジン回転が上がることがあります。あらかじめシフトレバーを❸または❷に入れると、エンジン回転数の変化を抑えることができます。

■下り坂

Super ＣＶＴ－ｉ装着車

フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。シフトレバーが🅓のままでスピードが出すぎるときは、🅑に入れエンジンブレーキを併用します。
●シフトレバーを🅢に入れることによっても軽いエンジンブレーキが得られます。

Super ＥＣＴ装着車

フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。シフトレバーが🅓のままでスピードが出すぎるときは、坂道に応じて、❷または🅛に入れエンジンブレーキを併用します。
●シフトレバーを❸に入れることによっても軽いエンジンブレーキが得られます。

⚠ 警告

走行中にはシフトレバーを🅝に入れないでください。

●走行中はシフトレバーを🅝に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●前進で走行中は、シフトレバーを🅡に入れないでください。車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。
●ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなどの思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●坂道などでは、シフトレバーを前進側に入れたまま惰性で後退したり、🅡に入れたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

シフトレバーを🅝に入れたまま走行すると、トランスミッションの故障の原因となるおそれがあります。

停車・駐車のしかた

停車のしかた

1 車を止めます。シフトレバーはⒹのまま右足でブレーキペダルをしっかり踏みます。

エアコンは温度変化により断続的に作動します。作動中は自動的にアイドルアップし、クリープ現象が強くなりますので、車が動き出さないようにとくに注意してください。

2 必要に応じてパーキングブレーキをかけます。

上り坂での停車は、クリープ現象で前へ進もうとする力よりも、車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退するおそれがあります。
右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりかけます。

3 長時間停車する場合は、シフトレバーをⓅまたはⓃに入れます。

駐車のしかた

1 車を完全に止めます。

2 パーキングブレーキをかけます。

右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりかけます。

3 シフトレバーをⓅに入れます。

車が動き出さないためにも、必ずシフトレバーをⓅに入れてください。

4 エンジンを停止します。

車を離れるときは必ずエンジンを停止して、ドアを施錠してください。

走行中はシフトレバーを🅿に入れないでください。

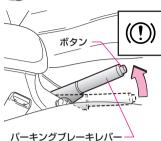
●走行中はシフトレバーを🅿に入れないでください。オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●停車中の空ぶかしはしないでください。シフトレバーが🅿・🅽以外に入っていると車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車から離れるときは必ずエンジンを停止してドアを施錠してください。

●エンジンをかけたままにしておくと、万一、シフトレバーが🅿以外に入っていたときに、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。
●アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でシフトレバーを前進側に入れた状態でアクセルペダルをふかしながら止まらないでください。オートマチックトランスミッションが過熱し、故障の原因になります。

パーキングブレーキレバーの使い方

パーキングブレーキレバーの取り扱い

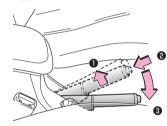
パーキングブレーキをかけるときは

右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、ボタンを押さずにレバーをいっぱいまで引き上げます。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

● "エンジン スタート ストップ" スイッチがイグニッションONモードのとき、メーター内のブレーキ警告灯が点灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

●エンジン スイッチが "ON" のとき、メーター内のブレーキ警告灯が点灯します。

パーキングブレーキを解除するときは

右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、
❶レバーを少し引き上げ、
❷先端のボタンを押しながら、
❸完全に下までもどします。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

● "エンジン スタート ストップ" スイッチがイグニッションONモードのとき、ブレーキ警告灯が消灯したことを確認してください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

●エンジン スイッチが "ON" のとき、ブレーキ警告灯が消灯したことを確認してください。

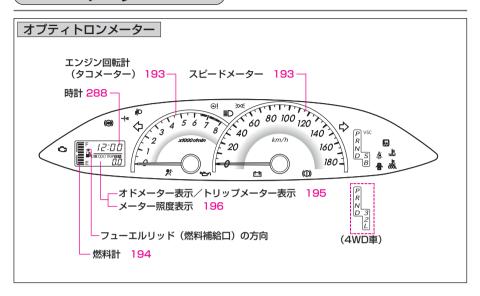
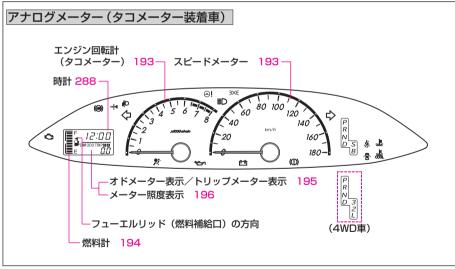
パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。
ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

知 識

警告ブザーについて

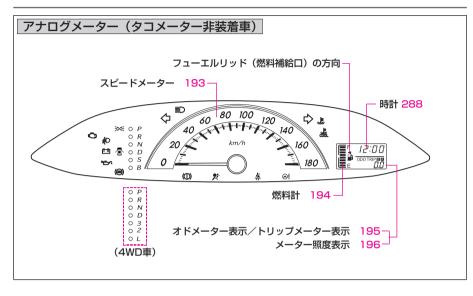
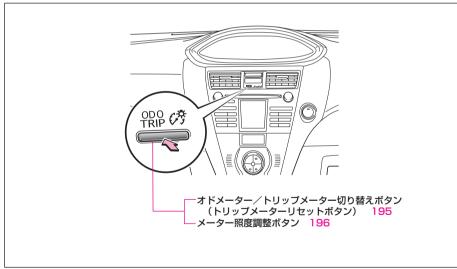
パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約5km/h以上になると、警告ブザーが鳴ります。

メーター、表示灯、警告灯の見方

メーター

オプティトロンメーター

アナログメーター（タコメーター装着車）

＊図ではすべてのグレードにおける警告灯・表示灯を掲載しています。実際の車に設定される警告灯・表示灯はグレード等により異なります。

アナログメーター（タコメーター非装着車）

＊図ではすべてのグレードにおける警告灯・表示灯を掲載しています。実際の車に設定される警告灯・表示灯はグレード等により異なります。

知 識

メーターについて

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションONモードにしたときなどに、メーター内の指針がゼロ目盛り付近で短時間微動する場合がありますが、異常ではありません。
- エンジンを始動したときなどに、エンジン回転計の指針がゼロ目盛りの位置にもどることがありますが、異常ではありません。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- エンジン スイッチを “ ON ” にしたときなどに、メーター内の指針がゼロ目盛り付近で短時間微動する場合がありますが、異常ではありません。
- エンジンを始動したときなどに、エンジン回転計の指針がゼロ目盛りの位置にもどることがありますが、異常ではありません。

オプティトロンメーターの照明について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションONモードのとき、ランプスイッチをONにすると、メーター照明が減光されます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ON ” のとき、ランプスイッチをONにすると、メーター照明が減光されます。

メーター照明を減光させたくないときは、次の操作をしてください。

■メーター照明減光キャンセルのしかた

1 **スマートエントリー & スタートシステム装着車**

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションONモードのとき、ランプを点灯します。(P.216参照)

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ON ” のとき、ランプを点灯します。(P.216参照)

2 **オドメーター／トリップメーター切り替えボタンを押してメーター照度調整表示に切り替えます。(P.196参照)**

3 **メーター照明が レベル1 (P.196参照)になるまでオドメーター／トリップメーター切り替えボタンを押します。**

メーター照明を再度減光させたいときは、*1*、*2* の操作をしてから、メーター照明を レベル 1 以外に設定します。

スピードメーター

車両の走行速度を示します。

エンジン回転計

タコメーター装着車

毎分のエンジン回転数を示します。

指針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないように運転してください。指針がレッドゾーンに入る運転を続けるとエンジンなどに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。

燃料計

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき、燃料残量を示します。
燃料タンク容量は約42Ｌです。

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき、燃料残量が約6.3Ｌ以下になると、いちばん下の燃料残量表示が点滅します。燃料残量が約4.2Ｌ以下になると点滅速度が速くなります。点滅したときは、すみやかに燃料を補給してください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＯＮ ” のとき、燃料残量を示します。
燃料タンク容量は約42Ｌです。

●エンジン スイッチが “ ＯＮ ” のとき、燃料残量が約6.3Ｌ以下になると、いちばん下の燃料残量表示が点滅します。燃料残量が約4.2Ｌ以下になると点滅速度が速くなります。点滅したときは、すみやかに燃料を補給してください。

知 識

燃料計について

●坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、表示がかわることがあります。
●燃料補給後、表示が安定するまで少し時間がかかります。
●燃料計にある 印はフューエルリッド（燃料補給口）が車両助手席側後方にあることを示しています。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示できません。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

●エンジン スイッチが “ ＯＮ ” のまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示できません。

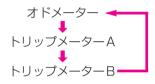
オドメーター／トリップメーター切り替えボタン（トリップメーターリセットボタン）

■表示の切り替えかた

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき、切り替えボタンを押すごとに、下記のように表示が切り替わります。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＯＮ ” のとき、切り替えボタンを押すごとに、下記のように表示が切り替わります。

■オドメーター

走行した総距離をkmの単位で示します。

■トリップメーター

2種類の区間距離（トリップＡ・トリップＢ）をkmの単位で示します。

トリップメーターを0（ゼロ）にもどすときは

トリップＡ・トリップＢのうち０にしたい方を表示させてから、ボタンを表示が０になるまで押し続けます。

●バッテリーとの接続が断たれたときは、トリップメーターは０になります。

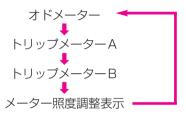
メーター照度調整ボタン

■メーター照度調整表示に切り替えるには

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションＯＮモードでランプスイッチがONのとき、調整ボタンを押すと、下記のようにトリップメーターB表示のあとにメーター照度調整表示に切り替わります。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＯＮ ”でランプスイッチがONのとき、調整ボタンを押すと、下記のようにトリップメーターB表示のあとにメーター照度調整表示に切り替わります。

■照度調整のしかた

メーター照度調整表示中、調整ボタンを約1秒以上押し続けると、メーター照明の明るさをかえることができます。

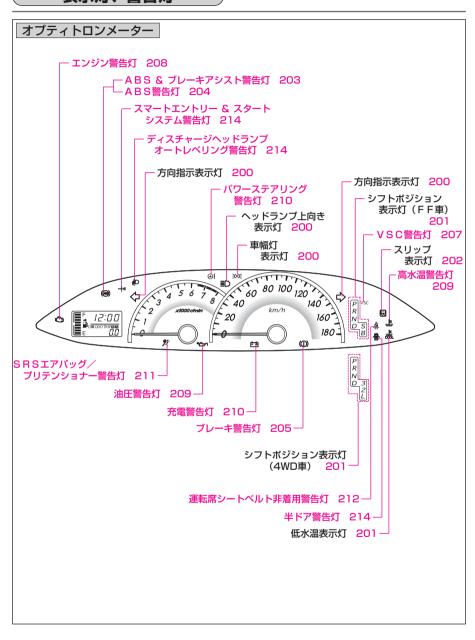
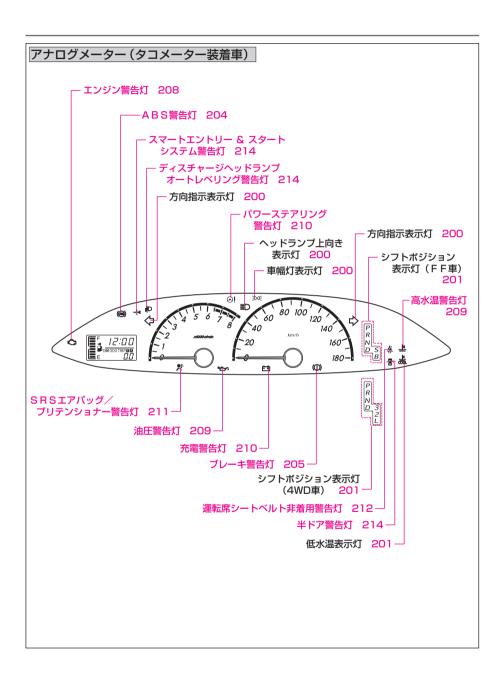
●お好みの明るさになったら、ボタンから手を離します。
●4段階で明るさのレベルを調整できます。

	照度調整表示	照度レベル
明		レベル1
↑		レベル2
↓		レベル3
暗		レベル4

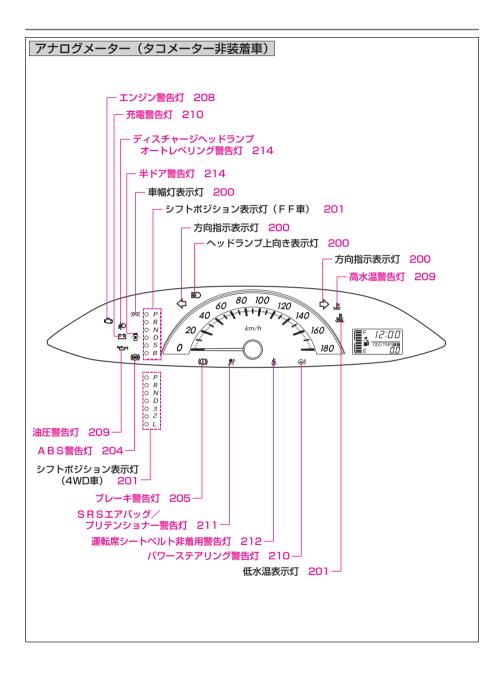
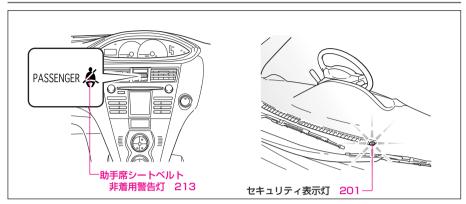
知 識

メーター照度調整表示について

次のような場合は、自動的にメーター照度調整表示からオドメーター表示に切り替わります。
●メーター照度調整表示に切り替えてから、約10秒以上ボタンを操作しなかったとき
●ランプスイッチをＯＦＦにしたとき

表示灯、警告灯

オプティトロンメーター

＊図ではすべてのグレードにおける警告灯・表示灯を掲載しています。実際の車に設定される警告灯・表示灯はグレード等により異なります。

＊図ではすべてのグレードにおける警告灯・表示灯を掲載しています。実際の車に設定される警告灯・表示灯はグレード等により異なります。

＊図ではすべてのグレードにおける警告灯・表示灯を掲載しています。実際の車に設定される警告灯・表示灯はグレード等により異なります。

＊図ではすべてのグレードにおける警告灯・表示灯を掲載しています。実際の車に設定される警告灯・表示灯はグレード等により異なります。

方向指示表示灯

方向指示灯、非常点滅灯を作動させると点滅します。（P.218、224参照）

知 識

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

ヘッドランプ上向き表示灯

ヘッドランプを上向きにすると点灯します。（P.216参照）

車幅灯表示灯

車幅灯・尾灯・番号灯を点灯させると点灯します。（P.216参照）

シフトポジション表示灯

選択しているシフト位置を表示します。

低水温表示灯

エンジン冷却水温が低いと点灯します。

注意	暖機を十分続けていても、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーの異常が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。

セキュリティ表示灯

スマートエントリー & スタートシステム装着車

盗難防止システムが作動状態になると点滅します。(P.104参照)

スリップ表示灯

VSC & TRC装着車

ＶＳＣシステムまたはＴＲＣシステムが作動したときに点滅します。（P.307参照）
また、車両が横すべりしそうになったときに点滅します。

■ＶＳＣ作動警告ブザー

車両が横すべりしそうになったときに、断続音が鳴ります。

●運転状況によっては、スリップ表示灯の点滅のみで警告する場合があります。

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにしても点灯しないときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

ABS & ブレーキアシスト警告灯

VSC & TRC装着車

ABSまたはブレーキアシストシステムに異常があると点灯します。(P.304参照)

●警告灯が点灯しているときは、下記のシステムは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。
- ・ABS
- ・ブレーキアシストシステム
- ・VSC & TRC

●警告灯が点灯しているときは、ABSが作動しないため、急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にはタイヤがロックすることがあります。

ブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときは、ただちに停車してください。

●警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。この場合、ABSまたはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ・“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしても点灯しないとき
- ・“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードで点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

警告灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

ＡＢＳ警告灯

ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車を除く

ＡＢＳに異常があると点灯します。（P.304参照）

●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。

●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳが作動しないため、急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にはタイヤがロックすることがあります。

ブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときは、ただちに停車してください。

●警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
この場合、ＡＢＳに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

・“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしても点灯しないとき
・“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードで点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

・エンジン スイッチを“ＯＮ”にしても点灯しないとき
・エンジン スイッチが“ＯＮ”で点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“ＯＮ”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

ブレーキ警告灯

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードで、次のときに点灯します。

●ブレーキ液が不足しているとき

●パーキングブレーキをかけたままのとき

・パーキングブレーキが解除されていても “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにすると数秒間点灯します。

●ＥＢＤに異常があるとき（P.306参照）

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＯＮ ” で、次のときに点灯します。

●ブレーキ液が不足しているとき

●パーキングブレーキをかけたままのとき

・パーキングブレーキが解除されていてもエンジン スイッチを “ ＯＮ ” にすると数秒間点灯します。

●ＥＢＤに異常があるとき（P.306参照）

■ブレーキ警告ブザー

パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約5km/h以上になると、警告ブザーが鳴ります。

エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときはブレーキペダルを強く踏んでください。

ＡＢＳ ＆ ブレーキアシスト警告灯またはＡＢＳ警告灯と同時に点灯したままのときは、ただちに停車してください。

●警告灯がＡＢＳ ＆ ブレーキアシスト警告灯またはＡＢＳ警告灯と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
この場合、ＡＢＳ、またはブレーキアシストシステム（ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車）に異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

・“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードで、パーキングブレーキをかけても点灯しないとき
・パーキングブレーキが解除された状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしても点灯しないとき

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

・エンジン スイッチが“ＯＮ”で、パーキングブレーキをかけても点灯しないとき
・パーキングブレーキが解除された状態で、エンジン スイッチを“ＯＮ”にしても点灯しないとき

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
●パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、警告ブザーが鳴ったときは、すみやかに停車し、パーキングブレーキを解除してください。パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

ＶＳＣ警告灯

ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車

ＶＳＣ ＆ ＴＲＣシステムに異常があると点灯します。(P.307参照)

●警告灯が点灯しているときは、ＶＳＣ ＆ ＴＲＣシステムは作動しませんが、通常の走行には支障ありません。

●警告灯が点灯したときは、スリップ表示灯も同時に点灯します。

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

● “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしても点灯しないとき

● “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにしたあと点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき

警告灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

エンジン警告灯

エンジン回転中、エンジン電子制御システム、電子制御スロットルまたはオートマチックトランスミッション電子制御システムに異常があると点灯します。

エンジン回転中に点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●エンジン回転中に点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
●警告灯が点灯し、アクセルペダルを踏んでもエンジン回転数が上昇しないときは電子制御系の異常が考えられます。このときは、低速で走行ができます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
なお、この低速走行中に万一、電子制御系の異常が解消した場合でも、エンジンを停止するまでは、正常状態に復帰することはありません。

知識

警告灯について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ＯＮ ” にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。

油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力に異常があると点灯します。
「油圧警告灯」はオイル量を示すものではありません。オイル量の点検はオイルレベルゲージにより行ってください。
(点検方法は「メンテナンスノート」またはP.360を参照してください)

エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止してエンジンオイル量を点検してください。点灯したまま走行し続けるとエンジンを損傷するおそれがあります。
エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときやエンジンオイルを補給しても点灯するときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

警告灯について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

" エンジン スタート ストップ " スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを " ON " にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。

高水温警告灯

エンジン回転中、エンジン冷却水温が異常に高くなったときに点滅します。

警告灯が点滅したときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に車を停車し、P.400の「オーバーヒートしたときは」に従って処置をしてください。

警告灯について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

" エンジン スタート ストップ " スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを " ON " にすると点灯し、数秒後に消灯します。

充電警告灯

エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。

エンジン回転中に点灯したときは、Ｖリブドベルトの切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。

知 識

警告灯について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ＯＮ ” にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。

パワーステアリング警告灯

パワーステアリング制御システムに異常があると点灯します。

警告灯が点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合ハンドル操作が重くなっていることがありますので、ハンドルをしっかり持って操作をしてください。

知 識

警告灯について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ＯＮ ” にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

SRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯

SRSエアバッグシステムまたはプリテンショナー付シートベルトシステムに異常があると点灯・点滅します。（P.292、302参照）

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。衝突したときなどにSRSエアバッグ、またはプリテンショナー付シートベルトが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

● “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしても点灯しないとき、または点灯・点滅したままのとき
●走行中に点灯・点滅したとき

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

●エンジン スイッチを“ON”にしても点灯しないとき、または点灯・点滅したままのとき
●走行中に点灯・点滅したとき

知識

警告灯について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

運転席シートベルト非着用警告灯

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき、運転席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＯＮ ” のとき、運転席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

■運転席シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20km/h以上になると、ブザーが約120秒間鳴ります。（ブザーが鳴りはじめてから約30秒後に断続音の速さがかわります）

●シートベルトを着用すると消音します。

助手席シートベルト非着用警告灯

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき、助手席シート座面の乗員検知センサーが乗員を検知したときに助手席シートベルトを着用していないと点滅します。
ただちにシートベルトを着用してください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＯＮ ” のとき、助手席シート座面の乗員検知センサーが乗員を検知したときに助手席シートベルトを着用していないと点滅します。
ただちにシートベルトを着用してください。

■助手席シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20km/h以上になると、ブザーが約120秒間鳴ります。（ブザーが鳴りはじめてから約30秒後に断続音の速さがかわります）
●シートベルトを着用すると消音します。

乗員検知センサーについて

●センサーは、助手席シート座面に、ある一定以上の重量がかかったとき検知します。従って、荷物などを置いた場合にも検知することがあります。
●助手席シート座面上にクッション（座布団）などを敷くと、重量が分散され、センサーが乗員を検知しない場合があります。

半ドア警告灯

いずれかのドアが確実に閉まっていないときに点灯します。

警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

スマートエントリー ＆ スタートシステム警告灯

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

P.106を参照してください。

ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯

ディスチャージヘッドランプ装着車

ディスチャージヘッドランプのオートレベリング（上下照射方向自動調整）システムに異常があると点灯します。（P.315参照）

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

走行中に警告灯が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、いったんエンジンを停止してください。“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにしたときに、警告灯が数秒点灯したあとに消灯すればそのまま使用できます。

消灯しないとき、または再度点灯するときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

走行中に警告灯が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、いったんエンジンを停止してください。エンジン スイッチを “ ＯＮ ” にしたときに、警告灯が数秒点灯したあとに消灯すればそのまま使用できます。

消灯しないとき、または再度点灯するときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

警告灯について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

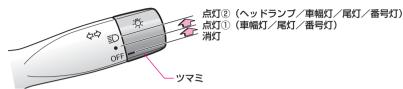
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ＯＮ ” にすると点灯し、数秒後に消灯します。

スイッチの使い方

ランプの使い方

ランプの点灯・消灯

ツマミを点灯①、点灯②にまわすと点灯します。
●点灯①、点灯②にするとメーター内の車幅灯表示灯が点灯します。

知 識

作動条件について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態に関係なく使用できます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチの状態に関係なく使用できます。

便利機能について

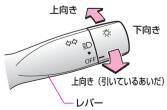
ランプ消し忘れ警告ブザー

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

ランプが点灯しているとき、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがＯＦＦの状態で運転席ドアを開くと、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが“ピー”と鳴ります。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

ランプが点灯しているとき、エンジン スイッチからキーを抜いて運転席ドアを開くと、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが“ピー”と鳴ります。

前方を遠くまで照らしたいときは

●ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前方に押します。
●ヘッドランプが消灯していてもレバーを手前に引いているあいだ、ヘッドランプが上向きとなります。
●ヘッドランプが上向きのときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

完全に充電されたバッテリーでも、エンジンを停止した状態で長時間ランプ類を点灯すると、バッテリーあがりの原因となります。

ヘッドランプの光軸上下調整のしかた

ハロゲンヘッドランプ装着車

ダイヤルをまわすと、ヘッドランプの光軸（光の照らす方向）を下向きに調整できます。

●通常は0（ゼロ）の位置（光軸がいちばん上向きの位置）で使用します。

知識

光軸上下調整について

●人や荷物をのせることにより車両前面が上を向いて、ヘッドランプの照らす範囲がいつもとちがう（いつもより上向きになっている）ときに、ダイヤルをまわしてヘッドランプの光軸を下向きにします。
人や荷物を降ろしたあとには、必ずダイヤルを0（ゼロ）の位置にもどしてください。

●乗員数や荷物に応じて下記の表を目安にダイヤル位置を調整してください。

ダイヤル位置の目安

乗員やトランクの積載状況	ダイヤル位置	
	2SZ−FE エンジン搭載車	1KR−FE・2NZ−FE エンジン搭載車
運転席のみ乗車時	0	0
運転席と助手席に乗車時	0	0
5名乗車時	2	2
5名乗車時でかつトランク満載時	2	2.5
運転席のみ乗車時でかつトランク満載時	4	4

●車検などで光軸調整をするときは、光軸上下調整ダイヤルを0（ゼロ）の位置（いちばん上向きの位置）にしてから行ってください。

作動条件について

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

方向指示レバーの使い方

●レバーを上または下へ操作すると、左または右側の方向指示灯が点滅します。メーター内にある方向指示表示灯も点滅します。
レバーはハンドルをもどすと自動的にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。

●車線変更のときには、レバーを軽く上または下へ押さえているあいだ、それぞれの方向指示灯および方向指示表示灯が点滅し、手を離すと消灯します。

知 識

作動条件について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

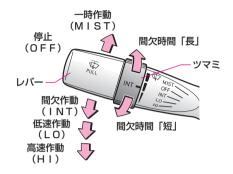
エンジン スイッチが “ ＯＮ ” のとき使用できます。

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

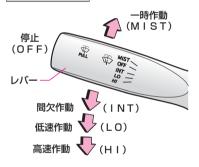
ワイパー ＆ ウォッシャーの使い方

ワイパーの動かし方

間欠時間調整式ワイパー

レバーを操作すると、左図のように作動します。

●間欠作動（ＩＮＴ）のときツマミをまわすと、間欠時間を約3～12秒のあいだで調整できます。

●一時作動（ＭＩＳＴ）は、レバーをＯＦＦから押し上げているあいだ、ワイパーが低速作動します。手を離すと、ＯＦＦにもどります。

間欠ワイパー

レバーを操作すると、左図のように作動します。

●一時作動（ＭＩＳＴ）は、レバーをＯＦＦから押し上げているあいだ、ワイパーが低速作動します。手を離すと、ＯＦＦにもどります。

ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。

●ウインドゥガラスが凍結しているときや長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。ガラスに張り付いたまま作動させると、ワイパーゴムを損傷するおそれがあります。
●洗車するときやワイパーゴムを交換するときなど、ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側のワイパーアームから立ててください。
また、もとにもどすときは、助手席側のワイパーアームからもどしてください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

●積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチをＯＦＦ、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはＯＦＦにし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

●積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチをＯＦＦ、エンジン スイッチを “ ＡＣＣ ” または “ ＬＯＣＫ ” にし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。

知 識

作動条件について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

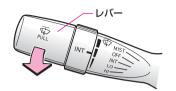
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＯＮ ” のとき使用できます。

保護機能について

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。約10分ほどすると、ブレーカーが復帰して通常どおり使用できるようになります。

ウォッシャー液の噴射のしかた

レバーを手前に引いているあいだ、ウォッシャー液が噴射されます。

●ウォッシャー液噴射後、ワイパーが数回作動します。

寒冷時はウインドゥガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がウインドゥガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。

●必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。ガラスが乾いているときにワイパーを作動させると、ガラスを傷付けるおそれがあります。

●ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。
また、ノズルがつまって噴射状態が悪い場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

作動条件について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＯＮ ” のとき使用できます。

ガラスに付いた油膜について

油膜があると、雨の夜は対向車のランプなどが乱反射します。ガラスクリーナーなどを使ってガラスの表面をきれいにしてください。

ウォッシャー液の補給について

ウォッシャー液の補給については、P.361を参照してください。

ウォッシャーノズルについて

ウォッシャーノズルがフロントガラス前部の外気取り入れ口付近にあるため、雪、落ち葉などがあるとウォッシャー液が噴射されない場合があります。ウォッシャーノズル周辺に雪、落ち葉などがないことを確認してからウォッシャー液を噴射してください。

フロントワイパーデアイサーの使い方

フロントウインドゥガラスの下部と運転席側フロントピラー付近の表面を暖めて、ガラスとワイパーブレードの凍結を防止します。

寒冷地仕様車（2WD車）

スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。
●作動中は作動表示灯が点灯します。

寒冷地仕様車（4WD車）

警告

作動中はフロントウインドゥガラスの下部と運転席側フロントピラー付近の表面が熱くなりますので、手をふれないでください。やけどをするおそれがあり危険です。

注意

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

知 識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき使用できます。

リヤウインドゥデフォッガー(曇り取り)の使い方

リヤウインドゥガラスを熱線で暖めて曇りを取ります。

オートエアコン装着車

スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。

●作動中は作動表示灯が点灯します。

マニュアルエアコン装着車

スイッチを押すと作動し、作動中にもう一度押すと停止します。

●作動中は作動表示灯が点灯します。

●リヤウインドゥガラスの曇りが取れたら、必ず停止させてください。

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき使用できます。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

非常点滅灯の使い方

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

スイッチを押すと、すべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

●メーター内にある方向指示表示灯も点滅します。

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態に関係なく使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチの状態に関係なく使用できます。

ホーンの使い方

ハンドルの マーク周辺部を押すと、ホーン（警音器）が鳴ります。

注意

ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、ホーンが鳴らない場合があります。ハンドルの固定方法については、P.170の「ハンドルの調整」を参照してください。

知識

作動条件について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態に関係なく使用できます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチの状態に関係なく使用できます。

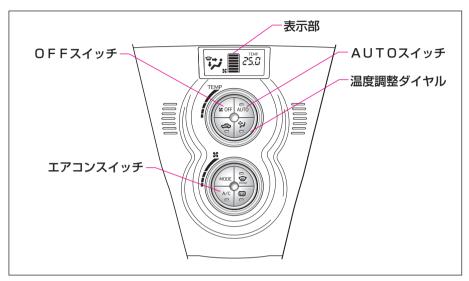
4

室内装備の取り扱い

エアコンの取り扱い

オートエアコンの使い方★

オート（ＡＵＴＯ）での使い方

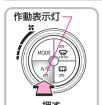
ＡＵＴＯスイッチを押すと、ファンが作動し、吹き出し口、風量が自動的に調整され、設定温度となります。

■作動させるには

1 **ＡＵＴＯスイッチ**を押して吹き出し口と風量を自動調整にします。

●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。
●ファンが自動的に作動します。

2 **温度調整ダイヤル**をまわして温度を設定します。

●温度を上げるときは右側、下げるときは左側にまわします。
●設定温度を、18℃～32℃のあいだで調整することができます。
　・最大冷房にするとＬＯ
　・最大暖房にするとＨＩ
　の表示になります。
●設定温度が表示部に表示されます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

3 **エアコンスイッチ**を押してエアコンをＯＮにします。

●エアコンスイッチを押すごとに、エアコン（冷房・除湿機能）がＯＮとＯＦＦに切り替わります。
●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。
●ファンが作動中に使用できます。
●外気温が０℃近くまで下がるとエアコンは作動しません。

■作動を停止させるには

ＯＦＦスイッチを押します。
●ファンが停止します。

バッテリーあがりを防ぐため、エンジン停止中に作動させないでください。

知 識

車内の温度が高いときは

駐車のあと車内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

便利機能について

●吹き出し口が 、 または のとき、冬場などの寒いときには温風の準備ができるまで、しばらくのあいだファンを停止します。
●吹き出し口が または のとき、夏場などの暑いときには冷風の準備ができるまで、数秒間ファンが“弱”で作動します。

ＡＵＴＯスイッチについて

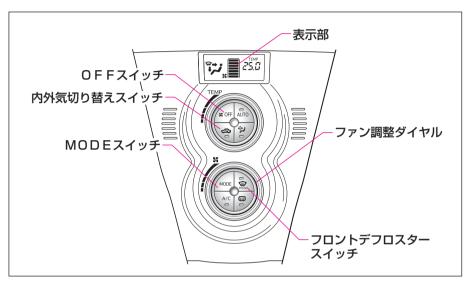
ＡＵＴＯスイッチがＯＮのときにＭＯＤＥスイッチ（次ページ参照）およびファン調整ダイヤル（次ページ参照）を操作すると、ＡＵＴＯスイッチはＯＦＦになります。
（ＡＵＴＯスイッチの作動表示灯が消灯します）

エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

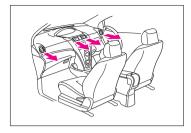
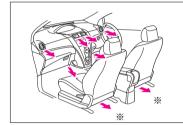
お好みの状態にするには

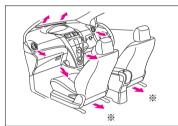
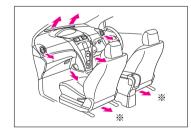
各スイッチまたはダイヤルを操作することで、それぞれの設定で使用することができます。

■風量をかえる

ファン調整ダイヤルをまわして風量を設定します。
風量を強くするときは右側、弱くするときは左側にまわします。
●風量が表示部に表示されます。
●ファンを停止させたいときは**OFFスイッチ**を押します。
(前ページ参照)

■吹き出し口をかえる

MODEスイッチを押して吹き出し口を選択します。
スイッチを押すごとに、吹き出し口が切り替わります。
(次ページ参照)
●吹き出し口が表示部に表示されます。

＜吹き出し口選択の目安＞

上半身に送風するときは

上半身と足元に送風するときは

足元に送風するときは

足元への送風とガラスの曇りを取るときは

※は寒冷地仕様車のみ送風されます。

■外気導入・内気循環の切り替えをする

内外気切り替えスイッチを押して外気導入と内気循環に切り替えます。

- スイッチを押すごとに、外気導入と内気循環に切り替わります。
- 内気循環にすると、作動表示灯が点灯します。

作動表示灯	モード
消灯	**外気導入** 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。
点灯	**内気循環** 外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気がよごれているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときにお使いください。

■ガラスの曇りを取る

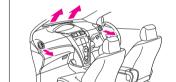
1 **フロントデフロスタースイッチ**を押します。

●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。
●ファンが停止中のとき、スイッチを押すと、ファンが自動的に作動します。
●エアコンが自動的にＯＮになります。

2 **内外気切り替えスイッチ**で外気導入にします。

●外気導入のときは、作動表示灯が消灯します。

ガラスの曇りを取るときは

＜吹き出し口＞

警告

湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。
外気とウインドゥの温度差でウインドゥ外側表面が曇り視界をさまたげる場合があります。

注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に作動させないでください。

知識

内外気切り替えについて

●トンネル内や渋滞などでよごれた外気を車内に入れたくないときや、早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときに、内外気切り替えスイッチで内気循環にすると効果的です。
●長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。
●設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切り替わることがあります。

補助ヒーター（ＰＴＣヒーター）について

寒冷地仕様車

エンジン始動直後からエンジンが暖まるまで、通常のヒーターに加えて暖房を補います。
次の条件をすべて満たすと、自動的に作動します。
●ファンが作動しているとき
●最大暖房時（エアコンコンピューターが急速暖房が必要と判定したとき）
●エンジンが冷えているとき
●外気温度が低いとき
エンジンが暖まると自動的に補助ヒーターは停止します。

より早くガラスの曇りを取るには

ガラスの曇りを取る（前ページ参照）操作と併せて、次の操作を行います。
●風量を増す（ファン調整ダイヤルを操作する）
●設定温度を上げる（温度調整ダイヤルを操作する）

エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

花粉除去スイッチの使い方

中央、運転席側、助手席側吹き出し口からフィルターを通ったきれいな風を顔の周辺に送風し、降乗車時やドアガラスを開けて走行したときなどに、車内に入った花粉を早期に除去します。

スイッチを押すと花粉除去モードに切り替わり、もう一度押すと通常制御にもどります。

●花粉除去モード時は、スイッチの作動表示灯が点灯します。

●車内の花粉が除去されると、自動的に通常制御にもどります。
（通常は約３分後、外気温が低いときは約１分後に通常制御にもどります）

知 識

作動条件について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ＯＮ”のとき使用できます。

花粉除去スイッチについて

●花粉除去スイッチを押すと、次のように制御されます。
・ファンが作動します。
・内気循環に切り替わります。
（外気温が低いときは、ガラスの曇り防止のため切り替わらない場合があります）
・吹き出し口は に切り替わります。
（外気温が低いときは、ガラスの曇り防止のため切り替わらない場合があります）

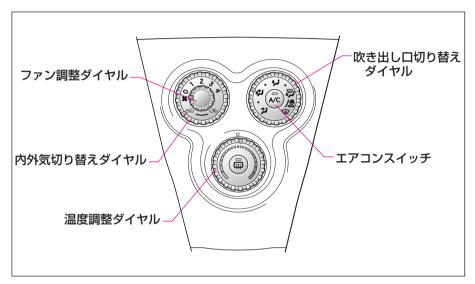
●雨天時に花粉除去スイッチを押すと、ガラスが曇ることがあります。そのときは、フロントデフロスタースイッチ（P.230参照）を押してください。

●通常制御時でも、フィルターを通ったきれいな風が送風されます。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

マニュアルエアコンの使い方★

お好みの状態にするには

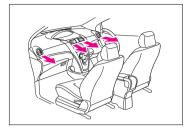
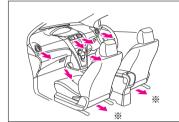
各ダイヤルまたはスイッチを操作することで、それぞれの設定で使用することができます。

■風量をかえる

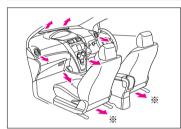
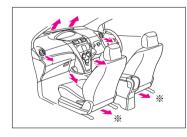
ファン調整ダイヤルをまわして風量を設定します。
風量を4段階に切り替えることができます。
風量を強くするときは右側、弱くするときは左側にまわします。
●0の位置にするとファンが停止します。

■吹き出し口をかえる

吹き出し口切り替えダイヤルをまわして吹き出し口を選択します。
●ダイヤル位置を各吹き出し口のあいだにすると、各吹き出し口の中間ぐらいの吹き出し口を選択できます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

＜吹き出し口選択の目安＞

上半身に送風するときは

上半身と足元に送風するときは

足元に送風するときは

足元への送風とガラスの曇りを取るときは

※は寒冷地仕様車のみ送風されます。

■エアコンをＯＮにする

エアコンスイッチを押すごとに、エアコン（冷房・除湿機能）がＯＮとＯＦＦに切り替わります。
- ●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。
- ●ファンが作動中に使用できます。
- ●外気温が０℃近くまで下がるとエアコンは作動しません。

■温度を調整する

温度調整ダイヤルをまわして温度を設定します。
- ●温度を上げるときは右側、下げるときは左側にまわします。

■外気導入・内気循環の切り替えをする

内外気切り替えダイヤルを の位置にまわすと外気導入、 の位置にまわすと内気循環に切り替わります。

ダイヤル位置	モード
	外気導入 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。
	内気循環 外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気がよごれているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときにお使いください。

■ガラスの曇りを取る

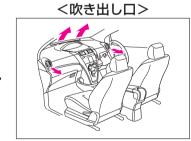
1 **ファン調整ダイヤル**でファンを作動させます。

2 **吹き出し口切り替えダイヤル**を の位置にします。

3 エアコンが作動していないときは**エアコンスイッチ**を押してエアコンを作動させます。
●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

4 **内外気切り替えダイヤル**で外気導入にします。

ガラスの曇りを取るときは

<吹き出し口>

湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、吹き出し口切り替えダイヤルを の位置にしないでください。
外気とウインドゥの温度差でウインドゥ外側表面が曇り視界をさまたげる場合があります。

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に作動させないでください。

知識

内外気切り替えについて

●トンネル内や渋滞などで、よごれた外気を車内に入れたくないときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときに、内外気切り替えダイヤルで内気循環にすると効果的です。
●長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

吹き出し口について

吹き出し口切り替えダイヤルを の位置にし、温度調整ダイヤルを中間位置で使用すれば、暖められた風が足元から、比較的温度の低い風が中央および運転席側、助手席側吹き出し口から送風されます。

補助ヒーター（ＰＴＣヒーター）について

寒冷地仕様車

エンジン始動直後からエンジンが暖まるまで、通常のヒーターに加えて暖房を補います。
次の条件をすべてみたすと、自動的に作動します。
●ファンが作動しているとき
●最大暖房時（温度調節ダイヤルがいちばん右（高温側へ最大）のとき）
●エンジンが冷えているとき
●外気温が低いとき
エンジンが暖まると自動的に補助ヒーターは停止します。

より早くガラスの曇りを取るには

ガラスの曇りを取る（前ページ参照）操作と併せて、次の操作を行います。
●風量を増す（ファン調整ダイヤルを操作する）
●設定温度を上げる（温度調整ダイヤルを操作する）

車内の温度が高いときは

駐車のあと車内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

窓ガラスの曇りを取るときに

吹き出し口を または にして窓ガラスの曇りを取るときは、内外気切り替えダイヤルで外気導入にして使用してください。

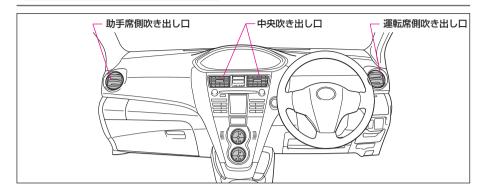
外気導入（ ）に切り替えることを示すマークです。

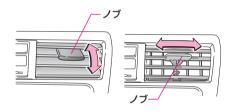
A/C

知識

エアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

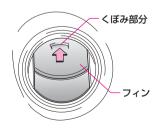
吹き出し口の調整

吹き出し口の調整のしかた

■中央吹き出し口

吹き出し口のノブを上下、左右に動かしてお好みの風向きに調整します。

■運転席側・助手席側吹き出し口

フィンを動かして、お好みの風向きに調整します。

吹き出し口の開閉のしかた

■運転席側・助手席側吹き出し口

●開けるときはフィンのくぼみ部分を押します。
●閉めるときはフィンを押し下げます。

吹き出し口について

冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

オーディオの取り扱い

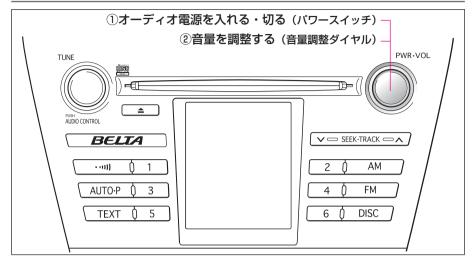
オーディオインデックス

メーカーオプションのHDDナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊の「HDDナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

メーカーオプションのDVDナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊の「DVDナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

ＣＤ一体ＡＭ／ＦＭラジオ ★

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

オーディオ電源、音量・音質調整

①オーディオ電源を入れる・切る

パワースイッチを押すごとに、オーディオ電源がＯＮ（入）とＯＦＦ（切）に切り替わります。

知 識

作動条件について

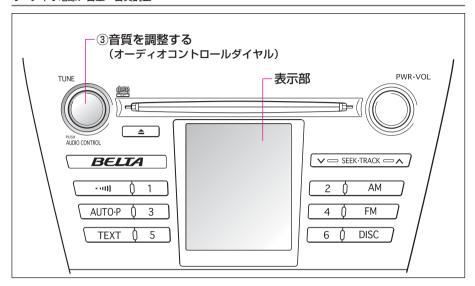
スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードのときオーディオ電源を入れることができます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＡＣＣ ” または “ ＯＮ ” のときオーディオ電源を入れることができます。

②音量を調整する

音量調整ダイヤルを右へまわすと音量が大きくなり、左へまわすと小さくなります。

③音質を調整する

押すごとにモードが切り替わります。

オーディオコントロールダイヤルを操作して、前後音量バランス・低音・高音・左右音量バランス・音量補正のレベルを調整することができます。

1 オーディオコントロールダイヤルを押して調整モードを選択します。

●ダイヤルを押すごとに調整モードが切り替わります。
●表示部にモードが表示されます。

まわしてレベルを調整します。

2 オーディオコントロールダイヤルをまわしてレベルを調整します。

●表示部にレベルが表示されます。

調整モード	モード表示	調整レベル範囲	左へまわす	右へまわす
前後音量バランス	ＦＡＤ	Ｒ7～Ｆ7	後側大	前側大
低音	ＢＡＳ	−5～5	弱	強
高音	ＴＲＥ			
左右音量バランス	ＢＡＬ	Ｌ7～Ｒ7	左側大	右側大
音量補正	ＡＳＬ	ＯＦＦ	左へまわす：HIGH→MID→LOW→OFF	右へまわす：OFF→LOW→MID→HIGH
		ＬＯＷ		
		ＭＩＤ		
		ＨＩＧＨ		

知 識

前後音量バランスについて

2スピーカー仕様車は、調整レベルをR7にすると、音が出なくなります。

ＡＳＬ※（音量補正）について

車速に応じて音量、周波数特性を自動的に制御し、最適な音量・音質を実現するシステムです。

●ＨＩＧＨ、ＭＩＤ、ＬＯＷの順に補正量が小さくなります。

※ＡＳＬはAutomatic Sound Levelizerの略

商標について

本製品はＡＭラジオモードを除き、ＳＲＳ Labs, Inc.のＳＲＳ FOCUS®、ＳＲＳ TruBass®の技術を使用しています。
FOCUS、TruBass、ＳＲＳと(●)記号は、ＳＲＳ Labs, Inc.の商標です。
FOCUS、TruBass技術はＳＲＳ Labs, Inc. からのライセンスに基づき製品化されています。

ラジオの使い方

②放送局を選ぶ（プリセットスイッチ）

表示部

TUNE

PUSH AUDIO CONTROL

PWR･VOL

BELTA

SEEK･TRACK

AUTO･P

TEXT

AM

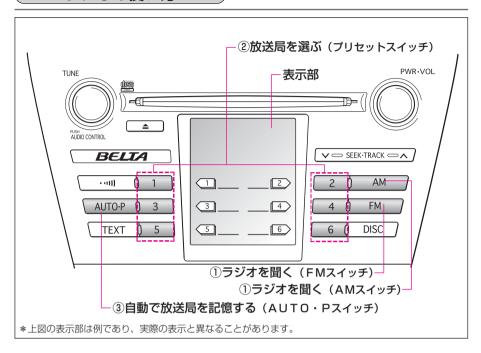
FM

DISC

①ラジオを聞く（ＦＭスイッチ）

①ラジオを聞く（ＡＭスイッチ）

③自動で放送局を記憶する（ＡＵＴＯ・Ｐスイッチ）

＊上図の表示部は例であり、実際の表示と異なることがあります。

①ラジオを聞く

ＡＭ放送を受信したいときは、**ＡＭスイッチ**、
ＦＭ放送を受信したいときは、**ＦＭスイッチ**を押します。
●表示部に「**ＡＭ**」、「**ＦＭ**」の表示が出ます。

②放送局を選ぶ

お聞きになりたい放送局が記憶されているスイッチを押します。

1〜6までの**プリセットスイッチ**の1つを押します。記憶されている放送局が選択されます。
放送局の記憶のしかたについては、P.249、251を参照してください。

③自動で放送局を記憶する

“ピッ”と音がするまで押し続けます。

自動で受信可能な周波数を一時的にプリセットスイッチに記憶させることができます。
旅先などで放送局の周波数がわからないときに便利です。
AUTO・Pスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、受信感度の良い周波数を低い順に6局まで自動的に記憶します。

- 表示部に「**AUTO・P**」の表示が出ます。
- 受信周波数が6局未満のときは、残りのプリセットスイッチには何も記憶されません。
- 周波数の記憶操作が終了すると、“ピッピッ”と音がして記憶した中でいちばん低い周波数を受信します。
- AUTO・Pスイッチを押すたびに、新たに周波数を記憶しなおします。
- 自動で周波数を記憶させても、AUTO・Pスイッチを押す前（「**AUTO・P**」の表示が出ていないとき）に記憶させた周波数は消去されません。

■AUTO・Pスイッチを押す前の状態にしたいときは

押して、すぐ手を離します。

AUTO・Pスイッチを押して、すぐ手を離します。

- 表示部の「**AUTO・P**」の表示が消え、以前に記憶させた周波数になります。

■AUTO・Pスイッチで記憶させた周波数を変更するには

1 ＳＥＥＫスイッチまたはＴＵＮＥダイヤルで記憶させたい周波数を選択します。（次ページ参照）

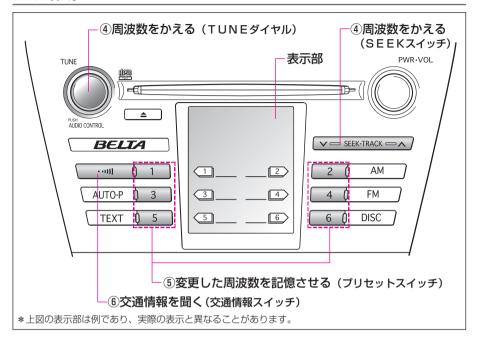
2 変更したい周波数が記憶されているプリセットスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けます。

知 識

AUTO・Pスイッチについて

- 地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で記憶できないことがあります。
- ＡＵＴＯ・Ｐスイッチによる周波数の記憶操作を同じ場所で繰り返しても、受信感度の状態によっては、操作ごとに記憶される周波数が異なることがあります。
- 同じ放送局からの受信でも、ＳＥＥＫスイッチまたはＴＵＮＥダイヤルで選択し、記憶させた周波数とＡＵＴＯ・Ｐスイッチで記憶させた周波数は一致しないことがあります。

④周波数をかえる（ＴＵＮＥダイヤル）
④周波数をかえる（ＳＥＥＫスイッチ）
表示部
TUNE
PWR・VOL
PUSH AUDIO CONTROL
SEEK・TRACK
BELTA
AUTO・P
TEXT
AM
FM
DISC
1
2
3
4
5
6
⑤変更した周波数を記憶させる（プリセットスイッチ）
⑥交通情報を聞く（交通情報スイッチ）

＊上図の表示部は例であり、実際の表示と異なることがあります。

④周波数をかえる

ＳＥＥＫスイッチを押すと、自動で受信可能な周波数を選択できます。

●高い方へ選択するときは∧側、低い方へ選択するときは∨側を押します。
- ・受信感度が良く、現在表示部に表示されている周波数にいちばん近い周波数を自動で選択します。
- ・途中で止めたいときは、もう一度ＳＥＥＫスイッチを押します。
- ・地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で選択できないことがあります。

ＴＵＮＥダイヤルをまわすと、周波数を微調整することができます。

●高い方へ選択するときは右側、低い方へ選択するときは左側にまわします。

⑤変更した周波数を記憶させる

"ピッ"と音がするまで押し続けます。

記憶させたい**プリセットスイッチ**の1つを"ピッ"と音がするまで押し続けると、聞いている周波数を記憶させることができます。

●ＡＭ・ＦＭ各6局まで周波数を記憶させることができます。
1つのプリセットスイッチに、ＡＭ・ＦＭ各1局ずつ周波数を記憶させることができます。

●バッテリー交換やヒューズ交換などでオーディオとバッテリーとの接続が断たれたときには、記憶されていた周波数はすべて消去されます。

⑥交通情報を聞く

押す

交通情報スイッチを押すと、交通情報放送を行っている地域で交通情報放送局を受信することができます。

●解除するときは、もう一度交通情報スイッチを押します。

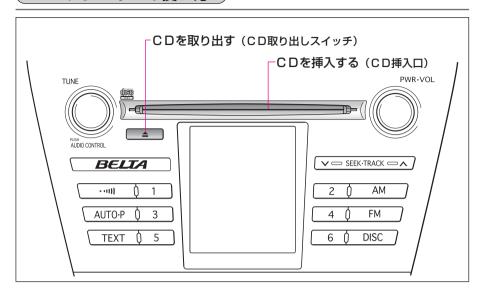
■周波数を変更したいときは

1 ＡＭを選択します。

2 記憶させたい周波数を選択します。

3 交通情報スイッチを"ピッ"と音がするまで押し続けます。

●新車時には1620kHzにセットしてあります。
●交通情報スイッチを押してラジオを受信しているときは、ＳＥＥＫスイッチ、ＴＵＮＥダイヤル、プリセットスイッチ、ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを押しても周波数は切り替わりません。
●バッテリー交換やヒューズ交換などでオーディオとバッテリーとの接続が断たれたときには、1620kHzになります。

ＣＤプレーヤーの使い方

ＣＤの挿入のしかた

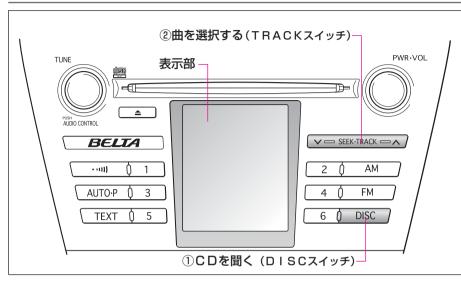
ＣＤ挿入口にＣＤを挿入します。

●ＣＤを挿入するときは、ラベル面を上にして挿入します。

●ＣＤ挿入口にＣＤを挿入すると、ＣＤが再生されます。

ＣＤの取り出し方

1 **ＣＤ取り出しスイッチ**を押します。

2 ＣＤを取り出します。

①ＣＤを聞く

ＣＤが挿入されている場合は、**ＤＩＳＣスイッチ**を押すとＣＤが再生されます。

●ＣＤ挿入口にＣＤを挿入すると、ＣＤが再生されます。

②曲を選択する

ＴＲＡＣＫスイッチの∧側または∨側を押して曲を選択します。

●表示部に曲番が表示されます。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

⑥ランダム再生をする（ＲＡＮＤスイッチ）

⑤リピート再生をする（ＲＰＴスイッチ）

表示部

TUNE

PWR･VOL

PUSH AUDIO CONTROL

BELTA

SEEK･TRACK

1 RAND RPT 2

5 6

AUTO･P 3

TEXT 5

2 AM

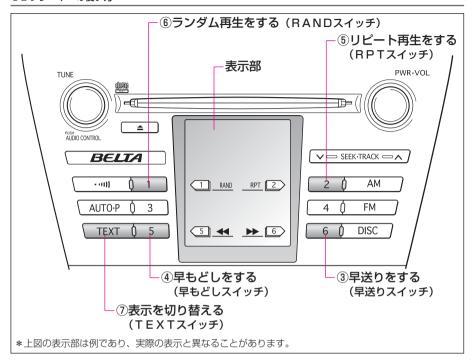
4 FM

6 DISC

④早もどしをする（早もどしスイッチ）

③早送りをする（早送りスイッチ）

⑦表示を切り替える（ＴＥＸＴスイッチ）

＊上図の表示部は例であり、実際の表示と異なることがあります。

③早送りをする

押しているあいだ早送りされます。

早送りスイッチを押しているあいだ、ＣＤが早送りされます。

●早送りスイッチから手を離すと、その位置から再生を始めます。

④早もどしをする

押しているあいだ早もどしされます。

早もどしスイッチを押しているあいだ、ＣＤが早もどしされます。

●早もどしスイッチから手を離すと、その位置から再生を始めます。

⑤リピート再生をする

RPTスイッチを押すと、解除するまで同じ曲を繰り返して再生します。

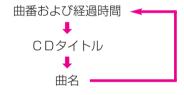
●作動中は表示部の RPT のまわりに枠が表示されます。
●解除するときは、もう一度RPTスイッチを押します。

⑥ランダム再生をする

RANDスイッチを押すと、CDの中から曲を順不同に再生します。

●作動中は表示部の RAND のまわりに枠が表示されます。
●解除するときは、もう一度RANDスイッチを押します。

⑦表示を切り替える

CDテキスト対応のCDを演奏しているときは、**TEXTスイッチ**を押すごとに、次のように表示部の表示が切り替わります。

8cmＣＤを使用するときは、アダプターを使用しないでください。ＣＤを取り出せなくなるおそれがあります。

表示について

●ＣＤタイトルまたは曲名表示のとき、タイトルがない場合は「ＮＯ ＴＩＴＬＥ」と表示されます。

●表示部に一度に表示できるのは12文字までです。また、記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。
ＣＤタイトルまたは曲名が13文字以上の場合は、ＴＥＸＴスイッチを約1秒以上押し続けると13文字目以降が表示されます。ただし、表示できるのは最大で24文字です。
・13文字目以降表示時に、もう一度ＴＥＸＴスイッチを約1秒以上押し続ける、または、約6秒以上操作しないと、1文字目〜12文字目までの表示にもどります。
・ＣＤタイトルまたは曲名が25文字以上ある場合でも、表示できるのは24文字までです。

ＣＤプレーヤーに異常が生じたときは

●表示部に次の表示でプレーヤーの状態を知らせます。
・ディスクがよごれているときや、ディスクが裏表逆などで読み取りができないとき

「ＥＲＲＯＲ 1」

・プレーヤーに異常があるとき

「ＥＲＲＯＲ 3」
「ＥＲＲＯＲ 4」

●プレーヤーの温度異常を検出すると、表示部に次の表示が出て自動的にプレーヤーの機能が停止します。この場合、しばらくしてプレーヤーの温度が常温に復帰すると表示が消えて使用可能になります。

「ＷＡＩＴ」

ラジオ用アンテナ

リヤウインドゥガラスに埋め込まれています。

注意　アンテナの取り扱いにはご注意ください。

●アンテナ入りガラス（室内側）の清掃は湿った布で線にそって拭いてください。ガラスクリーナーなどはアンテナを傷めますので使用しないでください。

●リヤウインドゥガラスのアンテナ線部に次のものを貼り付けないでください。受信感度が低下したり、ノイズ（雑音）が入るおそれがあります。

・金属を含有するウインドゥフィルム

・その他の金属物（トヨタ純正品以外のアンテナなど）

使用上の留意点

安全運転をさまたげないように適度な音量でお聞きください。

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くでデジタル式携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーからノイズ（雑音）が聞こえることがありますが故障ではありません。

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

●バッテリーあがりを防ぐため、エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。
●走行中のオーディオ操作は、安全運転に支障がないように十分注意して行ってください。

ラジオについて

ラジオの受信は、アンテナの位置が刻々とかわるため電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により最良な受信状態を維持することが困難な場合もあります。

ＣＤについて

■プレーヤーについて

上のマークのついた音楽用ＣＤのみ使用できます。（ＣＤ－ＲやＣＤ－ＲＯＭ、ＣＤ－ＲＷなどは使用できません）
●コピーコントロールＣＤなどの正式なＣＤ規格に準拠していない特殊ディスクには対応していません。

■寒いときや雨降りのときは

車内のガラスが曇るように、プレーヤー内部にも露（水滴）が生ずることがあります。この場合、音が飛んだり、再生が停止したりしますので、しばらくのあいだ、換気または除湿してから使用してください。

■悪路を走行したときは

激しく振動した場合、音飛びをすることがあります。

ＣＤの取り扱いにはご注意ください。

●ＣＤ取り出しスイッチを押して、ＣＤが飛び出た状態のまま長時間放置しないでください。ＣＤがそり、使用できなくなるおそれがあります。

●ＣＤは直射日光を避けて保管してください。ＣＤがそり、使用できなくなるおそれがあります。

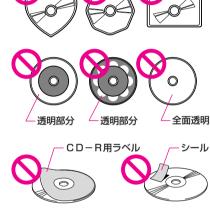
●ＣＤを扱うときは、中心の穴と端を挟んで持ち、ラベル面を上にしてください。

●直径12cmまたは8cmの円形以外のＣＤは再生できません。特殊形状のＣＤは機器の故障の原因となりますので、使用しないでください。

●DualDiscには対応していません。機器の故障の原因となりますので、使用しないでください。

●記録部分に透明または半透明部分があるＣＤは、正常に出し入れや再生ができなくなるおそれがありますので使用しないでください。

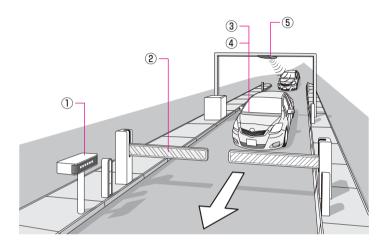
●レンズクリーナーを使用すると、プレーヤーのピックアップ部の故障の原因となるおそれがありますので使用しないでください。

●セロハンテープ、シール、ＣＤ－Ｒ用ラベルなどが貼ってあるＣＤや、はがしたあとのあるＣＤは使用しないでください。プレーヤーが正常に作動しなくなったり、ＣＤが取り出せなくなるなど、故障の原因となるおそれがあります。

●ＣＤのよごれは、プラスチック用メガネ拭きなどの柔らかく乾いた布で軽く拭き取ってください。手で強く押したり、かたい布でこすると表面に傷が付くことがあります。また、レコードスプレー・帯電防止剤・アルコール・ベンジン・シンナーなどの溶剤や化学ぞうきんなどを使用すると、ＣＤが損傷し使用できなくなるおそれがあります。

●変形したディスクは機器の故障の原因となりますので使用しないでください。

ＥＴＣの取り扱い ★

ＥＴＣシステムについて

ＥＴＣ（Electronic Toll Collection）システムは、有料道路の通過をスムーズに行うために、自動で料金を精算するシステムです。
路側無線装置と車両のＥＴＣユニットとのあいだで無線通信を行い、料金はお客様が登録した銀行口座から後日引き落とされます。

①路側表示器
料金所のＥＴＣレーンに設置されています。進入車両に対し、適切に通行したかどうかなどのメッセージが表示されます。

②発進制御装置（開閉バー）
料金精算を確実にするために、料金所のＥＴＣレーンに必要に応じて設置されています。通過車両の発進を制御するもので、踏み切りの遮断機のようなものです。通信が正常に行われると開きます。

③ＥＴＣユニット
車両に装着されています。ＥＴＣカードに格納されている料金精算に必要なデータを路側無線装置と通信するための機器です。

④ＥＴＣカード
ＥＴＣユニットに装着します。ＩＣチップを搭載した、ＥＴＣ機器用カードのことです。ＥＴＣカードでは、このＩＣチップに料金精算に必要なデータが保持されています。

⑤路側無線装置
料金所のＥＴＣレーンに設置されています。料金精算のため、車両のＥＴＣ機器との通信を行うためのアンテナです。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ＥＴＣを利用する前に

ＥＴＣシステムを利用する際には、以下の点に注意してください。

警告

安全のため、運転者は走行中にＥＴＣカードの抜き挿し、およびＥＴＣユニットの操作を極力しないでください。
走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。

注意

その他のＥＴＣユニットを用いたサービス（スマートＩＣなど）には、さまざまな制約があります。サービス提供者が案内する利用方法をご確認ください。

ＥＴＣカードを挿入する前に

注意

ＥＴＣカードの有効期限切れにご注意ください。ＥＴＣカードの有効期限が切れていると、開閉バーが開きません。お手持ちのＥＴＣカードに記載された有効期限を、あらかじめ確認してください。

ＥＴＣカードを挿入したあとに

注意

ＥＴＣカードを確実に挿入し、正常に作動していることを確認してください。

●ＥＴＣを利用する際は、あらかじめＥＴＣカードが確実にＥＴＣユニットに挿入されていることと、ＥＴＣユニットが正常に作動していることを確認してください。
●ＥＴＣユニットがＥＴＣカードを認証するまでには数秒かかりますので、料金所手前でのＥＴＣカードの挿入はエラーの原因となる場合があります。

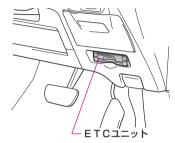
料金所を通過するときは

注意

ＥＴＣレーンに進入するときは、十分な車間距離をとり、約20km/h以下の安全な速度で進入してください。

●ＥＴＣレーンに進入するときは、十分な車間距離をとり、約20km/h以下の安全な速度で進入してください。
●ＥＴＣレーンに設置されている開閉バーは、ＥＴＣユニットと路側無線装置の間の通信、あるいはＥＴＣユニットとＥＴＣカードとの通信が正常に行われなかった場合は、開かないことがありますので、ご注意ください。
●ＥＴＣレーンを通行するときは、前車との車間距離を保持した上で、開閉バーの手前で安全に停止できるように十分に減速し、開閉バーが開いたことを確認してから通行してください。

ＥＴＣの使い方

本書では、メーカーオプションのＥＴＣユニットの操作のみを説明しています。
このＥＴＣユニットを、メーカーオプションのＨＤＤナビゲーションシステムとセットで装着された方は、ＨＤＤナビゲーションシステムの画面で、現在のＥＴＣシステムの状態、ＥＴＣ登録情報や利用履歴の表示、ＥＴＣの設定変更などができます。詳しくは、別冊の「ＨＤＤナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

ＥＴＣユニット

ＥＴＣユニットは、運転席ロアボックスの下にあります。

はじめてＥＴＣシステムをご利用される前に、ＥＴＣユニットのセットアップ手続きが必要です。トヨタ販売店にご相談ください。（セットアップ手続きには別途費用が発生します）

注意　ＥＴＣユニットの内部に異物などを入れないでください。

- ●ＥＴＣユニットの内部に異物などを入れないでください。ＥＴＣユニットが故障するおそれがあります。
- ●ＥＴＣユニットに衝撃を与えないでください。ＥＴＣユニットが故障、破損するおそれがあります。
- ●濡れた手でＥＴＣユニットにふれたり、水（液体など）を付着させないでください。ＥＴＣユニット内部に水が入り、故障・破損するおそれがあります。
- ●よごれたときは、柔らかい乾いた布でよごれをふき取ってください。ワックス、シンナー、アルコールなどは絶対に使用しないでください。ＥＴＣユニットが変形・故障する場合があります。
- ●車両1台に対して複数のＥＴＣユニットを取り付けると、ゲートの開閉バーが開かない場合があります。

知識

作動条件について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＡＣＣ ” または “ ＯＮ ” のとき使用できます。

製品に貼られているシールについて

本製品は電波法の基準に適合しています。製品に貼り付けられているシールはその証明ですので、はがさないでください。また、本製品を分解・改造すると法律により、罰せられることがあります。

車のナンバープレートを変更する場合は

車のナンバープレートが変更になった場合は、再度ＥＴＣユニットのセットアップ手続きが必要となりますので、トヨタ販売店にご相談ください。

ＥＴＣアンテナについて

インストルメントパネル内中央付近にあります。

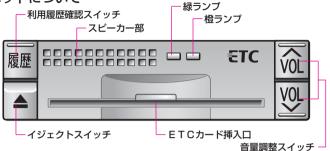
路側無線装置との通信のさまたげにならないよう、ＥＴＣアンテナ上方（インストルメントパネル中央付近）には、ものを置かないでください。

知識

フロントガラスのよごれなどについて

フロントガラスのよごれや積雪がひどい場合は、それらを取り除いてください。

各部の名称

■ＥＴＣユニットについて

■ＥＴＣカードについて

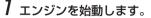
ＥＴＣカードの取得には、お客様自身による、別途申し込みが必要です。

注意　ＥＴＣカードの取り扱いについては、ＥＴＣカード発行会社の提示する注意事項に従ってください。

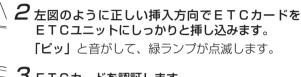
- ●ＥＴＣカードの取り扱いについては、ＥＴＣカード発行会社の提示する注意事項に従ってください。
- ●ＥＴＣカードには有効期限があります。有効期限内のＥＴＣカードをご利用ください。
- ●セロハンテープ・シールなどが貼ってあるＥＴＣカードや、金属端子（ＩＣチップ）がよごれているＥＴＣカードは使用しないでください。ＥＴＣユニットが正常に作動しなくなったり、ＥＴＣカードが取り出せなくなるなど、故障の原因となるおそれがあります。

使用するときは

■乗車時の操作

1 エンジンを始動します。

ＥＴＣユニットの電源が入り、緑ランプと橙ランプが同時に点灯した後、しばらくすると消灯します。

2 左図のように正しい挿入方向でＥＴＣカードをＥＴＣユニットにしっかりと挿し込みます。

「ピッ」と音がして、緑ランプが点滅します。

ＥＴＣカード

3 ＥＴＣカードを認証します。

●正しく認証された場合

音声案内※	「ポーン ＥＴＣカードが挿入されました」
ＥＴＣユニット	緑ランプが点灯したまま

ＥＴＣシステムは、この状態でご利用ください。

※メーカーオプションのＨＤＤナビゲーションシステム装着車では、エンジン始動後しばらくのあいだは、ＥＴＣカードを挿入しても音声案内されない場合がありますが、緑ランプが点灯していれば、ＥＴＣシステムを利用することができます。

●正しく認証されなかった場合

橙ランプが点滅し、統一エラーコード（P.273参照）を音声でお知らせします。

注意

ＥＴＣユニットやＥＴＣカードにエラーが発生した場合は、橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音声でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」（P.273参照）の記載に従って対処してください。

知 識

ＥＴＣユニットについて

●橙ランプが点灯しているときは、ＥＴＣユニットのセットアップ手続きができていないので使用できません。ＥＴＣをはじめて使用するときは、セットアップカードを使ってＥＴＣユニットをセットアップする必要があります。詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。
●有効期限切れや解約済みのＥＴＣカードは使用できません。これらのカードをＥＴＣユニットに挿入してもエラー表示はされませんが、開閉バーは開きません。

■降車時の操作

1 **安全な場所に停車し、エンジンを停止する前にETCユニットのイジェクトスイッチを押します。**

ＥＴＣカードを抜く前にエンジンを停止すると、カードの抜き忘れをお知らせする音声案内がＥＴＣユニットより出力されます。
(P.268参照)

2 **ＥＴＣユニットからＥＴＣカードを抜きます。**

3 **エンジンを停止します。**

 注意

緑ランプが点滅中はＥＴＣカードを抜かないでください。

●緑ランプが点滅中はＥＴＣカードを抜かないでください。ＥＴＣカード内のデータが破損するおそれがあります。

●ＥＴＣユニットやＥＴＣカードにエラーが発生した場合は、橙ランプが点滅します。状況に応じて、次のように対応してください。

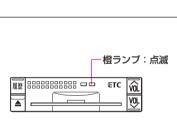
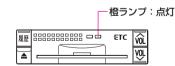
・統一エラーコード（01～07）が音声出力された場合は、「統一エラーコード一覧」（P.273参照）に記載されている処置に従ってください。

・エンジン始動時にエラーが発生した場合は、いったんエンジンを停止させ、再度始動してみてください。それでもエラーが続くときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

・ＥＴＣカード挿入時にエラーが発生した場合は、いったんＥＴＣカードを抜き、挿入方向を確認して再度挿し込んでみてください。それでもエラーが続くときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●ＥＴＣカードを放置して車から離れないでください。
車内の温度上昇により、ＥＴＣカードが変形したり、ＥＴＣカード内のデータが破損するおそれがあります。

■ＥＴＣの作動状態を知るには

ＥＴＣユニットの作動状態	ランプの点灯状態
スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車 ●“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦのとき ●“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードで、ＥＴＣカードが未挿入のとき **スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車** ●エンジン スイッチが“ＬＯＣＫ”のとき ●エンジン スイッチが“ＡＣＣ”または“ＯＮ”で、ＥＴＣカードが未挿入のとき	緑ランプ：消灯 橙ランプ：消灯
ＥＴＣが正常に作動しているとき ●ＥＴＣカードが正しく認証されたとき ●ＥＴＣゲートで正常に通信できたとき ●ＥＴＣゲートで正常に精算処理ができたとき	緑ランプ：点灯
ＥＴＣの作動に異常があったとき ●ＥＴＣカードとは種類の異なるカードを挿入したとき ●挿入したＥＴＣカードが正しく認識されなかったとき ●ＥＴＣシステムに異常があるとき ●ＥＴＣゲートで正常に通信できなかったとき ●ＥＴＣゲートで精算処理ができなかったとき ●ＥＴＣのアンテナに異常があるとき	橙ランプ：点滅
ＥＴＣがセットアップ手続きされていないとき	橙ランプ：点灯

知 識

ＥＴＣカードの取り扱いについて

ＥＴＣカードを放置して車から離れないでください。ＥＴＣカードが盗難にあうおそれがあります。

カード抜き忘れ警告について

●ＥＴＣカードを抜く前にエンジンを停止すると、ＥＴＣユニットから**「ピー　カードが残っています」**と音声が出力されます。

●カード抜き忘れ警告の音声を出力しないようにすることもできます。

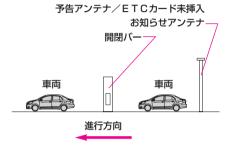
・音声を出力させない場合は、車を停車させ、ＥＴＣユニットにＥＴＣカードが挿入され緑ランプが点灯している状態で、「履歴」と「∧VOL」スイッチを同時に約2秒間押し続けます。操作をするごとに「音声出力する／音声出力しない」が切り替わり、選択した設定が保持される（設定が切り替わる）とＥＴＣユニットから**「ピッピッ」**と音がします。なお、メーカーオプションのＨＤＤナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、ＥＴＣ設定画面でも行えます。
詳しくは、別冊の「ＨＤＤナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

・ＥＴＣユニットの音声案内を中止（音量0）に設定した場合は、**「ピー」**とブザー音のみ出力されます。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備の 解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

走行中のランプ表示と通知音について

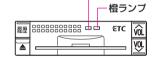
走行中は、次のようにＥＴＣユニットのランプ表示と通知が行われます。
ただし、安全のため運転者は走行中にランプ表示を見ないでください。

■ＥＴＣゲート（入口）、検札所、予告アンテナ／ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナを通過したとき

通信が正常に行われたかどうかにより、通知される内容がそれぞれ次のように異なります。

●通信が正常に行われた場合

ランプ表示	緑ランプが点灯したまま
通知音※	「ピッ」

※ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナを通過したときは、通知されません。また、メーカーオプションのＨＤＤナビゲーションシステム装着車では通知されません。

●通信が正常に行われなかった場合

橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音声でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」（P.273参照）の記載に従って対処してください。

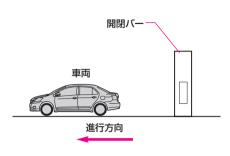
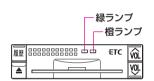
> **注意**
> ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナ、ＥＴＣゲート、検札所、予告アンテナ付近では、ＥＴＣカードを抜かないでください。
> ＥＴＣカード内のデータが破損するおそれがあります。

知 識

ＥＴＣゲートを通過するときは

ＥＴＣカードが未挿入の状態で、予告アンテナやＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナを通過した場合は、橙ランプが点滅し、**「ピー　ＥＴＣをご利用できません※」**と案内されます。これはＥＴＣが利用できないことをお知らせするもので、ＥＴＣユニットが故障したわけではありません。

※メーカーオプションのＨＤＤナビゲーションシステム装着車では、**「ポーン　ＥＴＣゲートを通過できません」**または**「ポーン　ＥＴＣカードが挿入されていません」**という音声になります。

■ＥＴＣゲート（出口／精算用）を通過したとき

通信が正常に行われたかどうかにより、通知される内容がそれぞれ次のように異なります。

●通信が正常に行われた場合

ランプ表示	緑ランプが点灯したまま
通知音	なし
音声案内	通行料金を通知

●通信が正常に行われなかった場合

橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音声でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」（P.273参照）の記載に従って対処してください。

ＥＴＣゲート進入時は、十分減速してください。

●ＥＴＣゲート進入時は、十分減速してください。
●ＥＴＣゲート通過時は、ＥＴＣゲート付近に表示されている案内に従って走行してください。
●ＥＴＣゲートの開閉バーが開かない場合は、料金所係員の指示に従ってください。
●その他、道路事業者の発行する利用方法に従ってください。
●必ず、ＥＴＣゲート（入口）で使用したＥＴＣカードで、ＥＴＣゲート（出口／精算用）または検札所を通過してください。
●ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナ、ＥＴＣゲート、検札所、予告アンテナ付近では、ＥＴＣカードを抜かないでください。
ＥＴＣカード内のデータが破損するおそれがあります。

通行料金の通知について

●通知される通行料金は、割り引きなどにより実際と異なる場合があります。
●他のナビ案内などと重なったときは、通行料金が案内されないことがあります。※

※メーカーオプションのＨＤＤナビゲーションシステム装着車

知 識

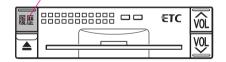
ゲート通過時の通知について

道路側システムにより通信が正常に行われた場合、1つのゲートで2回通知されることがあります。

道路設備について

●予告アンテナは、料金所の手前に設置され、ＥＴＣユニットと通信し、ＥＴＣゲートを利用できるかどうかをＥＴＣユニットを通じて運転者にあらかじめ通知するためのアンテナです。
●ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナは、料金所の手前に設置され、ＥＴＣユニットと通信し、正しくＥＴＣカードが挿入されていない場合にＥＴＣユニットを通じて運転者にあらかじめ通知するためのアンテナです。
●予告アンテナ・ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナは、道路側のシステムにより、設置されている場合と設置されていない場合があります。

利用履歴の確認について

ＥＴＣユニットの利用履歴確認スイッチで、有料道路の利用日および通行料金を音声で確認できます。
ＥＴＣカードが挿入され、緑ランプが点灯した状態で、停車中に利用履歴確認スイッチを押すと、最新の利用履歴が音声で案内されます。

●利用履歴確認スイッチを押すごとに、古い利用履歴に切り替わります。なお、最も古い利用履歴の次は、最新の利用履歴に切り替わります。
●案内終了後、約1秒以上たってからスイッチを押した場合は、最新の利用履歴から案内されます。

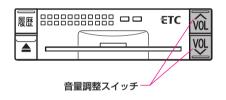
ＥＴＣゲート、検札所、予告アンテナ／ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナ付近では、利用履歴の確認を行わないでください。路側無線装置と通信ができなくなるおそれがあります。

知 識

利用履歴について

●利用履歴はＥＴＣカードに記録されるため、記録件数は使用するＥＴＣカードにより異なります。（最大100件）
●利用履歴の最大記録件数を超えた場合は、最も古い利用履歴が消去されます。
●利用履歴がない場合は、**「利用履歴はありません」**と案内されます。
●利用日の情報が正しくない場合は、**「利用日付は不明です」**と案内されます。
●通行料金の情報が正しくない場合は、**「料金は不明です」**と案内されます。

音量調整について

ＥＴＣユニットの音量調整スイッチで、ＥＴＣユニットから出力される音声案内の音量を調整することができます。

ＥＴＣユニットの音量調整スイッチで、ＥＴＣユニットから出力される音声案内の音量を8段階に調整することができます。

音量を
●大きくするときはスイッチの∧VOL側
●小さくするときはスイッチのVOL∨側
を押します。

音量を調整すると、調整結果が音声で案内されます。

音量	音声案内
1～8	「音量○○です」
0	「音声案内を中止します」

知 識

音量調整について

●音量調整は、以下のような案内に有効です。
・未セットアップ状態の通知
・エラー発生時のブザー音
・カード抜き忘れ警告（P.268参照）
・利用履歴の確認
・音量調整時の案内
●音量調整を中止（音量0）に設定してあっても、エラー発生時には音量1で出力されます。
●ＥＴＣユニットが未セットアップ状態（セットアップ手続きをしていない状態）の通知は、ＥＴＣユニットを消音（音量0）にすると出力されません。

エラーコードについて

統一エラーコード一覧

エラーが発生すると、橙ランプが点滅すると共に統一エラーコードが音声出力されます。この場合は、以下の表にもとづき、処置をしてください。

（例）エラー03が発生したときは、次のように音声で案内されます。
音声案内：「ピッピッ　カードを読めません　エラー03」※

※メーカーオプションのＨＤＤナビゲーションシステム装着車では、**「ポーン　ＥＴＣカードが読めません　カードをお確かめください」**という音声が、車両のスピーカーから出力されます。併せてナビゲーション画面に**「ＥＴＣカードが読めません　カードをお確かめください　03」**と表示されます。

コード	異常状態	想定される要因	処置
01	ＥＴＣカード挿入異常	●ＥＴＣカードが通信時に挿入されていない ●ＥＴＣカードの挿入状態が悪い	ＥＴＣカードの挿入状態をご確認の上、再度挿入してください。
02	データ処理異常	●ＥＴＣカードへの読出し、書込みエラー ●ＥＴＣカードとユニットの接点不良（ＥＴＣカードアクセス中の瞬断） ●読出し中、書込み中カードのイジェクト	**ＥＴＣカード挿入時：** 挿入されたＥＴＣカードのデータが読み出せませんでした。再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は､トヨタ販売店へお問い合わせください。 **ＥＴＣゲート通過前：** 料金所にて車両の停止が案内されることがあります。 車両停止後、料金所係員の指示に従ってください。 **ＥＴＣゲート通過後：** 次の料金所にて車両の停止が案内されることがあります。 料金所係員のいる一般レーン（ＥＴＣ／一般共用レーンを含む）へ進入してください。
03	ＥＴＣカード異常	●ETCカードが故障している ●ＩＣカード以外のカードが挿入され、通信しない ●ＥＴＣカードの誤挿入（裏面、挿入方向違い）	挿入されたカードがＥＴＣカードであると認識できませんでした。正しいＥＴＣカードであること、および挿入方向などをご確認の上、再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は､トヨタ販売店へお問い合わせください。

コード	異常状態	想定される要因	処置
04	ＥＴＣユニット故障	自己診断の結果、ＥＴＣユニットが故障していると判断された	再度エンジンを始動してみてください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。
05	ＥＴＣカード情報の異常	●ＥＴＣカードとの認証エラー ●ＥＴＣカード以外のＩＣカードが挿入 ●認証中ＥＴＣカードのイジェクト ●未セットアップ状態でのＥＴＣカードの挿入	挿入されたカードがＥＴＣカードであると認識できませんでした。正しいＥＴＣカードであること、および挿入方向などをご確認の上、再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。
06	ユニット情報の異常	路側無線装置との認証エラー	ユニットと料金所間におけるデータ処理にエラーが発生しました。料金所係員の指示に従ってください。
07	通信異常	路側無線装置との通信が途中で終了	

知 識

統一エラーコードについて

●ＥＴＣカード未挿入お知らせアンテナ等と通信したときに、統一エラーコード（07）と通知されることがありますが、ＥＴＣユニットの故障ではありません。
●ＥＴＣユニットの無線通信を利用して、駐車場管理システムが運用されています。有料道路の料金支払いと異なる通信を行った場合、統一エラーコード（01）または（07）と通知されることがありますが、ＥＴＣユニットの故障ではありません。

ＥＴＣゲート通過後のエラー発生時は

ＥＴＣゲート通過後にエラーが発生した場合、ＥＴＣカードを抜くとエラー音が停止します。再度、ＥＴＣカードを挿入すると**「ポーン ＥＴＣカードが挿入されました」**の音声と同時に緑ランプが点灯しますが、次の料金所にて車両の停止が案内されることがあります。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

記録されているエラーコードを確認するには

ＥＴＣユニットは、最後に発生した統一エラーコード（P.273参照）を記録しています。コードの確認をする場合は、次のように行います。

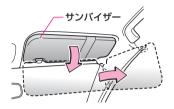
1 **イジェクトスイッチを押し、ＥＴＣカードを抜きます。**

2 **利用履歴確認スイッチを約2秒以上押します。**

最後に案内された統一エラーコードが音声で案内されます。

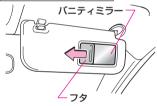
室内装備品の使い方

サンバイザー

日差しがまぶしいときに使用します。

側面にまわして使用することもできます。

便利機能について

バニティミラー

運転席・助手席 ★

サンバイザーの裏側に化粧用ミラーが付いています。
フタをスライドさせて使用します。

チケットホルダー

運転席・助手席 ★

サンバイザーの表側にあります。チケットなどを収納することができます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

フロントパーソナルランプ

くぼみ部分を押すと押した側のフロントパーソナルランプが点灯し、もう一度押すと消灯します。

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。

知 識

作動条件について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態に関係なく使用できます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチの状態に関係なく使用できます。

ルームランプ

●スイッチがＯＮの位置のとき点灯します。
●スイッチがＯＦＦの位置のとき消灯します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

●スイッチがＤＯＯＲの位置のときは、ドアの開閉、解錠・施錠、“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態などと連動して、ルームランプが点灯・消灯します。
（詳しくはP.93の「イルミネーテッドエントリーシステム」を参照してください）

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

●スイッチがＤＯＯＲの位置のときは、ドアの開閉、解錠・施錠、エンジン スイッチの状態などと連動して、ルームランプが点灯・消灯します。
（詳しくはP.128の「イルミネーテッドエントリーシステム」を参照してください）

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。

作動条件について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態に関係なく使用できます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチの状態に関係なく使用できます。

バッテリーあがり防止機能について

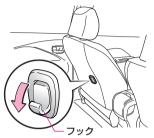
スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

いずれかのドアが開いた状態で、ルームランプ（ＤＯＯＲの位置のとき）が約20分以上点灯し続けると、バッテリーあがり防止機能が働き、ルームランプが自動的に消灯します。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチにキーが挿し込まれていないとき、いずれかのドアが開いた状態で、ルームランプ（ＤＯＯＲの位置のとき）が約20分以上点灯し続けると、バッテリーあがり防止機能が働き、ルームランプが自動的に消灯します。

コンビニフック

買い物袋などを吊り下げておくことができます。

助手席にあります。
フックを手前に引き出して使用します。
●使用しないときは格納してください。

注意　重たいものや大きなものをフックに掛けないでください。（最大荷重約4kg）

●重たいものや大きなものをフックに掛けないでください。（最大荷重約4kg）
　フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。
●フックを使用しないときは、格納しておいてください。
　指を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。

カップホルダー

■フロント

運転席側、助手席側にあります。
フタを押すと開きます。
●使用しないときは閉めておいてください。

■コンソールボックス後部

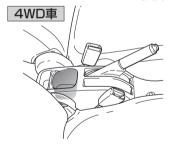
2WD車

フタ開けて使用します。
●使用しないときは閉めておいてください。

■コンソールボックス後部

4WD車

■リヤアームレスト

分割可倒シート装着車

使用するときは、アームレストを手前に倒します。

カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。

●カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。
●急ブレーキをかけたときや衝突時に、カップホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。フタ付きのカップホルダーは、使用しないときはフタを閉めておいてください。

カップホルダーを破損から守るためカップホルダーに手をついたりしないでください。

●カップホルダーを破損から守るためカップホルダーに手をついたりしないでください。カップホルダーが破損するおそれがあります。
●カップホルダーのフタを開閉するときは、指などを挟まないように注意してください。
●カップホルダーにはペットボトルや安定性の悪いものを置かないでください。倒れる可能性があります。ペットボトルなどはボトルホルダーに置いてください。
●カップホルダーにはコインなどの小物を入れないでください。コインなどの小物を入れると隙間に入ってしまい、取り出せなくなるおそれがあります。万一、取り出せなくなった場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

ボトルホルダー

■フロントドア

フロントドアにあります。

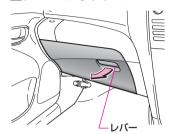
走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

知 識

ボトルホルダーについて

●必ずペットボトルのフタを閉めてから収納してください。
●ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

収納ボックス

■グローブボックス

レバーを引いて開けます。
●使用しないときは閉めておいてください。

■運転席側ロアボックス

フタを引いて開けます。
●使用しないときは閉めておいてください。

■コンソールボックス

2WD車

レバーを引いて開けます。
●使用しないときは閉めておいてください。

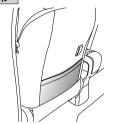
警告

収納ボックスのフタを開けたまま走行しないでください。
急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

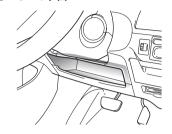
収納ポケット

■センタークラスター部

■コラム下部

■シートバックポケット ★

■センターコンソール部

4WD車

■フロントドア

収納ポケット内に転がりやすいものや凹面より高さのあるものを置かないでください。
急ブレーキ、急旋回したときなどに置いたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

カードホルダー

メーカーオプションのＥＴＣ装着車を除く

運転席インストルメントパネル右下にあります。

コートフック ★

運転席側後席のアシストグリップにコートフックがあります。

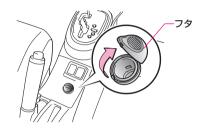
警告

コートフックには、ハンガー・重いもの・とがったものなどをかけないでください。服をかけるときは、ハンガーを使用せずに直接コートフックにかけてください。
ＳＲＳカーテンシールドエアバッグが展開したときに飛ばされて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アクセサリーソケット

電気製品の電源（ＤＣ12Ｖ）として使用できます。

2WD車

4WD車

フタを開けて使用します。
●使用しないときは、フタを閉めておいてください。

アクセサリーソケットを使わないときは、フタを閉めておいてください。

●アクセサリーソケットを使用しないときは、フタを閉めておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したりショートするおそれがあります。
●最大電気容量を超える電気製品を使用すると、車両ヒューズが切れることがあります。
●エンジンを停止した状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。また、エンジンがかかっていてもアイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。

知 識

作動条件について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードのとき使用できます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＡＣＣ ” または “ ＯＮ ” のとき使用できます。

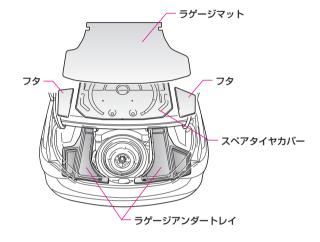
最大電気容量について

使用する電気製品は、必ずＤＣ12Ｖで最大電流10Ａ（最大消費電力120Ｗ）以下の電気製品を使用してください。

ラゲージアンダートレイ

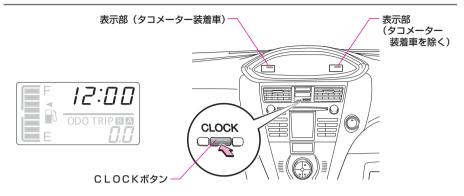
トランク内のマットの下に荷物を収納することができるトレイがあります。

4WD車

知識

ラゲージアンダートレイについて

清掃時などに取りはずすことができます。

●通常はラゲージアンダートレイが装着された状態でお使いください。

時計

“時”“分”を調整するときは

1 **ＣＬＯＣＫボタンを約1秒以上押し、手を離します。**
“時”調整モード（“時”表示が点滅）に切り替わります。

2 **“時”を調整します。**
ＣＬＯＣＫボタンを押すごとに、“時”が進み、押し続けると早送りされます。

3 **ＣＬＯＣＫボタンから手を離し、約5秒間待ちます。**
“分”調整モード（“分”表示が点滅）に切り替わります。

4 **“分”を調整します。**
ＣＬＯＣＫタンを押すごとに、“分”が進み、押し続けると早送りされます。

5 **ＣＬＯＣＫボタンから手を離し、約５秒間待ちます。**
時計が作動を開始します。

時報に合わせるときは

時報と同時にＣＬＯＣＫボタンを押すと、時報に合わせることができます。
●0 ～ 29分は切り下げられます。
●30 ～ 59分は切り上げられます。
(例) 1:00～1:29の場合は 1:00に、1:30～1:59 の場合は 2:00 になります。

作動条件について

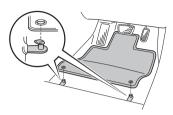
スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションＯＮモードのとき表示されます。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ＯＮ ” のとき表示されます。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をお読みください。

運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことをお守りください。
- ・トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- ・運転席専用のフロアマットを使用してください。
- ・付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。
- ・他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- ・フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。

●運転する前に、以下のことを確認してください。
- ・フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認を行ってください。
- ・エンジン停止およびシフトレバーがⓅの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

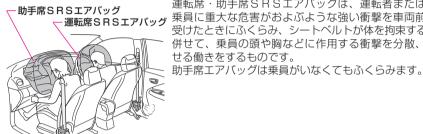
5

安全・快適装備の解説と注意

ＳＲＳ※エアバッグ

ＳＲＳエアバッグとは

ＳＲＳエアバッグは、あくまでも乗員保護の補助装置でシートベルトの補助をするもので、ＳＲＳエアバッグの効果を発揮させるためには、正しい姿勢と正しいシートベルトの着用が絶対条件です。
また、正しく取り扱えば効果のあるＳＲＳエアバッグも、誤った取り扱いをすると効果を発揮しないばかりか、かえって乗員に傷害または死亡の危険を与えるおそれがあります。

運転席・助手席ＳＲＳエアバッグ

運転席・助手席ＳＲＳエアバッグは、運転者または助手席乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて、乗員の頭や胸などに作用する衝撃を分散、緩和させる働きをするものです。
助手席エアバッグは乗員がいなくてもふくらみます。

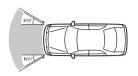
ＳＲＳサイドエアバッグ、ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ ★

ＳＲＳサイドエアバッグは前席乗員、ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは前後席乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を側方から車両客室部に受けたときに、衝撃を受けた側のＳＲＳサイドエアバッグ、ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて、ＳＲＳサイドエアバッグは前席乗員の胸などの上体に、ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは前後席乗員の主に頭部に作用する衝撃を分散、緩和させる働きをするものです。
ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは乗員がいなくてもふくらみます。

※Supplemental Restraint Systemの略で「乗員保護補助装置」の意味。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ＳＲＳエアバッグ作動のしくみ

運転席･助手席ＳＲＳエアバッグの作動

車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。
衝撃は車両前方・車両中央床部に取り付けられたセンサーで感知し、運転席・助手席ＳＲＳエアバッグをふくらませるようコンピューターに信号を送りＳＲＳエアバッグが作動します。

車両前方にグリルガードなどを装着するとセンサーが正常に衝撃を感知できなくなり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動を損なうおそれがあります。

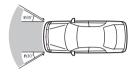
ＳＲＳサイドエアバッグ、ＳＲＳカーテンシールドエアバッグの作動★

車両側面方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。
衝撃はセンターピラー、リヤピラー・車両中央床部に取り付けられたセンサーで感知し、ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグをふくらませるようコンピューターに信号を送り、ＳＲＳエアバッグが作動します。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ＳＲＳエアバッグが作動するとき

シートベルトを正しく着用している乗員が、重大な傷害を受けるおそれがあるような強い衝撃があった場合に作動し、重大な傷害を受けるおそれの少ない衝撃では作動しにくくなっています。

作動する場合

運転席・助手席ＳＲＳエアバッグは、車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な傷害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。
ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは、車両側面方向から乗員に重大な傷害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

作動しにくい場合

■運転席・助手席ＳＲＳエアバッグ

次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しない場合があります。

●衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても、衝突速度が約25km/h以下の場合

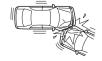
●衝突時に変形、移動しない電柱や立木などの狭い範囲に正面衝突したときであっても、衝突速度が約30km/h以下の場合

次のような場合にも衝突による衝撃がゆるめられるため、作動しない場合があります。

●トラックの荷台下などへもぐり込み衝突した場合

●斜め前方から衝撃を受けた場合

衝突したものが変形したり移動した場合は、衝突による衝撃がゆるめられるため、作動する車速は高くなります。

●例えば、停車中の同程度の重さの車へ正面から衝突した場合には、約50km/h程度の速度であっても、作動しない場合があります。

●衝突の方向（角度）や片側衝突（オフセット衝突）などによっては、さらに高い速度であっても、作動しない場合があります。

■ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ★

次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しない場合があります。

●斜め側面から衝撃を受けた場合

●客室部以外の側面に衝撃を受けた場合

本来の効果を発揮しない場合

次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。

●側面や後方から衝撃を受けた場合
（運転席・助手席ＳＲＳエアバッグ）

●車両が横転、転覆した場合

車両下部に衝撃を受けた場合

次のような車両下部に強い衝撃を受けた場合には、作動する場合があります。

●縁石などにぶつかった場合

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえた場合

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下した場合

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

⚠警告　ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

●ＳＲＳエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトにかわるものではありません。

乗車するときには必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと衝突したときなどにＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させることができないばかりでなく、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと急ブレーキなどで前方に放り出されると同時にＳＲＳエアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け危険です。シートベルトの正しい着用については、P.154をお読みください。

・シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中を付けた正しい姿勢でシートに座ってください。ＳＲＳエアバッグに近付きすぎた姿勢で乗車していると、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

<運転者の方は>

運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近付きすぎないようにして座ってください。

<助手席乗員の方は>

助手席ＳＲＳエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。

シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。

シートの調整、正しい運転姿勢についてはP.144をお読みください。

・ＳＲＳサイドエアバッグ装着車・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、ドアにもたれかかったり、フロント・センター・リヤピラーやルーフサイド部に近付かないようにしてください。ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。とくにお子さまを乗せるときには注意してください。

・ひざの上にものをかかえるなど、乗員とＳＲＳエアバッグのあいだにものを置いた状態で走行しないでください。ＳＲＳエアバッグがふくらんだときにものが飛ばされたり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動がさまたげられ、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●お子さまを乗せるときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・お子さまはリヤシートに座らせて必ずシートベルトを着用させてください。

⚠警告　ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

・シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまには、ベビーシート･チャイルドシート･ジュニアシートなどの子供専用シートをリヤシートに装着してご使用ください。

・助手席には子供専用シートをうしろ向きに絶対に取り付けないでください。
助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。
助手席サンバイザーに同内容の警告文があります。併せてご覧ください。（P.32参照）
なお、やむを得ず助手席に前向きに子供専用シートを取り付ける場合には、シートの前後調整位置をいちばんうしろにして取り付けてください。

・お子さまを助手席ＳＲＳエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。

●車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。これらの作業が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

・ＳＲＳエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取り付け・分解・修理などをしないでください。

・ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、フロントシートの表皮の張り替えや、フロントシートの取りはずし・取り付け・分解・修理などが必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。

・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、フロントピラー・リヤピラーやルーフサイド部の取りはずし、取り付けなどＳＲＳカーテンシールドエアバッグ格納部周辺を分解・修理しないでください。

・サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわるとＳＲＳエアバッグの誤作動につながります。

・車両前部または車両客室部の不適切な修理をしないでください。不適切な修理を行うとＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなります。

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

●カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ＳＲＳエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどで覆わないでください。

・インストルメントパネル上部に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、ふくらんだときに飛ばされて危険です。

・ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取り付けないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがＳＲＳサイドエアバッグ展開部を覆うと、ＳＲＳサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取り付けてください。

・ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取り付けないでください。ＳＲＳサイドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、フロントウインドゥガラス、サイドドアガラス、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどＳＲＳカーテンシールドエアバッグ展開部周辺にアクセサリー、ハンズフリーマイクなどを取り付けないでください。ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、リヤ席アシストグリップ部のコートフックには、ハンガー・重いもの・とがったものをかけないでください。服をかけるときは、ハンガーを使用せずに直接コートフックにかけてください。ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

・無線機の電波などは、ＳＲＳエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、トヨタ販売店にご相談ください。

・車両前部にグリルガードやウインチなどを装着するときは、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をするとＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグの誤作動につながります。

●ステアリングパッド、インストルメントパネル上部、フロント・リヤピラー、ルーフサイド部、フロントシート側面などＳＲＳエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだ直後はＳＲＳエアバッグ構成部品にふれないでください。構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ＳＲＳエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。

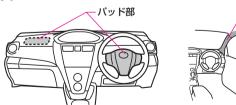
●ＳＲＳエアバッグは非常に速いスピードでふくらむため、ＳＲＳエアバッグとの接触により打撲やすり傷などを受けることがあります。

●ＳＲＳエアバッグが作動すると、作動音と共に白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。
この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して車外に出てください。なお、車外に出られない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
また、ＳＲＳエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。

●衝突時などに助手席ＳＲＳエアバッグがふくらむことによって、車両のフロントウインドゥガラスが破損することがあります。

●一度作動したＳＲＳエアバッグは、2回目以降の衝突では再作動しません。必ずトヨタ販売店で交換してください。同様に連続して衝突した場合、1回目の衝突でＳＲＳエアバッグが作動すれば、2回目の衝突ではＳＲＳエアバッグは作動しません。

●車やＳＲＳエアバッグを廃棄するときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。
ＳＲＳエアバッグが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグが収納されているパッド部およびフロント・リヤピラー、ルーフサイド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどにＳＲＳエアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

ＳＲＳエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

●エンジン停止時およびＳＲＳエアバッグ作動時は、フューエルポンプ制御が作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。燃料供給の停止を解除するときは、燃料もれがないことを十分確認してから、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを一度ＯＦＦにします。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

●エンジン停止時およびＳＲＳエアバッグ作動時は、フューエルポンプ制御が作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。燃料供給の停止を解除するときは、燃料もれがないことを十分確認してから、エンジン スイッチを一度“ＬＯＣＫ”にします。

シートベルト関係

シートベルトの働き

プリテンショナー ＆
フォースリミッター付シートベルトの働き

フロントシートベルト

●プリテンショナー機構は、乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときに、シートベルトを瞬時に巻き取り、適切な乗員拘束効果の確保に役立ちます。
●フォースリミッター機構は、シートベルトの荷重を規定値に維持することで胸部への衝撃を緩和します。

＜プリテンショナー機構＞

【衝突初期にシートベルトを瞬時に巻き取る】

＜フォースリミッター機構＞

【衝突時規定荷重を維持しながらシートベルトを引き出す】

ＥＬＲ機構付シートベルトの働き

3点式シートベルト

シートベルトは体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で体が前に倒れそうなときは、ベルトが自動的にロックされ体を固定します。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

警告 プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。

●プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとプリテンショナーが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・シートベルトを正しく着用する。(P.154参照)
・シートを正しい運転姿勢のとれる位置に調整する。(P.144参照)

●プリテンショナー付シートベルトの取り付け・取りはずし、分解などをしないでください。また、プリテンショナー付シートベルトを修理するときは、必ずトヨタ販売店で行ってください。プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤って巻き取り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリテンショナー付シートベルトが作動すると、SRSエアバッグ/プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。プリテンショナー付シートベルトが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。

●プリテンショナー付シートベルトが作動すると、作動音と共に白い煙のようなガスが発生しますが火災ではありません。また、人体への影響もありません。

知 識

プリテンショナー付シートベルトの作動条件について

プリテンショナー付シートベルトは、車両前方から強い衝撃を受けたときに作動します。次のような衝撃が弱いときには作動しない場合があります。

●コンクリートの壁に約25km/h以下の速度で正面衝突したとき

なお、次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。

●側面や後方から衝撃を受けたとき
●車両が横転、転覆したとき

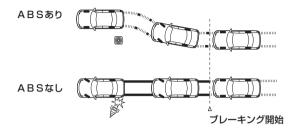
作動後について

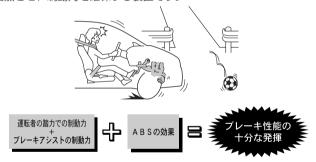
プリテンショナー付シートベルトは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

ＡＢＳ※、ブレーキアシスト

ＡＢＳ、ブレーキアシストとは

ＡＢＳの働き

ＡＢＳは、急ブレーキをかけたときや、すべりやすい路面でブレーキをかけたときに起こるタイヤのロック（回転が止まること）を防ぐことにより、スリップを抑制します。

ブレーキアシストの働き

ブレーキアシストは、
●緊急制動時の運転に不慣れな運転者が緊急制動するとき
●緊急制動時にパニック状態に陥ったとき
などにブレーキペダルが強く踏めず、ブレーキ性能を十分に発揮できない場合に、運転者のペダル踏力を増加させ、制動力を確保する装置です。

ＡＢＳ、ブレーキアシストについて

ＡＢＳやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界がありますので、過信することなく安全運転を心がけてください。
また、ＡＢＳやブレーキアシスト（ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車）は、車輪に取り付けられたセンサーによりタイヤのロックを検出します。タイヤのサイズが4輪とも同じでないと正確に判断できなくなるおそれがあります。P.50の「タイヤについての注意」をよくお読みいただき、正しく取り扱ってください。

※ ＡＢＳは、Antilock Brake System（アンチロック・ブレーキ・システム）の略。

ＡＢＳやブレーキアシストが作動しているとき

運転について

●急ブレーキ時は、ＡＢＳやブレーキアシストが効果を発揮するようにブレーキペダルをできるだけ速く、強く踏み続けることが必要です。
●急ブレーキ時にポンピングブレーキ※をしないでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。
※ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけ方。

思いきり踏む

踏み続ける

ゆるめたり、ポンピングはしない

作動について

ＡＢＳが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
●ＡＢＳの作動音と共にブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルに振動を感じたり、車両停止後もモーター音が聞こえることがあります。
●ＡＢＳの作動が終了すると、ブレーキペダルが少し奥に入ったりすることがあります。

ブレーキアシストが作動すると、次のような現象が発生することがありますが異常ではありません。

ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車

●ブレーキペダルを急速度で踏んだとき、ブレーキが強くかかるようになり、作動音と共にブレーキペダルが小刻みに動くことがあります。

ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車を除く

●ブレーキペダルを急速度で踏んだとき、ブレーキが強くかかるようになり、ＡＢＳが作動することがあります。

ＥＢＤ※1の働き

ＡＢＳの制御技術を応用して、車両の走行状態に応じた適切な制動力を前後輪に配分します。これにより、積載時や減速度による荷重変化に応じ、前後輪の制動力配分を適切に行い、高いブレーキ性能を確保します。さらに、旋回中の制動時にも左右輪の制動力をコントロールして走行安定性を確保します。

警告　ＡＢＳやブレーキアシストを過信しないでください。

●**ＡＢＳやブレーキアシストを過信しないでください。**
ＡＢＳやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
ＡＢＳやブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分にとって安全運転に心がけてください。
・ＡＢＳはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象※2が起こった場合は効果を発揮できません。
※2 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

●**ＡＢＳは制動距離を短くするための装置ではありません。**
次の場合などは、ＡＢＳの付いていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。
・砂利道、新雪路を走行しているとき
・タイヤチェーンを装着しているとき
・道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき
・凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき

●**ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。**

作動条件について

●ＡＢＳ、ブレーキアシスト（ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車）は、車速が約10km/hをこえると作動できるようになります。また、車速が約5km/hまで下がると作動を停止します。
●雨の日に、マンホールのフタ、橋の継ぎ目、工事中の鉄板などの上でブレーキを踏むとすべりやすいため、ＡＢＳが作動しやすくなります。

作動音について

●エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジンルームからモーター音や“カチッ”という音が聞こえることがあります。これは、ＡＢＳの作動をチェックしているときの音で異常ではありません。
●ブレーキペダルを踏んだとき小さな打音が聞こえることがあります。これは、ブレーキアシストの機構が作動しているときの音で異常ではありません。（ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車を除く）

※1 ＥＢＤは、Electronic Brake force Distribution（エレクトロニック・ブレーキフォース・ディストリビューション）の略で「電子制動力配分制御」の意味。

ＶＳＣ※1 ＆ ＴＲＣ※2

ＶＳＣとは

ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車

ＶＳＣは、急激なハンドル操作やすべりやすい路面での旋回時の横すべりなどを抑制するため、自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して、車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

●タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.50の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

ＶＳＣを過信しないでください。ＶＳＣが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、ＶＳＣ作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯（P.202参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

作動条件について

●ＶＳＣは車速が約15km/hをこえると作動できるようになります。

●ＶＳＣ警告灯（P.207参照）が点灯しているときは、ＶＳＣは作動しません。

作動チェックについて

エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジンルームから“カチカチ、トン”という音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

※1 ＶＳＣは、Vehicle Stability Control（ビークル・スタビリティ・コントロール）の略。
※2 ＴＲＣは、Traction Control（トラクション・コントロール）の略。

ＴＲＣとは

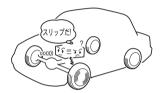
ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車

ＴＲＣの働き

すべりやすい路面での発進時や加速時に、過剰な駆動力により生ずる駆動輪のホイールスピンを抑え、車両の方向安定性と駆動力を確保しようとする装置です。

●車輪がスリップしはじめると、車輪速センサーからの情報でコンピューターがスリップを感知し、エンジンに対して出力を一瞬下げるようにし、また、必要に応じてブレーキをかけます。これにより、過剰な駆動力を抑え、スリップを防止します。

●ＴＲＣが作動すると、スリップ表示灯（P.202参照）が点滅します。このとき、車両の振動を感じることがありますが、これはブレーキ制御によるもので、異常ではありません。

ＴＲＣのしくみ

タイヤのスリップは4輪に取り付けられたセンサーからの信号を比較し、駆動輪のいずれかの信号が他の車輪より多い場合、スリップしているとコンピューターが判断します。それによって、スリップしているタイヤの駆動力を抑えようとブレーキをかけたり、エンジンの出力を一時的に抑えたりして、スリップを抑制させます。

ＴＲＣとタイヤの関係について

ＴＲＣは、車輪に付いているセンサーからの信号を基準に作動させるため、4輪の中で1輪でもタイヤの種類が異なると、信号の出方がかわり、コンピューターがスリップと判断したりします。

●タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.50の「タイヤについての注意」を参照してください。

警告

ＴＲＣを過信しないでください。ＴＲＣが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、スリップ表示灯（P.202参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

知識

作動条件について

通常は“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッションＯＮモードにすると、ＴＲＣが作動可能状態になります。

●ＶＳＣ警告灯（P.207参照）が点灯しているときは、ＴＲＣは作動しません。

作動チェックについて

エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジンルームから“カチカチ、トン”という音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

Super CVT－i

Super CVT－i とは

2WD車

Super CVT－i は、無段変速システムやロックアップシステム、登降坂変速制御システムとの統合制御などにより、なめらかで快適な走行と燃費性能を両立させた電子制御無段変速機です。

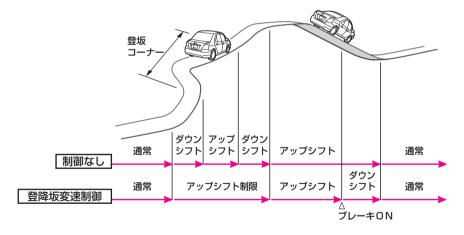
無段変速システムの働き

無段変速システムは、一対のプーリーと金属ベルトによって無段に変速を行います。そのため、変速ショックのないスムーズな走行が可能です。また、エンジンの出力を効率良く引き出すことができるため、優れた低燃費特性を実現しています。

ロックアップシステムの働き

トランスミッションの伝達効率を上げ、燃費性能を高めるシステムです。
ロックアップシステムを有効にご使用いただくためには、シフトレバーがⒹ・ⓈまたはⒷにあれば自動的に作動します。

登降坂変速制御システムの働き

アップダウンのあるワインディング路などをシフトレバーがⒹまたはⓈで走行しているときに、登坂していると判断された場合、アップシフトを制限し、スムーズな走行を実現します。
また、降坂時では降坂していると判断された場合、ブレーキを踏むと自動的にダウンシフトしエンジンブレーキがかかります。

走行中、エンジン警告灯（P.208参照）が点灯したときは、オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

Super ＥＣＴ

Super ＥＣＴとは

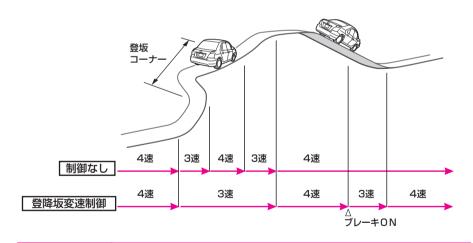
4WD車

Super ＥＣＴは、フレックスロックアップシステムや登降坂変速制御システムなどにより、燃費性能と快適な走行を両立した電子制御オートマチックトランスミッションです。

フレックスロックアップシステムの働き

トランスミッションの伝達効率を上げ、燃費性能を高めるシステムです。
フレックスロックアップシステムを有効にご使用いただくためには、シフトレバーがⒹ・❸にあれば自動的に作動します。

登降坂変速制御システムの働き

アップダウンのあるワインディング路などをシフトレバーがⒹで走行しているときに、登坂していると判断された場合、4速へのシフトアップを制限し、3速によるスムーズな走行を実現します。
また、降坂時では4速で走行しているときに、降坂していると判断された場合、ブレーキを踏むと自動的に3速にシフトダウンしエンジンブレーキがかかります。

注意	走行中、エンジン警告灯（P.208参照）が点灯したときは、オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電子制御スロットル（ＥＴＣＳ－ｉ※）

電子制御スロットルとは

電子制御スロットルは、各運転条件においてアクセル開度に対するエンジン出力を最適にコントロールし、車両の優れた操作性を確保する装置です。
エンジン電子制御システムなどとの統合制御により、様々な運転領域にわたって良好なアクセルコントロール性の確保に貢献しています。

エンジン警告灯（P.208参照）が点灯し、アクセルペダルを踏んでもエンジン回転数の上昇が鈍いときは、電子制御系の異常が考えられます。このときは、低速で走行ができます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
なお、この低速走行中に万一、電子制御系の異常が解消した場合でも、エンジンを停止するまでは、正常状態に復帰することはありません。

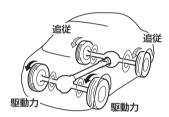
※ＥＴＣＳ－ｉは、Electronic Throttle Control System－intelligent（エレクトロニック・スロットル・コントロール・システム－インテリジェント）の略。

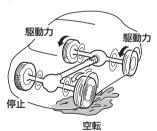
Vフレックスフルタイム4WD

Vフレックスフルタイム4WDとは

4WD車

通常はほぼ2WD（ＦＦ）走行をし、コーナリング時や雪道、登坂時、発進時、加速時など前輪と後輪の回転差が発生すると、ビスカスカップリングの作用により自動的に後輪に駆動力が伝達され、4輪駆動として走行します。
Vフレックスフルタイム4WDは、さまざまな路面に対応した駆動力を自動的に全輪に与え、安定した操縦性に寄与する装置です。
Vフレックスフルタイム4WDの取り扱い上の注意がP.46の「Vフレックスフルタイム4WD車についての注意」に記載されていますので、よくお読みになり、正しい取り扱いを理解して安全運転を心がけるようにしましょう。

通常時（2WD走行）

通常の直線走行など、前・後輪に回転差が微小な場合は、2WD（ＦＦ）に近い状態で走行します。

コーナリング時や雪道（4WD走行）

コーナリング時や雪道など前・後輪間に回転差が発生すると、ビスカスカップリングが作動し、後輪に駆動力が伝達され、4WD状態になります。
通常走行にもどると、2WDになります。

タイヤについて

Vフレックスフルタイム4WDは、タイヤの状態が車の性能に大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.50の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

⚠警告 宙に浮いたタイヤを、むやみに空転させないでください。

●脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。前後左右輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ等）に無理な力が加わりダメージを受けたり、損傷により、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ等）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや損傷などにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
・4輪の空気圧の差が著しいとき
・空気圧が指定値からはずれているとき
●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.336参照）
●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.372参照）

ディスチャージヘッドランプ★

ディスチャージヘッドランプとは

ディスチャージヘッドランプは、バルブ管内のガスと金属ヨウ化物を使って発光させ、通常のランプより白い光と伸び、広がりのある配光を持つランプです。

ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。電球ソケットにふれた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Vの高電圧が発生し、感電して生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

知識

オートレベリング（上下照射方向自動調整）システムについて

- 荷物の積み降ろし時などの車両姿勢の変化に対応して、ヘッドランプの光軸を自動的に調整する装置です。
- エンジンを始動してはじめてヘッドランプを点灯したとき、ヘッドランプの光軸が動くことがありますが、これはシステムの正常な作動をチェックしているときの現象で異常ではありません。
- 衝突などでランプまわりに衝撃があったときは、ヘッドランプ本体下部にあるライトコントロールコンピューターが正常に作動しなくなっているおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ディスチャージヘッドランプのシステム異常時について

システムの異常により点灯状態が次のようになります。

- 点灯中に作動電圧範囲からはずれた場合は消灯し、電圧が正常に復帰次第、再点灯します。
- 点灯操作をするときに作動電圧範囲からはずれている場合は、ランプスイッチを操作しても点灯しません。

ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯について

ヘッドランプオートレベリング（上下照射方向自動調整）システムに異常があると、ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯が点灯します。詳しくは、P.214を参照してください。

6

車との上手な付き合い方

雨の日の運転について

雨の日の運転

すべりやすい路面は慎重に走行してください

雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなるので慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
●雨の日はハイドロプレーニング現象※でハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるのでスピードは控えめにしてください。

※雨天の高速走行などで、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し接地力を失ってしまう現象。

すべりやすい路面では慎重に運転してください。

●すべりやすい路面での急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●シフトアップ、シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

冠水した道路は走行しないでください

大雨などで冠水した道路では、車両に重大な損傷を与えるおそれがあるので走行しないでください。

冠水した道路を走行するとエンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。
万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
●ブレーキの効き具合
●エンジン、トランスミッション、トランスファー（4WD車）、ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますのでオイルの交換が必要です）
●プロペラシャフト（4WD車）、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

寒冷時の取り扱い

冬の前の準備、点検

エンジンオイルを交換する

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。
(P.371の「指定エンジンオイル」参照)

ウォッシャー液の濃度を調整する

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、購入されたウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

冷却水の濃度を調整する

冷却水の凍結を防ぐために冷却水濃度を調整してください。

使用地域	希釈割合	凍結保証温度
温暖地	30%	−12℃
寒冷地	50%	−35℃

アルコール系不凍液や真水だけの使用はしないでください。

バッテリーの液量、比重を点検する

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。
バッテリーの液量、比重を点検し、必要に応じて液の補充や充電をしてください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンを準備する

●積雪路、凍結路では冬用タイヤを装着し、併せてタイヤチェーンをご用意ください。冬用タイヤの装着サイズについては、必ず標準タイヤと同じ指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
●タイヤを取り替えるときは、必ずP.50の「タイヤについての注意」をお読みください。
●タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。
●トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

寒冷地用ワイパーブレードを準備する

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。
●寒冷地用ワイパーブレードを必要としない時季は、通常のワイパーブレードを使用してください。

屋根に積もった雪は

走行時にガラス面に落ちた雪が視界のさまたげになります。
走行する前に取り除いてください。

ガラスに付いた雪や霜は

ガラス内外の雪や霜を落として視界を確保してください。
デフロスターを使うと、ガラスを傷付けずに落とすことができます。

フロントウインドゥガラスに付いた氷を除去するために、たたいて割らないでください。フロントウインドゥガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

ランプ類に付いた雪や霜は

ランプ類に付いた雪や霜を落としてから走行してください。
夜間の走行時などに視界のさまたげとなったり、後続車などへの合図がわかりにくくなるおそれがあります。また、走行中にも安全な場所に停車した上で、ときどき点検してください。

足まわりなどに付いた氷塊は

車体などに傷を付けないように取り除いてください。

外気取り入れ口に積もった雪は

フロントウインドゥガラス前部の外気取り入れ口に積もった雪を取り除いてから、エアコンのファンを作動させてください。
雪が積もったままで作動させると、ファンが故障したり、ガラスが曇ったりするおそれがあります。

ワイパーなどが凍結したときは

ワイパー、ドアミラー、ドアガラスなどが凍って動かない場合は、無理に動かさないでください。スイッチを操作し続けたりすると、装置を傷めたり、バッテリーあがりを起こすおそれがあります。

ドアが凍結したときは

お湯をかけて氷を解かしてください。なお、すぐに水分を十分拭き取ってください。
無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、損傷するおそれがあります。

靴についた雪をよく落とす

ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったり、凍結することがあります。

走行するときは

すべりやすい路面では“急”の付く操作はしない

急発進、急ハンドル、急ブレーキなどは車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。ゆっくり発進し、控えめな速度で、車間距離を十分とって走行してください。
橋の上や日陰など、凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。

警告

シフトアップ、シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

フェンダー裏側に付いた氷は

ハンドル操作に影響しますので、ときどき確認し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキ装置に付いた氷は

ブレーキの効きが悪くなる場合があります。
ときどき軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

すべり止めは早めに

積雪時、凍結路では早めにタイヤチェーンまたは冬用タイヤを装着してください。タイヤを取り替えるときは、必ずP.50の「タイヤについての注意」をお読みください。

警告 **冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。**

- ●指定サイズのタイヤを使用してください。
- ●指定空気圧に調整してください。
- ●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しないでください。

タイヤチェーン

●タイヤチェーンは前２輪に取り付けてください。
●タイヤチェーンの取り扱い方法は、タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従ってください。
●タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。
●トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■タイヤチェーンを取り付ける前に

交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動し、パーキングブレーキをしっかりかけます。以下の手順により準備作業を行います。

1 エンジンを停止します。

シフトレバーをⓅにし、エンジンを停止します。

2 車の存在を知らせます。

必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物を降ろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

3 工具を用意します。

ジャッキ、ジャッキハンドル、スチールホイール装着車はホイールナットレンチを用意します。（P.378の「工具、スペアタイヤ、ジャッキの格納場所」参照）

4 タイヤチェーンを用意します。

5 輪止めを用意します。

タイヤチェーンを取り付ける場合には輪止めが必要です。
●輪止めについてはトヨタ販売店にご相談ください。
●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

6 スチールホイール装着車はホイールキャップをはずします。

（P.386の「タイヤ交換のしかた」参照）

警告　**タイヤチェーン装着時は必ず慎重に運転してください。**

●タイヤチェーン装着時は、約30km/h以下またはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。また、走行性に影響を与えるため必ず慎重に走行してください。
●タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあり危険です。また、ＡＢＳ作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので慎重に運転してください。

タイヤチェーンを取り付けるときは、ディスクホイールやホイールキャップに傷を付けないよう注意してください。

●スチールホイール装着車は、ホイールキャップをはずしてからタイヤチェーンを取り付けてください。ホイールキャップを付けたままタイヤチェーンを取り付けると、ホイールキャップに傷が付くことがあります。
●アルミホイール装着車は、アルミホイールにタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷が付くことがあります。
●トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

駐車するときは

エンジンをかけたままにしない

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パーキングブレーキはかけない

寒冷時はパーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結してパーキングブレーキが解除できなくなるおそれがあります。

■平らな場所に駐車するときは

パーキングブレーキをかけないで、シフトレバーをⓅにし、輪止めをします。

■やむを得ず坂道に駐車するときは

下り坂では前輪の前側、上り坂では後輪のうしろ側に輪止めをして、パーキングブレーキをかけず、シフトレバーをⓅにします。

●輪止めについては、トヨタ販売店にご相談ください。

●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ボンネット側を風下に向ける

風のあたる部分は想像以上に低温となりますので、バッテリー性能低下を防ぐためにも、ボンネット側をできるだけ風下に向けて駐車してください。

ワイパーアームは立てておく

降雪時は、寒さでワイパーがガラスに凍り付いたりします。ワイパーアームは立てて駐車してください。フロントワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側のワイパーアームから立ててください。また、もとにもどすときは、助手席側のワイパーアームからもどしてください。

経済的な運転

環境に配慮した経済的な運転をするために

長時間停車するときはエンジンを停止します。

5分間のアイドリングを止めて、ガソリン約65ccの節約。
▶CO_2 約420g削減（10回／月）

不要な荷物は降ろして走行。

10kgの荷物を降ろして50km走るとガソリン約15ccの節約。
▶CO_2 約130g削減（650km／月）

空ぶかしは禁物。

空ぶかしを1回止めてガソリン約6ccの節約。
▶CO_2 約1150g削減（300回／月）

カーエアコンは少し控えめに。

エアコンを6分停止してガソリン約70ccの節約。
▶CO_2 約1340g削減（3時間／月）

タイヤの空気圧はこまめにチェック。

適正値で50km走ると50kPa｛0.5kg/cm^2｝減のときに比べてガソリン約150ccの節約。
▶CO_2 約1250g削減（650km／月）

発進・加速はスムーズに。

急発進1回止めてガソリン約17cc、急加速1回止めて約11ccの節約。
▶CO_2 約360g削減（各20回／月）

経済速度でロスなし走行。

一般道路で40〜50km/h、高速道路では80km/hがベスト。
100km/hを80km/hにして燃費10〜30%向上。
●法定速度を守り、安全運転を心がけてください。

たとえば加速

加速終了時にはアクセルを少し大きめにもどしてみましょう。
シフトアップやロックアップが確実にでき、効率が良くなります。

たとえば下り坂、減速

早めにアクセルをもどしエンジンブレーキを使いましょう。
ガソリンエンジンでは燃料噴射の停止により燃費が良くなります。

平地走行でも

アクセルペダルから思いきって足を離してみてください。
思ったほどスピードは落ちないものです。燃料噴射の停止を上手に活用しましょう。一定走行ならアクセルの踏み込み、踏みもどしは少ないほど低燃費となります。

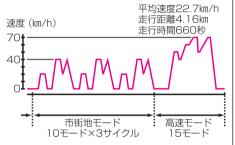
知識

「10・15モード」とは

車両カタログに記載されている「10・15モード」燃費は、一定の条件に従って測定された燃費です。

このモードは都市内走行状態を再現したもので、図1のようにシャシーダイナモメーター上で実際の道路上の走行状態を再現し、エンジン暖機後、図2のようなパターンを走行するものです。

●図1.シャシーダイナモメーター

●図2.「10・15モード」

「10・15モード」は、都市内走行状態を再現したものですが、あくまでも代表的な走行パターンです。そのため、実際の走行とは異なる場合が多く、
たとえば

- ●走行速度の平均が「10・15モード」より低い
- ●停車比率（運転中に車が止まっている割合）が高い
- ●急な加速を行った

など条件の違いにより燃費が悪くなります。

※数値は、2.0Ｌクラスの乗用車（AT車）の燃費11.7km/Ｌ（10・15モード）を基準に計算してあります。（各車両型式の燃費は、車両カタログをご覧ください）
※CO_2排出量は、ガソリン1ＬあたりのCO_2排出係数0.64で計算してあります。

参考資料 ●㈳日本自動車工業会：「あしたへ　ECO-MOTION」
●㈳日本自動車連盟：「ECO　MANUAL　車に関する環境エコ基礎知識集」

環境保護のために

使用済み部品、廃オイル類は適正な処理をする

●バッテリーは鉛や硫酸が使われていますので、特定産業廃棄物として適切な処理が法律で義務付けられています。
バッテリー交換時は、購入した販売店で処分を依頼してください。

●タイヤは個人が燃やすなどすると、亜硫酸ガスなど有毒なガスを発生させます。
購入した販売店に処分を依頼してください。

●エンジンオイルは放置しておくといずれ流れ出し、地下に浸透したり、水に浮き、環境を悪くします。購入した販売店に処分を依頼してください。

●不凍液は冷却水の凍結温度を下げるエチレングリコールが入っています。
川などに流すと水質汚濁の原因になりますので、不凍液の交換はトヨタ販売店にご相談ください。

●エアコン冷媒用フロンガス（特定フロンガスＣＦＣ12）は、大気に放出されるとオゾン層の破壊を進めます。
トヨタではオゾン層を破壊しない代替フロンガス（ＨＦＣ134a）に全車切り替えを完了しています。(93年完)
それでも、代替フロンガス（ＨＦＣ134a）は地球を温暖化する働きがあります。
エアコンの効きが悪い場合、ガスを充填するのみでなく、ガスもれの点検を併せて行い、もれ箇所を修理したうえでガス充填をしてください。

7 メンテナンス

車の手入れ

日頃の手入れ

車をいつまでも美しく保つためには日頃の手入れが必要です。

洗車、ワックス用品について

それぞれの用品に記載されている説明をよく読み、用途や注意事項などを必ずお守りください。

月に一度はワックスがけを行ってください

月に一度、または水のはじきが悪くなったら行ってください。

保管・駐車について

風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。

塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のことをお守りください。

●塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のような場合はただちに洗車してください。
- ・海岸地帯を走行したあと
- ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- ・コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
- ・ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ・ほこり、泥などで激しくよごれたとき
- ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
●ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

外装の手入れ

洗車するときは

十分水をかけながら、よごれを洗い落とし、洗い落としたあとは水を拭き取ります。
●車体、足まわり、下まわりと、上から下の順に行います。
●車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗います。
●よごれのひどいときは、カーシャンプーを使用し、水で十分洗い流してください。
●はん点が残らないように水を拭き取ります。

高圧洗車機を使うときは

●ノズルの先端をドアガラスなどに近付けすぎないでください。近付けすぎると水圧が高いため、車内に水が入るおそれがあります。
●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。近付けすぎると水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

自動洗車機を使うときは

●ドアミラーを格納し、前側から洗車してください。また、走行前にはドアミラーを復帰状態にもどしてください。
●ブラシの傷が付き、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。

アルミホイールの手入れ

●中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。
●光沢を失うおそれがありますので、スチーム洗浄などで熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。

ワックスがけをするときは

洗車後、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安）に行います。

警告　エンジンルーム内に水をかけないでください。

●エンジンルーム内の電気部品に水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品がショートして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●寒冷時に洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置内に水が入ると凍結して、ブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキの固着につながるおそれがあり走行できなくなる場合があります。
●洗車後はブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあり危険です。

注意　洗車をするときは、けがをしないように注意してください。

●下まわり、足まわりを洗うときは、手にけがをしないように注意してください。
●洗車するときは、硬いブラシやたわしなどを使用しないでください。塗装などに傷が付きます。
●フューエルリッド（燃料補給口）を開けた状態で、給油口付近に水をかけないでください。
●ランプのレンズ表面をワックス、ベンジンやガソリンなどの有機溶剤で拭いたり、硬いブラシなどで擦ったりしないでください。破損したり、劣化を早めることがあります。
●目地のある素地部※に塗装用ワックスを使用しないでください。塗装用ワックスが付着すると、目地に入って取れなくなり、白くなることがあります。

※素地部＝塗装されていないドアミラー・ドアハンドルなどの樹脂部分。

内装の手入れ

室内の清掃

カークリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭き取ります。

警告　**車内に水をかけないでください。**

●車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。ＳＲＳサイドエアバッグ装着車は、前席フロアにＳＲＳサイドエアバッグの配線があるため、水がかかるとＳＲＳサイドエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあり危険です。また、オーディオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。
また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が低下し、衝突などのとき十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
●内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドゥガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

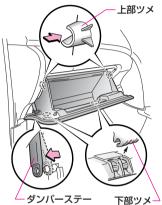
注意　**クリーナーに含まれる成分に注意してください。**

●内装の手入れをするときは、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみの原因になります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますので、良く確認の上、使用してください。
●芳香剤（液体・固体・ゲル状・プレートタイプなど）を、内装品（エアコンやオーディオなど）に直接ふれさせたり、こぼしたりしないよう注意してください。含まれる成分によっては変色やしみ・塗装はがれの原因となるおそれがあります。
●リヤウインドゥガラスの内側を清掃するときは、熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
●リヤウインドゥガラスの内側を掃除するときは、熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。
●ガラスの内側を清掃するときは、コンパウンドが入ったガラスクリーナーなどを使用しないでください。清掃は、水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
●内装の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

エアコンの手入れ

エアコンガス（冷媒）の点検

冷媒が不足していると冷房性能が低下します。夏になる前に点検、補充をしてください。
エアコンガス（冷媒）の点検については、トヨタ販売店にご相談ください。

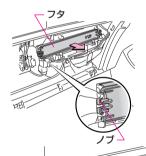
エアフィルターの交換

1 **スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車**

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにします。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ＬＯＣＫ ”にします。

2 **グローブボックスをはずします。**

グローブボックスを開け、ダンパーステーを取りはずしてから、グローブボックス上部のツメをグローブボックスを内側にたわませながら左側から片側ずつはずし、グローブボックスをいっぱいまで開き、下部ツメを引き抜いて取りはずします。

3 **フィルターケースのフタをはずします。**

フタの左側にあるノブをつまみながら手前に引いて取りはずします。

4 **フィルターを取り出します。**

❶フィルターを手前に引き出してから、
❷図の矢印の方向に回転させながらフィルターを取り出します。

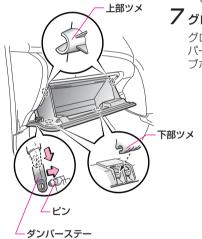
5 新しいフィルターを取り付けます。

❶フィルターを斜めにセットし、
❷図の矢印の方向に回転させ、
❸フィルターを挿入します。
●フィルターの「⇧ＵＰ」のマークの矢印が上になるようにして確実に取り付けます。

6 フィルターケースのフタを取り付けます。

フィルターケースの切り欠きにフタのノブをあわせて取り付けます。
●フタの「⇧ＵＰ」のマークの矢印が上になるようにして確実に取り付けます。

7 グローブボックスを取り付けます。

グローブボックス下部のツメを取り付けてから、ダンパーステーを図のように伸ばしピンに挿し込み、グローブボックス上部のツメをはめ込みます。

⚠注意 **エアフィルターを交換するときは、次のことをお守りください。**

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

エアフィルターの交換は、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにしてから行ってください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エアフィルターの交換は、エンジン スイッチを “ ＬＯＣＫ ” にしてから行ってください。

エアコンの風量が著しく減少したときは、エアフィルターの目詰まりが考えられます。

●エアコンの風量が著しく減少したときは、エアフィルターの目詰まりが考えられます。エアフィルターを交換してください。
●エアフィルターは交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。
●エアフィルターの裏と表を間違えないように、エアフィルターをフィルターケースに確実に取り付けてください。
●必ずエアフィルターを装着した状態でエアコンを使用してください。エアフィルターを装着せずにエアコンを使用すると故障の原因となることがあります。

エアフィルターの交換について

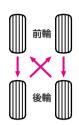
●エアコンにはエアフィルターが取り付けられています。快適にお使いいただくため定期的な交換をおすすめします。
●エアフィルターの交換は工具なしで行うことができます。
●エアフィルターについてはトヨタ販売店にご相談ください。

交換の目安

エアフィルター（微細塵フィルター）……… 20,000km【10,000km】ごと

【　】は、多じん地区（大都市・寒冷地など、交通量・粉じんの多い地区）の場合。

タイヤの点検

タイヤローテーション（タイヤ位置交換）

タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすために、5,000kmごとにタイヤローテーションを行います。

●搭載されているジャッキを使用してタイヤ位置交換を行うときは、スペアタイヤを使用して1輪ずつ交換してください。

タイヤローテーションを行ったあとは、指定空気圧に調整してください。指定空気圧より低いと車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

●日常点検として必ずタイヤの点検を行ってください。
（P.50の「タイヤについての注意」参照）

●タイヤ・ディスクホイール・ディスクホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。（P.59の「その他の注意」参照）

キーのバッテリー交換

電子キーのバッテリー交換

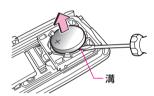
スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

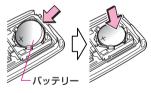
1 メカニカルキーを取り出します。

ノブのキーマークのある側を押しながら、メカニカルキーを引き出します。

2 キーカバーをはずします。

市販のマイナスドライバーの先端を、電子キーの切り欠きに挿し込み、ひねりながらカバーをはずします。

●傷付き防止のためドライバーの先端にビニールテープなどを巻いてください。

3 バッテリーを取り出します。

市販の精密ドライバーなどを溝に挿入し、バッテリーを取り出します。

4 新しいバッテリーを取り付けます。

バッテリーを斜めに挿入し、上から押さえ付け、確実に取り付けます。

●バッテリーの⊕側を上にして取り付けます。

5 キーカバーを取り付けます。

6 メカニカルキーを取り付けます。

7 作動確認をします。

いずれかのスイッチを押したとき、本体のＬＥＤが点灯することを確認します。

バッテリーおよび取りはずした部品は、とくにお子さまが飲み込まないようにご注意ください。飲み込むと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

バッテリーおよび取りはずした部品の取り扱いにはご注意ください。

●バッテリー交換時には、取りはずした部品などを紛失しないようにご注意ください。
●バッテリー以外の部品にふれたり、動かしたりしないでください。
●バッテリーの⊕極と⊖極は、必ず正しい向きにして取り付けてください。
●バッテリー挿入部の電極を曲げたり、ゴミや油などが付着しないように注意してください。

 知 識

バッテリーについて

使用バッテリー……リチウムバッテリーＣＲ1632
バッテリーはトヨタ販売店・時計店・カメラ店などでお求めください。

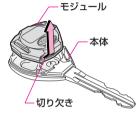
バッテリー交換について

バッテリー交換は、お客様ご自身で交換することができますが、交換の際に破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

ワイヤレスドアロックリモコンキーのバッテリー交換★

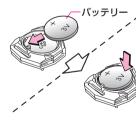
1 キーカバーをはずします。

市販のマイナスドライバーなどを切り欠きに挿し込み、矢印のようにひねりながらカバーを開けます。

●傷付き防止のため、ドライバーの先端にビニールテープなどを巻いてください。

2 モジュールを取り出します。

切り欠きにツメなどをかけて、モジュールを本体から取り出します。

3 バッテリーカバーをはずします。

モジュールのバッテリーカバーを取りはずします。

4 バッテリーを交換します。

古いバッテリーを取り出し、新しいバッテリーの⊕側を上にして挿入します。

5 バッテリーカバーを確実に取り付けます。

6 モジュールおよびキーカバーを取り付けます。

モジュールを本体の中にもどし、キーカバーを取り付けます。

7 作動確認をします。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

バッテリーおよび取りはずした部品は、とくにお子さまが飲み込まないようにご注意ください。飲み込むと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

バッテリーおよび取りはずした部品の取り扱いにはご注意ください。

●バッテリー交換時には、取りはずした部品を紛失しないようにご注意ください。
●バッテリーカバーを曲げたりしないように注意してください。
●バッテリー以外の部品にふれたり、動かしたりしないでください。
●バッテリーの⊕極と⊖極は、必ず正しい向きにして取り付けてください。
●バッテリー挿入部の電極を曲げたり、モジュール内部にゴミや油などが付着しないように注意してください。

バッテリーについて

使用バッテリー……リチウムバッテリーＣＲ2016
バッテリーはトヨタ販売店・時計店・カメラ店などでお求めください。

バッテリー交換について

バッテリー交換は、お客様ご自身で交換することができますが、交換の際に破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れやランプ自体の球切れが考えられます。
次の手順でヒューズの点検・交換を行ってください。

ヒューズの点検・交換のしかた

1 **スマートエントリー & スタートシステム装着車**

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをＯＦＦにします。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ＬＯＣＫ ” にします。

2 **ヒューズボックスを開けます。**

ヒューズラベルが、フタまたはカバーに表示されています。

3 **ヒューズの点検をします。**

故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズラベルで確認し、ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないかを点検します。
●ヒューズは車の仕様によりないものもあります。

切れた状態

切れていない状態

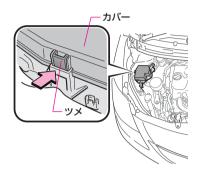
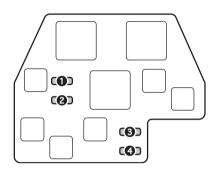
4 **ヒューズを交換します。**

ヒューズが切れていたら、ヒューズラベルの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。
●ランプ類が点灯しないときは、電球切れも考えられます。
●以下の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。
・取り替えても再びヒューズが切れるとき
・取り替えても電気系統の装置が働かないとき

規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

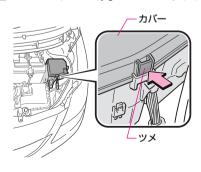
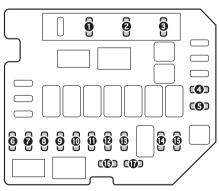
ヒューズボックスの開け方

■エンジンルーム内ヒューズボックス（運転席側）

ＶＳＣ ＆ ＴＲＣ装着車、ディスチャージヘッドランプ装着車

ツメを押しながらカバーを取りはずします。
（上図は2ＮＺ－ＦＥエンジン搭載車で示しています）

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	ＡＴＦ ＰＭＰ	10A	電動オイルポンプ
❷	ＨＴＲ Ｗ/Ｐ	10A	ヒーターウォーターポンプ
❸	H-ＬＰ ＨＩ ＲＨ	10A	ヘッドランプ（右）
❹	H-ＬＰ ＨＩ ＬＨ	10A	ヘッドランプ（左）

＊車の仕様により設定のないヒューズもあります。

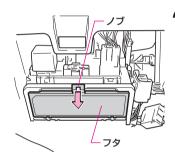
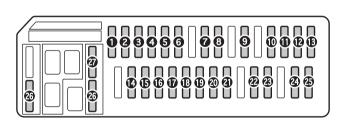
■エンジンルーム内ヒューズボックス（助手席側）

ツメを押しながらカバーを取りはずします。
（上図は2ＮＺ－ＦＥエンジン搭載車で示しています）

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	AM2 ※1	15A	インジェクター、IGコイル
	IG2 ※2	15A	インジェクター、IGコイル
❷	HORN	10A	ホーン
❸	EFI	20A	EFIコンピューター
❹	FR DEF	20A	フロントワイパーデアイサー
❺	ABS2/VSC2	30A	ABS/VSC
❻	H-LP MAIN	30A	HID
❼	ST ※1	30A	スターター
	AM2 ※2	30A	スターター
❽	S-LOCK	20A	電子制御ステアリングロック
❾	DOME	15A	ルームランプ、オーディオ
❿	ECU-B	7.5A	電子キー、VSC、メーター
⓫	ALT-S	7.5A	オルタネーター
⓬	ETCS	10A	電子制御スロットル
⓭	HAZ	10A	非常点滅灯
⓮	H-LP RH/H-LP LO RH ※3	10A	ヘッドランプ（右）/ヘッドランプ　ロービーム（右）
	H-LP LO RH ※4	15A	ヘッドランプ　ロービーム（右）
⓯	H-LP LH/H-LP LO LH ※3	10A	ヘッドランプ（左）/ヘッドランプ　ロービーム（左）
	H-LP LO LH ※4	15A	ヘッドランプ　ロービーム（左）
⓰	EFI 2	10A	EFIコンピューター
⓱	IG2 NO.2	7.5A	IGコイル

※1 1KR－FEエンジン搭載車を除く
※2 1KR－FEエンジン搭載車
※3 ハロゲンヘッドランプ装着車
※4 ディスチャージヘッドランプ装着車
＊車の仕様により設定のないヒューズもあります。

■室内ヒューズボックス

助手席側インストルメントパネル下にあります。

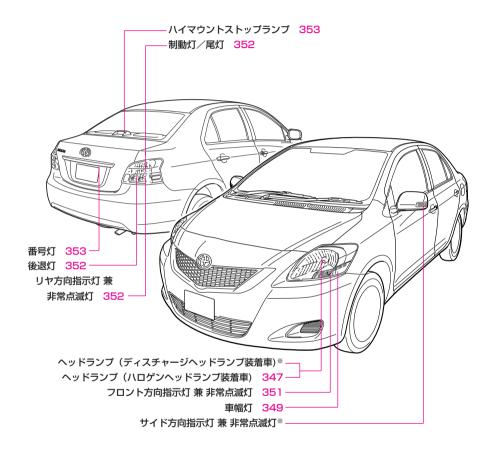
1 カバー装着車は、ツメを押しながらカバーをはずします。

2 ノブを引いてフタを開けます。

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	PANEL2	7.5A	スイッチ照明、エアコン照明
❷	PANEL1	7.5A	スイッチ照明、エアコン照明
❸	A/C	7.5A	エアコン
❹	D DOOR	20A	運転席ドアECU
❺	RL DOOR	20A	左後席パワーウインドゥ
❻	RR DOOR	20A	右後席パワーウインドゥ
❼	CIG	15A	―
❽	ACC	7.5A	電動ミラー、ETC、オーディオ
❾	ID/UP/MIR HTR	10A	EFIコンピューター
❿	AM1 NO2	7.5A	―
⓫	RR FOG	7.5A	リヤフォグランプ
⓬	IGN	7.5A	EFIコンピューター
⓭	MET	7.5A	メーター
⓮	D S-HTR	15A	シートヒーター
⓯	WIP	20A	ワイパー
⓰	RR WIP	15A	リヤワイパー
⓱	WSH	15A	ウォッシャー
⓲	ECU-IG	10A	ABS、VSC & TRC、電動パワーステアリング、電子キー
⓳	GAUGE	10A	メーター、フラッシャーリレー、レベリングECU
⓴	OBD2	7.5A	ダイアグノーシスコネクター
㉑	STOP	10A	制動灯
㉒	D/L	25A	ドアロック
㉓	FR FOG	15A	フロントフォグランプ
㉔	TAIL	10A	尾灯、番号灯、車幅灯
㉕	AM1	25A	“エンジン スタート ストップ”スイッチ(スマートエントリー & スタートシステム装着車)、エンジン スイッチ(スマートエントリー & スタートシステム非装着車)
㉖	ACC2	7.5A	シフトロック
㉗	WIP	7.5A	パワマネECU

＊車の仕様により設定のないヒューズもあります。

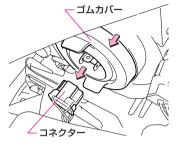
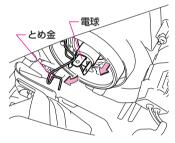
外装の電球（バルブ）交換

この車の外装には、下図で示した電球（バルブ）があります。

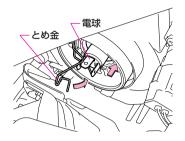
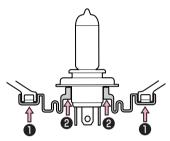
●ページ数が記載してある電球の交換については、該当ページをお読みください。

●※印が記載してある電球の交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

ヘッドランプ（ハイビーム／ロービーム）

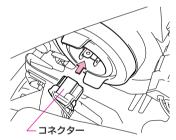
ハロゲンヘッドランプ装着車

■取りはずし方

1 ボンネットを開け（P.142参照）、コネクターとゴムカバーを取りはずします。

2 とめ金をはずし、電球を取りはずします。

※ 図は助手席側で説明しています。

■取り付け方

1 電球を取り付け、とめ金をかけます。

2 ゴムカバーをはめ込みます。

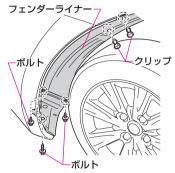
❶ゴムカバー外周をしっかりとはめ込みます。

❷ゴムカバー内周（電球まわり）を全周にわたり電球の金具部分が確認できるまで押し込みます。

3 コネクターを挿し込みます。

※ 図は助手席側で説明しています。

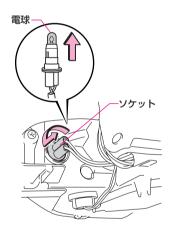
ゴムカバーの内溝が、最後まではめ込まれていることを確認してください。ゴムカバーがしっかりはめ込まれていないと、ヘッドランプへの水入りの原因となります。

車幅灯

■取りはずし方

1 クリップ（2本）とボルト（3本）をはずし、フェンダーライナーをずらします。

クリップとボルトをはずし、フェンダーライナーとバンパーのあいだから手が入れられるように、フェンダーライナーを車両後方へずらします。

●助手席側のランプを交換するときは、ハンドルを右いっぱいに、運転席側のランプを交換するときは、ハンドルを左いっぱいにまわしておきます。

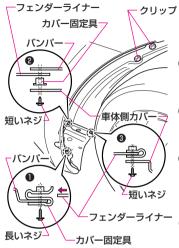
●クリップは中心部を引き出してロックをはずし、引き抜きます。

2 ソケットを矢印の方向にまわして取りはずします。

3 電球を取りはずします。

電球を引き抜いて取りはずします。

※ 図は助手席側で説明しています。

■取り付け方

取りはずしたときの逆の手順で取り付けます。

フェンダーライナーについては、次の手順で取り付けます。

❶フェンダーライナーを、バンパーに付いているカバー固定具に挿し込んで、長いネジで固定します。

❷フェンダーライナーを、車体側カバーとバンパーのあいだに挿し込んで、カバー固定具と短いネジで固定します。

❸フェンダーライナーを、車体側カバーの上にして、短いネジで固定します。

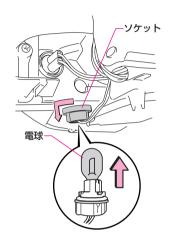
クリップ（2本）をフェンダーライナーに取り付けます。

●フェンダーライナーが、確実に固定されていることを確認してください。

※ 図は助手席側で説明しています。

フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯

■取りはずし方

1 クリップ（2本）とボルト（3本）をはずし、フェンダーライナーをずらします。（P.349参照）

2 **ソケットを取りはずします。**
ソケットを矢印の方向にまわして取りはずします。

3 **電球を取りはずします。**
電球を引き抜いて取りはずします。

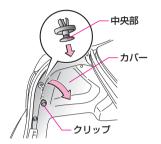
■取り付け方

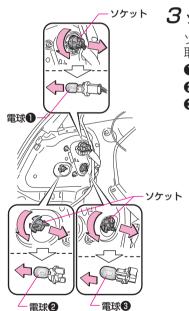
取りはずしたときの逆の手順で取り付けます。
●フェンダーライナーを取り付けます。（前ページ参照）

※ 図は助手席側で説明しています。

制動灯／尾灯、後退灯、リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯

■取りはずし方

1 トランクを開けます。(P.94、130参照)

2 **トランク内側のカバーを固定しているクリップを取りはずし、カバーをめくります。**

クリップは中央部を引いてから取りはずします。

3 **ソケットと電球を取りはずします。**

ソケットをまわして取り出し、電球を引き抜いて取りはずします。

❶制動灯／尾灯
❷後退灯
❸リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯

■取り付け方

取りはずしたときの逆の手順で取り付けます。

※ 図は助手席側で説明しています。

番号灯

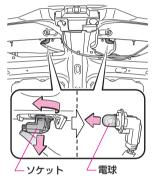
■取りはずし方

1 トランクを開けます。(P.94、130参照)

2 **トランクリッドカバー装着車はトランクリッド裏側のカバーを固定しているクリップを引き抜き、カバーをめくります。**

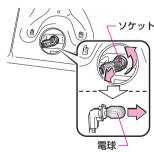
クリップは左図のように4か所のみ取りはずせば、すべて取りはずす必要はありません。

3 **ソケットと電球を取りはずします。**

ソケットをまわして取り出し、電球を引き抜いて取りはずします。

■取り付け方

取りはずしたときの逆の手順で取り付けます。

ハイマウントストップランプ

■取りはずし方

1 トランクを開けます。(P.94、130参照)

作業はトランク内側より行います。

2 **ソケットと電球を取りはずします。**

ソケットをまわして取り出し、電球を引き抜いて取りはずします。

■取り付け方

取りはずしたときの逆の手順で取り付けます。

電球の交換をするときは必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと重大な傷害や、やけどにつながるおそれがあります。

●ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。電球ソケットにふれた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Vの高電圧が発生し、感電して生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。（ディスチャージヘッドランプ装着車）
●電球を交換するときは各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあり危険です。

注意

電球の取り扱いには注意してください。

●ハロゲン電球はガラス内部の圧力が高いため、落としたり物をぶつけたり、傷を付けたりすると破損してガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。また、素手でふれずにきれいな手袋を着用してください。
●必ず同じワット数の電球を使用してください。（P.368参照）
●電球および電球固定具の取り付けは確実に行ってください。取り付けが不完全な場合、水入りなどによる故障およびレンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
●電球の交換をするときは、工具や電球、電球固定具、ソケットなどを紛失しないように注意して作業してください。

ランプの曇りについて

ヘッドランプ・制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球の交換について

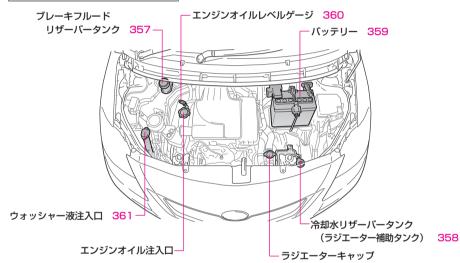
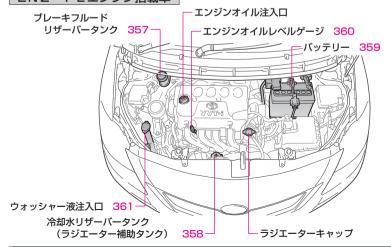
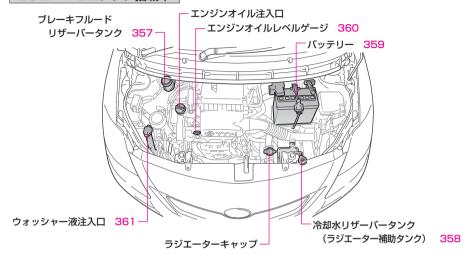
電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

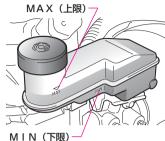
日常点検

日常点検について

日常点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。日常点検は、簡単に点検できる項目になっていますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。
ここでは、点検内容を簡単に説明します。
点検方法および実施時の注意事項は、「メンテナンスノート」をお読みください。

エンジンルームの点検

1KR－FEエンジン搭載車

2NZ－FEエンジン搭載車

２ＳＺ－ＦＥエンジン搭載車

点検や交換したあとは、工具や布などをエンジンルームに置き忘れていないことを確認してください。万一、置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

ブレーキの液量

ブレーキフルードの量がリザーバータンクのＭＡＸ（上限）とＭＩＮ（下限）のあいだにあるかを点検します。

警告

ブレーキフルードが不足しているとブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知 識

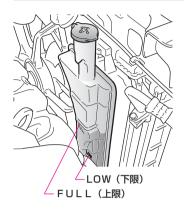
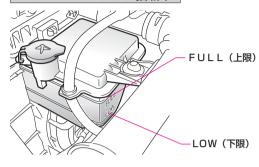
ブレーキフルードを交換するときは

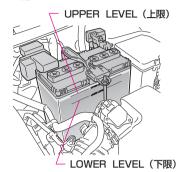
カバーをはずして行います。

●取りはずすときは、ツメを押しながらカバーを持ち上げます。

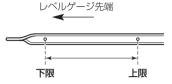
●取り付けるときは、カバーのツメを切り欠きにあわせて取り付け、パッキンをはめ込みます。

冷却水の量

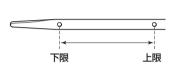
２ＮＺ－ＦＥエンジン搭載車

１ＫＲ－ＦＥエンジン搭載車
２ＳＺ－ＦＥエンジン搭載車

冷却水の量が、リザーバータンクのＦＵＬＬ（上限）とＬＯＷ（下限）のあいだにあるかを点検します。

	冷却水の量が不足していると、ラジエーターの腐食やオーバーヒートによるエンジン破損のおそれがあるため、定期的に点検してください。 また、水のみで使用していると寒冷時に凍結し、ラジエーターなどに損傷を与えるため、必ず冷却水を適切な濃度でご使用ください。

バッテリーの液量

バッテリー液面が各液槽ともバッテリーのUPPER LEVEL（上限）と LOWER LEVEL（下限）のあいだにあるかを車両をゆするなどして点検します。

バッテリー液が不足すると、バッテリーあがりやバッテリー自体の損傷につながるおそれがあるため、定期的に点検してください。

エンジンオイルの量

エンジンオイルの量がオイルレベルゲージの上限と下限のあいだにあるかを点検します。

●レベルゲージの形状はエンジンにより異なります。

エンジンオイルを点検・交換するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと重大な傷害ややけどにつながるおそれがあります。

●エンジンを停止してください。
エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分にふれたり付近にいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジンオイルの温度が低いときに、点検・交換してください。

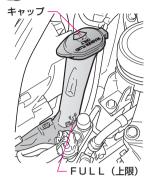
●エンジンが停止していても冷却水温が高いときは、エンジンオイルも高温になっており、やけどをするおそれがあり危険です。

エンジンオイルは定期的に点検・交換してください。

●定期的な点検を怠ると、オイル不足や劣化により回転部分が潤滑不良になり、焼き付きなどを起こしてエンジンに損傷を与えるため、定期的に点検・交換をしてください。
・エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをする働きがあります。通常の運転をしていても、ピストンおよび吸・排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるため、オイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。

●オイルを補給するときは、入れすぎないように注意してください。

●エンジンオイルを点検するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように布などをあてて点検してください。
万一、オイルが付着したときは、完全に拭き取ってください。

ウインドゥウォッシャーの液量

ウォッシャータンク側面から、液面を確認します。ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

■ウォッシャー液を補給するには

1 キャップを開けます。

ウォッシャー液注入口のキャップを開けます。

2 ウォッシャー液を補給します。

補給が終わったら、ウォッシャー液注入口のキャップを確実に閉めてください。

警告

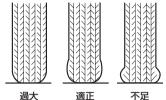
エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみになるおそれがあります。

車のまわりの点検

タイヤの点検については、P.50の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

タイヤの空気圧

タイヤが冷えている（走行前）状態でタイヤの接地部のたわみ状態（つぶれ具合）をみて、空気圧が適正であるかを点検します。

- 月に1回程度は空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
- 空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

警告　日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

指定空気圧より低いと車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

※高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

指定空気圧について

指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはメンテナンスデータ（P.372参照）でご確認ください。

- スペアタイヤも点検してください。
- 指定空気圧でのたわみ状態を確認しておくと、タイヤを目視点検するときに参考になります。
- 指定空気圧の調整はタイヤが冷えているときに行ってください。

タイヤの亀裂、損傷

タイヤの側面や接地部全周に著しい傷や亀裂がないかを点検します。
また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検します。

 警告

タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルがとられたり、異常な振動を感じることがあります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。

●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

タイヤの溝の深さ、異常摩耗

〈例：スリップサインが出ていない状態〉※1

〈例：スリップサインが出ている状態〉※1

タイヤ接地面に表示されているスリップサイン（摩耗限度表示）が現われていないかを点検します。
また、極端な片べりなどの偏摩耗がないかを点検します。

※1 例のイラストは説明のためであり、実際とは異なります。

 警告

摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤや、スリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※2により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※2 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面のあいだに水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

灯火装置、方向指示器のよごれ、損傷

各ランプのレンズに、よごれや破損、ヒビ割れなどがないかを点検します。

知 識

ランプの曇りについて

ヘッドランプ・制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同じ現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

運転席に座っての点検

パーキングブレーキレバーの引きしろ

レバーを止まるまでゆっくりと引き、カチカチ音が基準値の範囲（P.367参照）で止まるかを点検します。

エンジンのかかり具合

エンジン始動の際、異音がないか、かかり具合いは良いかを点検します。
また、アイドリング状態および少し回転を上げた状態で、異音がないかを点検します。

ブレーキペダルの踏みしろ

エンジンを始動し、ブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、床板とのすき間（P.367参照）を点検します。併せてペダルの感触に異常がないかを点検します。

ウインドゥウォッシャーの噴射状態

エンジンを始動し、ウインドゥウォッシャーを作動させ、噴射の向きおよび高さがワイパーの作動範囲のほぼ中央にあたるかを点検します。

ワイパーの払拭状態

エンジンを始動し、ウインドゥウォッシャーでガラスをぬらした状態にして、ワイパーを作動させ、「間欠作動」「低速作動」「高速作動」「一時作動」の各作動が良いか、拭き取り状態が良いか点検します。

洗車するときやワイパーゴムを交換するときなど、ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側のワイパーアームから立ててください。
また、もとにもどすときは、助手席側のワイパーアームからもどしてください。

灯火装置、方向指示器の作動

エンジンを始動し、各灯火装置、方向指示器を作動させ、ランプが点灯または点滅するか、明るさが不足していないかを点検します。

走行しての点検

ブレーキの効き具合

通常走行時にブレーキをかけたとき、効きが十分か、片効きしないかを点検します。

走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。トヨタ販売店で点検を受けてください。警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキのパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

エンジンの低速および加速の状態

通常走行で停車したとき、エンジン回転にむらがあったり、停止したりしないかを点検します。
また、アクセルペダルを踏み込んだとき、なめらかに加速するかを点検します。

前日までの異常箇所の点検

前日までの使用時に異常があった箇所について、運行に支障がないかを点検します。

メンテナンスデータ

点検基準値

<table>
<tr><th colspan="2">項　目</th><th colspan="3">メンテナンスデータ</th></tr>
<tr><td rowspan="3">ブレーキペダル</td><td>遊び［mm］
（負圧なしの状態）</td><td colspan="3">1〜6</td></tr>
<tr><td rowspan="2">踏み込んだときの床板との
すき間［mm］
〔踏力 300N｛30kgf｝〕
（エンジンONの状態）</td><td colspan="2">リヤドラムブレーキ車</td><td>80以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">リヤディスクブレーキ車</td><td>85以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">パーキング
ブレーキレバー</td><td rowspan="3">引きしろ［ノッチ※］
〔操作力 200N｛20kgf｝〕</td><td rowspan="2">2WD車</td><td>リヤドラムブレーキ車</td><td>6〜9</td></tr>
<tr><td>リヤディスクブレーキ車</td><td>4〜7</td></tr>
<tr><td>4WD車</td><td colspan="2">5〜8</td></tr>
<tr><td rowspan="3">Vリブドベルト</td><td rowspan="3">たわみ量［mm］
〔押力 100N｛10kgf｝〕
（冷間時）</td><td>1KR−FE</td><td colspan="2">8〜11</td></tr>
<tr><td>2SZ−FE</td><td colspan="2">6.5〜7.5</td></tr>
<tr><td>2NZ−FE</td><td colspan="2">12.5〜13.5</td></tr>
</table>

※ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

電球（バルブ）のワット数

項　目		メンテナンスデータ
電球（バルブ）	ワット数	ヘッドランプ **ハロゲンヘッドランプ装着車** …………… 60／55W（バルブタイプ：H4） **ディスチャージヘッドランプ装着車** …………… 35W（バルブタイプ：D4R） 車幅灯 …… 5W フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯（アンバーバルブ）※1 …… 21W サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯 …… ＬＥＤ※2 リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯（アンバーバルブ）※1 …… 21W 後退灯 …… 16W 制動灯／尾灯 …… 21W／5W 番号灯 …… 5W ハイマウントストップランプ …… 16W フロントパーソナルランプ …… 8W ルームランプ …… 8W トランク灯 …… 3.8W

※1 アンバーバルブはオレンジ色の電球です。
※2 ＬＥＤは、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光素子です。

油脂類の容量と銘柄

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。
トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

項　目		容量［L］（参考値）	銘 柄
冷却水	1ＫＲ－ＦＥ	4.8	トヨタ純正スーパー ロングライフクーラント 凍結保証温度 ［濃度30%　－12℃ 濃度50%　－35℃］
	2ＳＺ－ＦＥ	5.4	
	2ＮＺ－ＦＥ	4.8	
オートマチックトランスアクスルフルード	2WD車	6.3	トヨタ純正 ＣＶＴフルードＴＣ
	4WD車	5.6	トヨタ純正 オートフルードタイプＴ－Ⅳ
トランスファーオイル（4WD車）		0.45	トヨタ純正 ハイポイドギヤオイルＳＸ（API GL-5,SAE 85W-90）
リヤディファレンシャルオイル（4WD車）		0.5	
ブレーキフルード		――	トヨタ純正 ブレーキフルード2500H

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">項　目</th><th colspan="2">容量［L］（参考値）</th><th rowspan="2">銘 柄</th></tr>
<tr><th>オイルのみ交換時充填量</th><th>オイルとオイルフィルター交換時充填量</th></tr>
<tr><td rowspan="3">エンジンオイル</td><td>１ＫＲ－ＦＥ</td><td>2.9</td><td>3.1</td><td rowspan="3">トヨタ純正 モーターオイルSM 0W-20※
（API SM,EC/ILSAC GF-4,SAE 0W-20）
トヨタ純正 モーターオイルSM 5W-30
（API SM,EC/ILSAC GF-4,SAE 5W-30）
トヨタ純正 モーターオイルSM 10W-30
（API SM,EC/ILSAC GF-4,SAE 10W-30）
トヨタ純正 モーターオイルSL 5W-20
（API SL,EC SAE 5W-20）
トヨタ純正 モーターオイルSL 10W-30
（API SL,EC SAE 10W-30）</td></tr>
<tr><td>２ＳＺ－ＦＥ</td><td>2.9</td><td>3.2</td></tr>
<tr><td>２ＮＺ－ＦＥ</td><td>3.4</td><td>3.7</td></tr>
</table>

※0W-20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

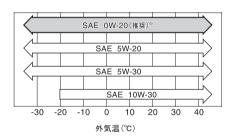
目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

■指定エンジンオイル

ＡＰＩ規格ＳＭ／ＥＣ、ＳＬ／ＥＣか、ＩＬＳＡＣ規格合格油をおすすめします。
なお、ＩＬＳＡＣ規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION（イルサック サーティフィケーション）マークが付いています。

APIマーク

ILSAC CERTIFICATION マーク

・下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※0W-20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

Super ＣＶＴ－ｉ装着車のオートマチックトランスアクスルフルードは、必ずトヨタ純正ＣＶＴフルードＴＣを使用してください。他のフルードを使用したり、混合して使用すると、故障の原因となります。

ウォッシャータンク容量

項　目		メンテナンスデータ	
ウォッシャータンク	容量［Ｌ］（参考値）	寒冷地仕様車を除く	1.8
		寒冷地仕様車	2.3

燃料の量と種類

項　目		メンテナンスデータ	
燃料（フューエルタンク）	容量［Ｌ］（参考値）	無鉛レギュラーガソリン	42

タイヤ・ホイール仕様

タイヤサイズ ＼ 項目		ホイールサイズ リムサイズ スチールホイール	 アルミホイール	 P.C.D.	 オフセット量
標準タイヤ	165／70R14 81S	14×5J		100mm×4（穴）	39mm
	185／60R15 84H	15×5 1/2J	15×5 1/2J		45mm
応急用スペアタイヤ	T125／70D15 95M	15×4T			45mm
	T125／70D16 96M	16×4T			39mm

タイヤサイズ ＼ 項目			タイヤが冷えているときの空気圧 [kPa {kg/cm²}] 前・後輪
標準タイヤ	FF車	165／70R14 81S	230 {2.3}
		185／60R15 84H	220 {2.2}
	4WD車	165／70R14 81S	220 {2.2}
		185／60R15 84H	220 {2.2}
応急用スペアタイヤ	T125／70D15 95M		420 {4.2}
	T125／70D16 96M		

装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着しないでください。装着されているタイヤサイズごとに、ホイールオフセット、ステアリングギアの設定が異なっているため、装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着すると、車の性能（車両の走行安定性など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。そのため、例えば165／70R14 81Sタイヤが装着されている車両には、メーカーオプションで設定されている、185／60R15 84Hタイヤを装着することはできません。同様に185／60R15 84Hタイヤが装着されている車両には、165／70R14 81Sタイヤを装着することはできません。

車両仕様

<table>
<tr><th>名　称</th><th>型　式</th><th>エンジン</th><th>駆動方式</th><th>グレード</th></tr>
<tr><td rowspan="5">ベルタ</td><td>KSP92</td><td>1KR−FE
（1.0Lガソリン）</td><td rowspan="3">2WD
（前輪駆動）</td><td>X</td></tr>
<tr><td rowspan="2">SCP92</td><td rowspan="2">2SZ−FE
（1.3Lガソリン）</td><td>X</td></tr>
<tr><td>G</td></tr>
<tr><td rowspan="2">NCP96</td><td rowspan="2">2NZ−FE
（1.3Lガソリン）</td><td rowspan="2">4WD
（4輪駆動）</td><td>X</td></tr>
<tr><td>G</td></tr>
</table>

ユーザーカスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ一覧

以下の機能を変更することができます。詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

項目	機能の内容	設定（太字が初期設定）
スマートエントリー ＆ スタートシステム（P.86参照）	スマートエントリー ＆ スタートシステムによる施錠・解錠作動	**あり**／なし
ワイヤレスドアロック機能（P.133参照）	ワイヤレスドアロックによる施錠・解錠作動	**あり**／なし
	トランク開作動	
スマートエントリー ＆ スタートシステム／ワイヤレスドアロック共通機能（P.90、92、110、134参照）	施錠・解錠したときの非常点滅灯の点滅	**あり**／なし
	作動完了時のブザー	**あり**／なし
	半ドア警告ブザー	**あり**／なし
	解錠後にドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	**約30秒**／約60秒
イルミネーテッドエントリーシステム（P.93参照）	消灯までのタイマー時間	**約15秒**／約7.5秒／約30秒
	“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにしたときのルームランプ点灯作動	**あり**／なし
	“エンジン スタート ストップ”スイッチがＯＦＦのとき、フロントドアの解錠によるルームランプ点灯作動	**あり**／なし

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

項目	機能の内容	設定（太字が初期設定）
ワイヤレス ドアロック機能 ★ （P.133、134参照）	ワイヤレスドアロックによる施錠・解錠作動	**あり**／なし
	施錠・解錠したときの非常点滅灯の点滅	
	解錠後にドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	**約30秒**／約60秒
イルミネーテッド エントリーシステム （P.128参照）	消灯までのタイマー時間	**約15秒**／約7.5秒／約30秒
	エンジン スイッチを“ＬＯＣＫ”にしたときの点灯作動	**あり**／なし
	エンジン スイッチが“ＬＯＣＫ”のとき、運転席ドアの解錠による点灯作動	**あり**／なし

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

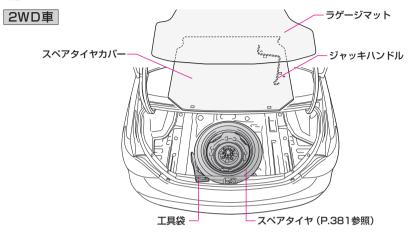
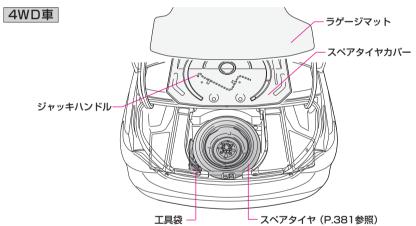
万一のとき

工具、スペアタイヤ、発炎筒

工具、スペアタイヤ、ジャッキの格納場所

工具、スペアタイヤの格納場所

2WD車

4WD車

工具、スペアタイヤは、トランクに格納されています。
工具の種類、発炎筒の使い方などは、万一のとき困らないようにあらかじめ確認してください。

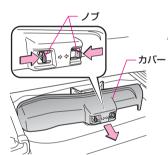
■工具袋

工具袋にはホイールナットレンチとけん引フックが入っています。

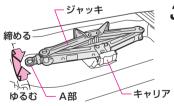
ホイールナットレンチ　　けん引フック

ジャッキの格納場所

助手席シート下にあります。

■取り出し方

1 助手席の前後位置をいちばん前にします。(P.146参照)

2 カバーを取りはずします。

ノブを内側につまみ、手前に引いて、カバーを取りはずします。

3 ジャッキを取り出します。

ジャッキのA部をゆるめ、ジャッキを取り出します。

■格納のしかた

格納するときは、ジャッキがキャリアに固定されるようにA部を締め、確実に固定します。
ジャッキ固定後、カバーを確実に取り付けます。

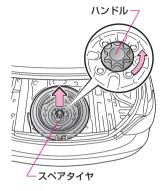
工具やジャッキを使用したあとは、指定の場所に確実に格納してください。

●工具やジャッキを使用したあとは、指定の場所に確実に格納してください。指定以外の場所に放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●車に搭載されているジャッキはお客様の車専用です。他の車に使用したり、他の車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車に搭載されているジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外に使用しないでください。

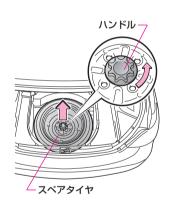
スペアタイヤ

取り出し方

2WD車

1 **ラゲージマット、スペアタイヤカバー、工具袋を取り出します。**

2 **スペアタイヤを取り出します。**

ハンドルを左にまわして取りはずし、スペアタイヤを取り出します。

4WD車

1 **ラゲージマット、スペアタイヤカバーを取り出します。**

2 **スペアタイヤを取り出します。**

ハンドルを左にまわして取りはずし、スペアタイヤを取り出します。

格納のしかた

取り出したときと逆の手順で行います。

●スペアタイヤが確実に固定されていることを確認します。

必ずスペアタイヤの点検を行い、異常があるスペアタイヤは装着しないでください。なお、指定空気圧は運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP.372で正しい空気圧を確認のうえ調整してください。

応急用タイヤについて

応急用タイヤは、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。
できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

警告　応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。

●応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると、タイヤの径の違いがさらに大きくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
タイヤが冷えているときの空気圧（ゲージ圧）：420kPa {4.2kg/cm^2}

●車に搭載されている応急用タイヤは、お客様の車専用です。他のタイヤや、ディスクホイールと組み合わせたり、他の車に使用したり、他の車の応急用タイヤをお客様の車に使用しないでください。走行に悪影響が出て、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急用タイヤは、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。標準タイヤに比べて直径が小さいので、次の事項に注意してください。

●応急用タイヤを装着しているときは、約100km/h以上で走行しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。応急用タイヤは、タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。応急用タイヤはできるだけ早く標準タイヤに交換してください。

●応急用タイヤを装着して突起物などを乗りこえるときは、標準タイヤを装着しているときと同じ感覚で運転しないでください。応急用タイヤ装着時は標準タイヤ装着時に対し車高が変化します。同じ感覚で運転すると車をぶつけるおそれがあります。

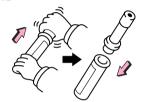
●応急用タイヤにタイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体側にあたったり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。雪道、凍結路で前輪タイヤがパンクした場合は、応急用タイヤを前輪に使用せず、後輪に装着し、はずした後輪タイヤを前輪に装着してからタイヤチェーンを装着してください。

●応急用タイヤを装着しているときは、正確な車両速度が検出できない場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
・ABS
・ブレーキアシスト（VSC & TRC装着車）
・VSC & TRC（VSC & TRC装着車）
・GPSボイスナビゲーション
また、Vフレックスフルタイム4WDシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

発炎筒の使い方

格納場所

助手席足元に備え付けてあります。

発炎筒の使い方

1 発炎筒を組み立てます。

本体をひねりながら取り出し、逆にして挿し込みます。

2 着火します。

キャップの頭部のすり薬でこすると着火します。

発炎筒は正しく取り扱ってください。

●発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●発炎筒を使用中は顔や体に向けたり、近付けたりしないでください。やけどなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。引火して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

発炎筒をトンネル内などで使用しないでください。煙で視界を悪くするのでトンネル内などでは非常点滅灯を使用してください。

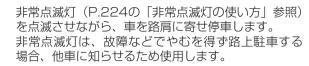
知識

発炎筒について

●発炎時間は約5分間ですので非常点滅灯を併用してください。
●発炎筒には有効期間があります。
本体に表示してある有効期間の切れる前にトヨタ販売店でお求めください。

故障したときは

路上で故障したときは

非常点滅灯（P.224の「非常点滅灯の使い方」参照）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。
（法的にも義務付けられています）

緊急を要するときは発炎筒で合図します。
（前ページの「発炎筒の使い方」参照）

動けなくなったときは

踏切で動けなくなったときは

シフトレバーをⓃに入れて付近の人に安全な場所まで押してもらってください。
脱輪などで動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。
緊急を要するときは発炎筒を使用してください。

道路で動けなくなったときは

シフトレバーをⓃに入れて付近の人に安全な場所まで押してもらってください。

困ったときは、トヨタ販売店へご連絡ください。
「メンテナンスノート」のサービス網／お客様相談テレホン網をお読みください。

パンクしたときは

タイヤの交換

タイヤの交換については、P.50の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

タイヤ交換する前に

1 平らな場所に移動します。

交通のじゃまにならず、安全に作業できる地面が平らで固い場所に移動します。

2 パーキングブレーキをしっかりかけます。

3 エンジンを停止します。

シフトレバーをⓅに入れ、エンジンを停止します。

4 車の存在を知らせます。

必要に応じて非常点滅灯（P.224参照）を点滅させ、人や荷物を降ろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

5 ジャッキを取り出します。

ジャッキの取り出し方については、P.379を参照してください。

6 工具を用意します。

ジャッキハンドル、ホイールナットレンチを用意します。
（P.378の「工具、スペアタイヤ、ジャッキの格納場所」参照）

7 輪止めを用意します。

ジャッキアップする場合には輪止めが必要です。
輪止めについては、トヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。
なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

8 スペアタイヤを用意します。

（P.381の「スペアタイヤ」参照）

タイヤ交換のしかた

1 ジャッキを置きます。

取り替えるタイヤに近いジャッキセット位置の下に置きます。地面が平らで固く、ジャッキが安定することを確認します。

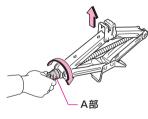
2 輪止めをします。

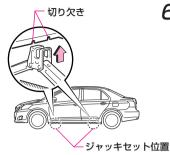
ジャッキアップする位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。
前輪を持ち上げるときは後輪のうしろ側に、後輪を持ち上げるときは前輪の前側に輪止めをします。(図は運転席側後輪を持ち上げる場合を示しています)

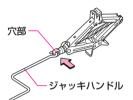
3 ホイールキャップをはずします。

スチールホイール装着車は、ホイールキャップをはずします。
ホイールナットレンチの先を、ディスクホイールとキャップのあいだに挿し込み、タイヤ側にこじるとはずれます。(2〜3箇所、場所をかえて繰り返すと楽にはずせます)
傷付き防止のため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いてください。

4 ナットをゆるめます。

ホイールナットレンチを使用して、図の順序でナットを左にまわし、手で少しまわるくらいまでゆるめます。

5 ジャッキを上げます。

ジャッキのA部を手で右にまわして、車体のジャッキセット位置まで上げます。

6 **ジャッキセット位置（切り欠きのあいだ）にジャッキをかけます。**

ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認します。

7 **ジャッキハンドルを取り付けます。**

ジャッキハンドルを、ジャッキの穴部に確実に挿し込みます。

8 **ジャッキアップします。**

ジャッキハンドルを右にまわして、タイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。

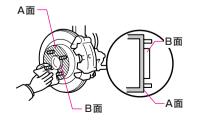
9 **ナットを取りはずします。**

手でナットを左にまわして取りはずします。

10 **タイヤを取りはずします。**

アルミホイール装着車でアルミホイールを直接地面に置くときは、傷が付かないように意匠面を上にして置いてください。

11 **交換するタイヤを取り付けます。**

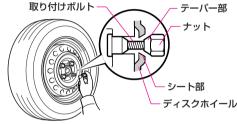
●タイヤを取り付けるときは、ディスクホイールのシート部やディスクホイール裏側の取り付け面のよごれを拭き取ってから取り付けてください。

●図のＡ面・Ｂ面のよごれを拭き取ります。

12 ナットを仮締めします。

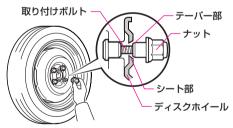
タイヤがガたつかない程度まで手でナットを右にまわして仮締めします。
ディスクホイール取り付けボルト、ナットのねじ部や、ナットのテーパー部（アルミホイールの場合、座金の裏側）のよごれ、異物を取り除いてください。

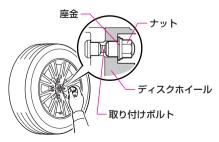
スチールホイール装着車

■タイヤを交換するとき（応急タイヤを含む）

ナットのテーパー部が、ディスクホイール穴のシート部に軽くあたるまで仮締めします。

アルミホイール装着車

■応急用タイヤに交換するとき

ナットのテーパー部が、ディスクホイール穴のシート部に軽くあたるまで仮締めします。

■アルミホイールに交換するとき

ナットの座金が、ディスクホイールにあたるまで仮締めします。

13 車体を降ろします。

ジャッキハンドルを左にまわして車体を降ろします。

14 ナットを締め付けます。

ホイールナットレンチを使用して図の順序でナットを右にまわし、2〜3度にわたり十分締め付けます。
締め付けトルク：
約103N・m｛1050kgf・cm｝

15 センターオーナメントを取り付けます。

アルミホイール装着車は、はずしたタイヤからセンターオーナメントを取りはずして、交換したタイヤに取り付けます。

●応急用タイヤにセンターオーナメントを取り付けることはできません。

16 ホイールキャップを取り付けます。

スチールホイール装着車で、ホイールキャップを取り付けるときは、タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。

●応急用タイヤにホイールキャップを取り付けることはできません。

17 工具、ジャッキ、タイヤを片付けます。

18 タイヤの空気圧を点検してください。

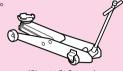
（P.367の「メンテナンスデータ」参照）

パンクしたまま走行しないでください。

●パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤやディスクホイール、サスペンション、車体に損傷を与えるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。
●ジャッキアップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一、ジャッキがはずれると、体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。エンジンの振動でジャッキがはずれたり、車が動き出すなど、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと車体を損傷させたり、ジャッキがはずれ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
・ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。なお、輪止めの代わりに石などで代用する場合、タイヤを確実に固定できることを確認してください。
・人を乗せたままジャッキアップしないでください。
・ジャッキアップするときはジャッキの上や下にものを挟まないでください。
・ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置（P.388参照）にかかっていることを確認してください。
・車体はタイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
●ジャッキアップした車体を降ろすときは、作業者自身やまわりの人が手や足などを挟み、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。
●ディスクホイール取り付けナットが確実に締まっていることを確認してください。確実に締まっていないとディスクホイール取り付けボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
タイヤ交換後はトヨタ販売店でできるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。
締め付けトルク：約103N·m ｛1050kgf·cm｝
●ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付けてください。
（P.52参照）
●ディスクホイールを取り付けるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●タイヤの取り付けには、ご使用のディスクホイール専用のホイール取り付けナットを使用してください。
●ディスクホイール取り付けボルト、ナットのねじ部や、ディスクホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。
つぶれや亀裂などの異常があると、ナットを締め付けても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠警告

車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、リヤサスペンション部などでジャッキアップすると、車両を損傷することがあります。

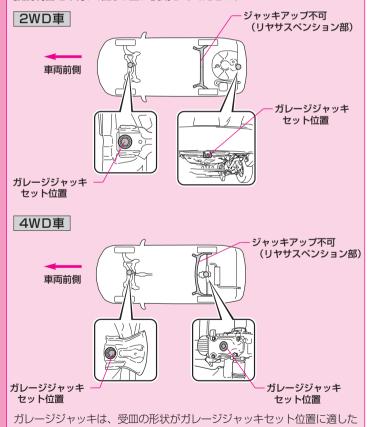
車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。また、ガレージジャッキを使用するときは、必ずしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。

ガレージジャッキ

下図のガレージジャッキセット位置にあててください。

ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキに付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。

2WD車

4WD車

ガレージジャッキは、受皿の形状がガレージジャッキセット位置に適したサイズの受皿タイプを使用してください。

警告 ディスクホイールを取り付けるときは、シート部や裏側の取り付け面が汚れていないか確認してください。

●ディスクホイールを取り付けるときは、シート部や裏側の取り付け面が汚れていないか確認してください。ディスクホイールのシート部やホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にホイール取り付けナットがゆるみ、タイヤがはずれ思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●タイヤを新品と交換するときは、4輪とも指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。

注意 ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。

●ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。ホイールナットレンチのかけ方が浅いと、締め付けるときにホイールナットレンチがはずれて、けがをするおそれがあります。
●ホイールキャップは直接手をかけて取らないでください。また、取り扱いには十分注意してください。けがをするおそれがあります。（ホイールキャップ装着車）
●ホイールキャップをはずすときは、ホイールナットレンチ以外は使わないでください。ディスクホイール、ホイールキャップが損傷するおそれがあります。（ホイールキャップ装着車）
●アルミホイール装着車のディスクホイール取り付けナットは、トヨタ純正アルミホイール専用品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあります。
●ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締め付けないでください。タイヤを取り付けるボルトが折れるおそれがあります。
●傷、変形があるナット、ディスクホイールなどは使用しないでください。
●タイヤ交換後、走行中にハンドルや車体に振動が出た場合は、トヨタ販売店でタイヤのバランスの点検を受けてください。

知 識

はずした標準タイヤの格納について

応急用タイヤの格納場所に、はずした標準タイヤを格納することはできません。はずした標準タイヤは、トランクに置いてください。

バッテリーがあがったときは

バッテリーあがりとは

次のような状態がバッテリーあがりです。

- ●スターターがまわらなかったり、まわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ●ヘッドランプがいつもより暗い。
- ●ホーン（警音器）の音が小さい、または鳴らない。

処置のしかた

押しがけによる始動はできません。
救援車を依頼しブースターケーブルを接続して、エンジンを始動してください。
なお、救援車のバッテリーは12Ｖを使用してください。

1 ブースターケーブルをつなぎます。

バッテリーの⊕端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぎます。

①自車のバッテリーの⊕端子

②救援車のバッテリーの⊕端子

③救援車のバッテリーの⊖端子

④P.395、396の図で指示している箇所（アースをとる）

2 バッテリーを充電します。

救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転を保持し、応急的に自車（バッテリーあがり車）のバッテリーを充電します。

3 自車のエンジンをかけます。

4 ブースターケーブルをはずします。

ブースターケーブルをつないだときと逆の順にはずします。

1KR－FEエンジン搭載車

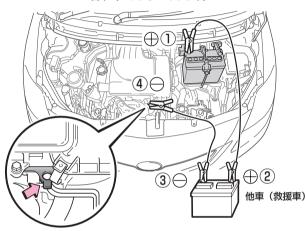
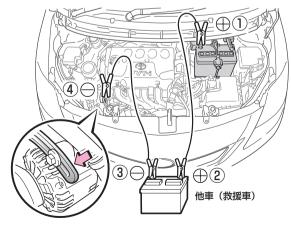
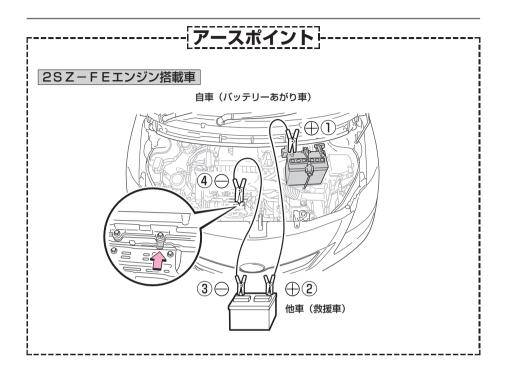
自車（バッテリーあがり車）

2NZ－FEエンジン搭載車

自車（バッテリーあがり車）

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

アースポイント

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンを停止したままランプをつけたり、ラジオ、ＣＤなどを聞かないようにしてください。
●エンジン回転中でも、渋滞などで長時間止まっている場合は、不必要な電装品の電源を切ってください。

警告　火気をバッテリーに近付けないでください。

●必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
・④の接続（Ｐ.395、396参照）は、自車バッテリーの⊖端子につながないでください。バッテリーに直接つなぐと、火花が発生します。
・ブースターケーブルを接続するとき、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。接触させると火花が発生します。
・火気をバッテリーに近付けないでください。
●充電中はバッテリーに近付かないでください。希硫酸の含まれるバッテリー液がふき出す場合があり、目や皮膚に付着すると重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。
●ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、ファンやベルトなどにふれたり、近付いたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●バッテリーを交換したときは、クランプのナットを確実に締め付けてください。確実に締め付けないと、走行中にクランプがはずれてショートするなどして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

●他車（救援車）のバッテリーは12Vでなければなりません。12V用バッテリーか確認してから行ってください。
●バッテリーがあがりやすい場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

●シフトレバーがⓅ以外でエンジンを停止しないでください。シフトレバーがⓅ以外でエンジンを停止した場合、“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードになるため、そのまま放置すると車両のバッテリーがあがるおそれがあります。
また、この原因によるバッテリーあがりから復帰させてエンジンの始動操作をしても、エンジンが始動できない場合があります。この場合、以下の操作を行ったあとでエンジンの始動操作をしてください。
1. シフトレバーをⓅに入れる
2. “エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにする
3. いずれかのドアの開閉操作を行う

車両バッテリー脱着時について

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

●車両は常に“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態（アクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモード）を記憶しているため、車両バッテリーを再接続したときは、接続が断たれる前のスイッチ状態に復帰します。修理などで車両バッテリーをはずすときは、必ず“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにしてから行ってください。
車両バッテリーあがり時に、バッテリーがあがる前の“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態がわからないときは、とくに注意してください。
●車両のバッテリー脱着後、“エンジン スタート ストップ”スイッチを一度押すだけではエンジンが始動しないことがあります。その場合は、もう一度スイッチを押してください。
●車両のバッテリー脱着後、すぐにはエンジンが始動しないことがあります。その場合は、バッテリー接続から約10秒以上待ってからエンジンを始動してください。

バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートとは

次のような状態が、オーバーヒートです。
●高水温警告灯（P.209参照）が点滅したり、エンジンの出力が低下する
●ボンネットから蒸気が立ちのぼる

処置のしかた

1 車を止めます。

車を安全な場所に止め、エアコンを使用している場合はＯＦＦにします。

2 ボンネットの確認をします。

ボンネットから蒸気が出ているか確認します。

■ボンネットから蒸気が出ていない場合
ボンネットを開けてそのままエンジンをかけておきます。

■ボンネットから蒸気が出ている場合
エンジンを停止し、蒸気が出なくなったら、風通しをよくするためにボンネットを開けエンジンをかけます。

3 冷却用ファンを確認します。

ラジエーター冷却用ファンが作動していることを確認してください。ファンが作動していないときは、エンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡してください。

4 エンジンを停止します。

高水温警告灯が消灯したら、エンジンを停止します。

5 冷却水量などを確認します。

エンジンが十分冷えてからラジエーターキャップをはずし、ラジエーターとリザーバータンクの冷却水量の確認、およびラジエーターコア部（放熱部）が著しくよごれていないか、ゴミなどが付着していないかなどを確認します。

6 **冷却水を補給します。**

冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーバータンクに冷却水を補給します。

●冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

7 **トヨタ販売店で点検を受けます。**

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

●移動途中で再び高水温警告灯が点滅したときは、空調の温度調整を最大暖房にし、ファンを最大風量にすることで、ヒーター配管内の冷却水により水温の上昇を抑えることができます。

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量、地面に水もれがないか日頃から点検をしてください。
点検方法は「メンテナンスノート」をお読みください。

警告　**やけどなどしないように十分気を付けてください。**

●ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
また、蒸気が出ていない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分注意してください。

●ラジエーターや補助タンクが熱いときは、ラジエーターキャップを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

●エンジンがかかっているときは、ファンやベルトなどにふれたり、近付いたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

冷却水はエンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水はエンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

けん引について

けん引のしかた

他車にけん引してもらうときは

このけん引フックは、けん引されることを目的としており、他車をけん引するものではありません。
けん引してもらうときは、できるだけトヨタ販売店またはＪＡＦなどに依頼してください。
とくに次の場合は駆動系の故障が考えられますので、けん引される前にまずトヨタ販売店へご連絡ください。
●エンジンがまわっているのに車が動かない。
●異常な音がする。

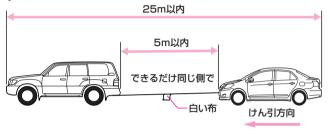
1 **けん引フック、ホイールナットレンチを取り出します。（P.378参照）**

2 **フロントバンパーの運転席側にあるフタを取りはずします。**

フタの左側を押すと、フタが浮き上がり取りはずすことができます。

3 **けん引フックを、ホイールナットレンチを用いて確実に取り付けます。**

4 ロープをかけます。

ボディに傷を付けないようにしてロープをけん引フックにかけます。必ずけん引フックにロープをかけて前進方向でけん引してください。けん引ロープには、0.3メートル平方（0.3m×0.3m）以上の白い布をロープ中央に必ず付けてください。

5 エンジンをかけます。

エンジンをできるだけかけておいてください。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

エンジンがかからないときは、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションＯＮモードにします。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

エンジンがかからないときは、エンジン スイッチを“ ＡＣＣ ”または“ ＯＮ ”にします。

6 発進します。

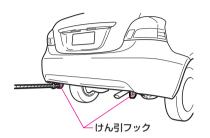
シフトレバーをⓃに入れて、パーキングブレーキを解除します。

7 前の車に注意します。

けん引ロープをたるませないようにし、前の車の制動灯に注意してください。

けん引が終わったら、けん引フックをはずし、バンパーのフタを確実に取り付けてください。

●けん引フック、ホイールナットレンチは、指定の場所に格納します。（P.378参照）

他車（故障車）をロープでけん引するときは

●けん引フックは、一般路上で故障した他車（故障車）をやむを得ずロープによりけん引するためのものです。
●自車より重い車のけん引はできません。自車より重い車をけん引しようとすると、駆動系に悪影響を与えたり、けん引フックや車体が破損するおそれがあります。

警告 **けん引される車は慎重に運転してください。**

●けん引される車は慎重に運転してください。エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるため、通常と同じ感覚で運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●けん引される場合は、シフトレバーをⓃにして、パーキングブレーキを解除してください。
●けん引する車は、急発進などけん引フックやに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。けん引フックやロープが破損するおそれがあります。
また、万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車

●“エンジン スタート ストップ”スイッチをＯＦＦにしないでください。ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車

●キーを抜いたり、エンジン スイッチを“ＬＯＣＫ”の位置にしないでください。
キーが抜けているとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジン スイッチが“ＬＯＣＫ”の位置だとキーが抜けるおそれがあります。

長坂路を下るときは、車両積載車で運搬してください。

●長坂路を下るときは、車両積載車で運搬してください。車両積載車で運搬しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

●4WD車の場合、4輪接地でけん引するか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛び出すおそれがあります。
また、駆動系部品が故障したと思われるときは、必ず4輪を持ち上げて運搬してください。

●けん引速度約30km/h以下、けん引距離約80km以内で、前進方向でけん引してください。この速度、距離をこえてのけん引、または後進方向でのけん引をするとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがありますので、これらの場合は車両積載車などにより4輪とも持ち上げて運搬してください。

●リヤ運転席側けん引フックを使用して他車をけん引するときは、排気管に干渉するおそれがありますので注意してください。

●スタック※脱出のために、他車にけん引してもらうときは、サスペンションアームなどにロープをかけないでください。サスペンションアームなどを損傷するおそれがあります。

●ワイヤーロープは使用しないでください。バンパーに傷が付くおそれがあります。

●スタックしたときは無理にけん引せず、トヨタ販売店やＪＡＦなどに依頼してください。けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。

※ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。

事故が起きたときは

あわてずに次の処置を行ってください

1 続発事故を防止します。

他の交通のさまたげにならないような安全な場所に車を移動し、エンジンを停止します。

2 負傷者がいる場合は、応急手当を行います。

医師、救急車などが到着するまでのあいだ、可能な応急手当を行います。
この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。

3 警察への届け出をします。

4 相手方の確認とメモ（氏名、住所、電話番号）を取ります。

5 ご購入された販売店と保険会社へ連絡します。

車両を緊急停止するには

緊急停止のしかた

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続けます。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーをⓃに入れます。

■シフトレバーがⓃに入った場合

3 減速後、車を安全な道路脇に停めます。

4 エンジンを停止します。

■シフトレバーがⓃに入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。

4 スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“ ACC ”にして、エンジンを停止します。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

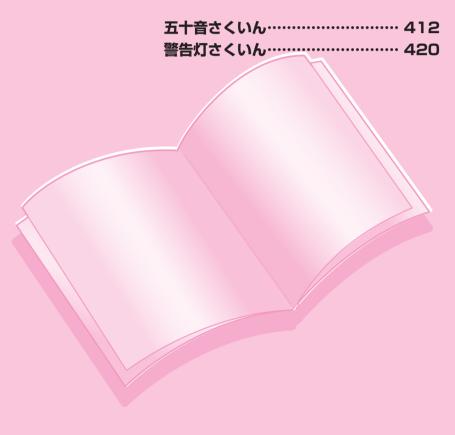
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを3秒以上押し続けてエンジンを停止します。

5 車を安全な道路脇に停めます。

⚠ 警告	走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、次のことをお守りください。

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、キーは絶対に抜かないでください。キーを抜くとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

さくいん

さくいん

五十音さくいん

症状から調べたいときや、万一のときの処置については、色付き文字の項目をご覧ください。
●マークは、スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車の参照ページです。
●マークは、スマートエントリー ＆ スタートシステム非装着車の参照ページです。

あ

い

う

え

お

か

き

く

け

こ

さ

し

す

せ

そ

た

ち

て

と

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

警告灯さくいん